は　ば　ぱ

輕唇音にして子音の一つ。濁音にてばと爲り重濁音にてばと爲る時は重唇音に變ず。清音のはが詞の中音また末音にある時は多く音便にわと發音するを常とす。

は　はの濁音。

ば　はの重濁音。

ぱ　草木の幹、莖、枝より出づる薄平たきもの。酸素を吸ひ炭素を吐くの作用を爲す。

は　葉（名）

は　齒（名）〔一〕動物の上齶と下齶とに並び生ずる骨の如きもの。食物を嚙み碎く作用をなす〔二〕ぎざぎざありて先の尖りたるもの。○「鋸の齒」「櫛の齒」〔三〕下駄の下にある板の足。〔四〕車の輪の緣。

は　刃（名）刀劍の類の切るゝところ。

は　羽（名）〔一〕鳥の毛。〔二〕鳥または飛ぶ虫の翼（つばさ）。〔三〕矢に着けたる鳥の羽。〔四〕鳥の羽にて團扇のやうに造り長き柄を附け貴人の道行く時に傘の如く差し掛くる物。さしばに同じ。〔圖〕〔五〕鳥の名を數ふる詞。……一羽、二羽、四羽、五羽、六羽、七羽、八羽、九羽の時は發音ワと爲り。三羽はばと爲り。十羽はばと爲る。

は　端（名）はしの略。○「山の端」「雲の端」

は　半（名）二にて割り切れぬ數。●奇數。

は　派（名）流儀の枝別れ。●血統の枝別れ。●流儀。○「流派」「一派」

は　波（名）なみ。○「波瀾」「細波」

は　巴（名）ともゑ。

は　葩（名）花びら。

は　霸（名）帝王の命を受けそに代りて政權を執る事。また其人。●大名頭。●旗がしら。○「天下に霸たり」

は　把（名）〔一〕器物の手に取るところ。●柄。〔二〕つかねたるものを數ふる詞。……一把、二把の類は發音ワと爲り。三把は「ばと爲り。十把はばと爲る。「松は木の名」「我は官軍」の類。ワと發音する詞ゆゑわい部にあり。

は　（後）

は（感）笑ふ聲。●はゝゝ。●あはゝ。

は（感）「いかがはせんは」「思ふべしやは」の類。ワと發音する詞ゆゑわの部にあり。

は（場名）場所。

ば（後）〔一〕原因と結果との關係をあらはす詞。●から。●だから。○風吹けば（吹くから）波立つ」「夜ふけぬれば（ふけたから）眠りぬ」〔二〕同時に起る働の關係をあらはす詞。●時に丁度。●ど。○「窓を開けば（開く時に丁度）花散る」「鶯うたへば（うたふと）蝶舞ふ」〔三〕推量の關係をあらはす詞。●たらば。●ならば。○「雨降らば（降ったならば）止めん」「君行かば（行くならば）我も行かん」〔四〕のにの意。○萬葉「卯の花もいまだ咲かねば（咲かぬのに）時鳥佐保の山邊を來鳴きとよもす」

ば（後）清音のばといふ後詞に同じ。ばと續く時。もしくは「あらずんば」の如きん音の下に來れる時濁音と爲れるのみ。……わの部にあるばを見よ」

はい盃。杯（名）さかづき。●猪口。

はい杯（名）〔一〕流動體を器に入れて數ふる詞。○「一杯の水」「數杯の酒」

はい肺（名）動物にある呼吸器の一つ。胸の兩側に位して圓錐狀を爲し。空氣を吸ひ入れて血液を新鮮ならしむる役目を爲すもの。

はい背（名）せなか。●背部。

はい配（名）つれあひ。●配偶者。○「配某氏」△（動）一配す。

はい敗（名）敗れ。●失敗。○「敗を取る」

はい拜（名）拜む事。●拜禮。●おじき。

はい廢（名）止めにする事。●廢止。

はい輩（助名）ともがら。●中間。●等。

はひィ（感）〔一〕返答する聲。〔二〕馬を進ましむる聲。

はい灰（名）火の燃ねたる跡に殘る白鼠色の粉。

はい馬醫（名）馬を療治する醫者。●獸醫。

はい貝（名）一種の貝の名。形、田螺に似て海に產するもの。其肉食ふべく。殼は獨樂に作りて玩貝となす。

ばい枚（名）軍馬に聲を立てさせぬ爲め口に横にくはへさする木。○「枚を銜む」

ばい倍（名）同數の重なる事。●「五十倍」「百倍」

はひいろ **はひいる** 灰色(名) 色の名。白鼠色。
這入(自動四段) 這うて入る。‖又はひろに同じ。
はひいづ **はひいで** 這出(自動下二段) 這うて出づる。
這出(名) 家から這うて出でらるゝ程の距離の地。●家の近邊。○夫木「はひいでの小田」
はいろ 倍臚(名) 雅樂の曲名。
はいらう 肺勞(名) 肺病の一つ。●勞症。●勞咳。
はいばい 賣買(名) 賣り買ひ。●あきなひ。△(動)—賣買す。
はいばん 盃盤(名) 宴席に用ふる盃・皿、鉢の類。
はいにん 賣人(名) 〔一〕賣女。〔二〕商賣人。
はいぼく 敗北(名) 戰に敗れて北ぐる事。●敗走。△(動)—敗北す。
ばいぼく 賣卜(名) 占を營業とする事。
ばいぼくし 賣卜者(名) 賣卜を業とする人。
はいと 隼人(名) 隼人に同じ。
はひどる 奪取(他動四段) うばひ取るに同じ。
はいたう 佩刀(名) 〔一〕刀を腰に佩ぶる事。〔二〕腰に帶ぶる刀。
はいたう 廢刀(名) 帶刀を廢止する事。……維新前までは士人皆帶刀せし維新後に至り其事廢止になりたる時に云へる詞。
はいたう 配當(名) 割り當てる事。●くばりあはす事。△(動)—配當す。
はいどく 拜讀(名) 讀み奉る事。△(動)—拜讀す。
はいとく 賣得(名) 賣りて得たる利益。
はいどく 梅毒。黴毒(名) 病の名。一種の瘡毒にして傳染し易く其害子孫に及ぶもの。●かさ。
はいち 配置(名) 配り置く事。△(動)—配置す。
はいぢょ 賣女(名) 遊女。●女郎。●娼妓。
はいちやうう 拜聽(名) 聽き奉る事。△(動)—拜聽す。
はいてーう 廢朝(名) 故ありて天皇の朝政を休ませ給ふ事。
はひーり (名) 家の入口。●門の内庭。○後撰「妹が家のはひりに立てる青柳に今や鳴くらん鶯の聲」
はいりょ 配慮(名) 心配。●心づかひ。△(動)—配慮す。
はいりやうう 拜領(名) 貴人より物を賜はる事。●恩賜。●頂戴。△(動)—拜領す。
はいりつ 排律(名) 漢詩の一體。律の長篇なるもの。
はいる 配流(名) 流罪に處する事。△(動)—配流す。

はひィる（自動四段）　這ひ入るの略。—入るに同じ。

はるる（自動一段）　齒の浮く。……酸き物を食ひ〻。

（古）

ばいたりん（名）　英語のヴァイオリンより來る。◎西洋より來れる樂器の名。胡弓に似たるもの。

はひィたく（自動上二段）　飛び起きる。○宇治「夢に。云々。おそはるゝと見てはひおきて」

はひィたくる　灰後（自動下二段）　灰の色のみ後れて殘るの意。紫色のさむるを云ふ。……はひかへるを見よ。○源氏「紫の紙の年へにければ灰おくれふるめいたるに」

はひィたし　灰押（名）　灰を押し附け平にする具。

はひィわたる（自動四段）　つひちょと無雜作に這ひゆく位にて往來する意。○源氏「明石の浦は唯はひわたる程なれば。（二）蔓の延ひ廣がり續くを云ふ。

はいか　俳家（名）　俳人。◆俳諧師。

はいか　配下（名）　支配の下にある者。◆手下。

はいが　拜賀（名）　神又は貴人に祝を述ぶる事。

はいかい　俳諧（名）　（一）俳諧歌の略。（二）俗語交りにて作れる連歌。元祿の頃芭蕉出て〻盛になりたる一種の平民詩學。（三）俳諧中の發端の一句。すなはち發句。……「古池や蛙飛び込む水の音」「明月や池をめぐりて夜もすがら」の類。

はいがい　沛艾（名）　馬の踊り狂ふ事。○徒然「沛艾の馬」

ばいかい　媒介（名）　中立ちする事。◆媒妁。◆紹介。

はいかいか　俳諧歌（名）　はいかいうたに同じ。

はいかいうた　俳諧歌（名）　和歌の一種。詞が意味かに諧謔を帶びたるもの。……古今集の「山吹の花色衣ぬしやたれ問へど答へず口なしにして」の類。

はいかいし　俳諧師（名）　俳諧の道に從事する人。

はいかん　肺肝（名）　肺と肝と。◎精神。◆心底。○「肺肝に徹す」

はいがん　拜顏（色）　御目に懸る事。△（動）—拜顏す。

はいがく　廢學（名）　學門を中止する事。△（動）—癈學す。

はひィかくる　這隱（自動下二段）　こそ〳〵と這ひて隱るゝやうに身を隱す。○源氏「深き山里世ばなれたる淚づちなどにはひかくれぬかし」

はひィかへェる

灰返(自動四段)　紫色のさめて灰色に返るを云ふ。◎紫の染物には椿の灰を入るゝ者なればなり。○枕「ねびぢめの織物の灰かへりたる」

はひィよる

這寄(自動四段)　這ひつゝ近寄る。〔字〕にじりよる。○源氏「はひよりて御うしろより取り給ひつ」

ばいやョう

培養(名)　草木の根に培ひ養ふ事。△(動)—培養す。

はいたい

胚胎(名)　〔一〕子種の腹に籠る事。〔字〕身籠る事。〔二〕物事の起因と爲る事。〔字〕きざす事。△(動)—胚胎す。

はいだい

廢帝(名)　癈せられたる天皇。—はいていに同じ。(雅)

はいたか

鷂(名)　鳥の名。◎はしたかの音便。

はいたつ

配達(名)　〔一〕配り屆くる事。〔二〕配達夫の略。……△(動)—配達す。

はいたつふ

配達夫(名)　郵便電信等を配達する人夫。

ばいたらえョふッ

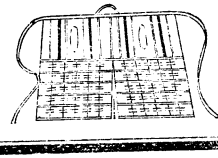
貝多羅葉(名)　印度に產する木の葉。萬年青に似て光輝あり。古へ其葉に經文を彫刻したるもの。

はいたく

廢宅(名)　人の住まぬ家。

はいだて

佩楯(名)　腰より膝を被ふもの〈圖〉



はいれ

齒入(名)　〔一〕下駄の齒を入替ふる事。〔二〕之を營業とする人。

はいれい

拜禮(名)　神佛又は高貴の人に對しての禮式。〔字〕はいらい。〔字〕らいはい。

はいれつ

排列(名)　ならべつらぬる事。△(動)—排列す。

はいれや

齒入屋(名)　齒入を業とする家。又は其人。

はいそ

訴訟(名)　訴訟に負くる事。

はいそう

敗走(名)　敗軍して逃げ走る事。△(動)—敗走す。

はひィつたふッ

這傳(自動四段)　這ふ如くに身を屈めて傳ひ行く。○山家集「はひつたひ折らで躑躅を手にう取る嶺ゝき山の取りどころには」

はひィね

這根(名)　這ひ出でたる根。○夫木「大伴の松のはひねを枕にて高師の濱にまろれしてけ

はひィならし（名）灰を平にならす具。●灰押。

はいらい　拜禮（名）はいれいに同じ。

はいむ　廢務（名）天皇臨御なくして官廳の事務を休むこと。

ばいう　梅雨（名）〔一〕五月雨。●つゆ。〔二〕五月雨の降る季節。

はひィうら　灰占（名）占の一法。灰を火箸にて掻きてする占。○拾玉「寢覺する夜半の埋火かきのけて問ふ灰占もうきみなりけり」

はひのぼる　這登（自動四段）這ひつゝ登る。●にげのぼる。○竹取「椽にはひのぼり給ひぬ」蜻蛉「虫にはひのぼりて」

はひィのる　這乘（自動四段）馬、舟、車に乘るを云ふ。うちのるとひのるに同じ。

はいなっう　背囊（名）兵卒の背部に負ふ革の囊。

はいく　俳句（名）發句。

ばいくわ　梅花（名）〔一〕梅の花。〔二〕練香の名。

はいくわい　俳徊（名）漫歩。●散歩。△（動）—俳徊す。

はいくわん　稗官（名）小説。●稗史。

はいくわん　拜觀（名）拜見に同じ。△（動）—拜觀す。

ばいくわん　陪觀（名）貴人に從ひて能、芝居、花、月等を見る事。△（動）—陪觀す。

はいぐん　敗軍（名）まけいくさ。

はいぐう　配偶（名）つれあひ。●夫又は妻の一人より他の一人を云ふ。

はいやく　賣藥（名）藥屋にて賣る出來合の藥。

はひィまつはる　延纏（自動下二段）蔓の延ひて物にまとはりつくを云ふ。○古今「よそに見て歸らん人に藤の花ばひまつはれよ枝は折るとも」

はひィまぎる　這紛（自動下二段）こそ〳〵と紛れ込む。○源氏「いづこにかばひまぎれて」

ばいまし　倍增（名）二倍三倍と數を增す事。

はひィまじる　延交（自動四段）蔓の延ひわたりて他の草木に交るを云ふ。○源氏「常盤木にはひまじれる蔦の色」

はいけい　拜啓（句）手紙の發端の詞。●啓上仕候。●申し上げます。

ばいげた　（名）貝獨樂に同じ。

はいけっかく　肺結核（名）肺病の一つ。

はいけん 拜見(名) 見奉る事。△(動)—拜見す。
はいふ 配夫(名) 配達夫の略。
はいふ 配賦(名) 割り付けくばる事。△(動)—配賦す。
はいぶ 拜舞(名) 拜禮の舞蹈。陛下より物を賜ばりたる時にする禮。……舞蹈を見よ。
ばいぶる (名) 英語より來る。◎基督教の經文。新約全書舊約全書の總名。●聖書。
はいぶつ 癈物(名) すたれ物。●不用物。
はいぶつ 排佛(名) 佛法を押しのける事。
はいぶつろん 排佛論(名) 佛法の癈止論。
はいぶん 俳文(名) 俳諧に伴ふ文章。俗語交りにして俳諧の趣味を帶びたるもの。
はいぶん 配分(名) くばりわかつ事。△(動)—配分す。
はひィふき 灰吹(名) 煙草の吹殼又は唾を入るゝ筒。
はいィぶし 這伏(名) 寢ころぶ事。●身を自墮落にすること。(枕)
はひィふす (自動四段) 〔一〕寢ころぶ。〔二〕倒れて這ひたる如く伏す。(雅)
はいがゴふッ 配合(名) 取り合せ。●うつり具合。○「色の配合」△(動)—配合す。
ばいごま 貝獨樂(名) 黄蝶(ばい)にて造りたる小兒玩具の獨樂。●異名は……ばいつく。●ばいげた。
はひィえ 這枝(名) 這ひ延びたる木の枝。○散木「須磨の浦や渚に立てる磯馴松はひえを波の打たぬ日ぞなき」
はいえつ 拜謁(名) 御目に懸る事。●御目通りする事。△(動)—拜謁す。
はいえん 肺炎(名) 肺病の一つ。
ばいゑん 梅園(名) 梅の木の花園。
はいてい 廢帝(名) 位を廢せられ給ひし天皇。
はいてい 拜呈(名) 手紙の詞。書面または品物を送り奉るの意。●進上。●呈上。△(副)—拜呈す。
はいてん 廢典(名) 廢止になりたる儀式。
はいでん 拜殿(名) 神社の本殿の前にある建物。參詣人の神拜する處なり。
はひィあひィ 奪合(名) 奪ひ合ふ事。
はひィあひィく (自動四段) 這ふやうな有樣にて歩行く。(雅)
はひィあふ 奪合(他動四段) 互に相奪ふ。
はいざい 配劑(名) 藥を調合する事。△(動)—配劑す。
はひィさす (自動四段) 紫色を染むるに椿の灰を入るゝ

を言ふ。(雅)

はいき 廢棄(名) 廢して棄つる事。△(動)—廢棄す。

はひぎ 波比岐(名) はひり君の意。◎門内の庭を守る神。

はいげふ 廢業(名) 家業又は職業を止むる事。△(動)—廢業す。

はいきん 黴菌(名) 肉眼にては見ねぬ程の黴の如き菌 ●こんま。●ばくてりあ。(科學)

はいきんがく 黴菌學(名) 黴菌を研究する學科。●細菌學。

はいきんしょう 肺炭衝(名) 肺病の一つ。

はいきんしゅう 拜金宗(名) 金錢を無上の寶と崇拜する主義。

ばいきゃく 賣却(名) 賣り拂ふ事。△(動)—賣却す。

はいきしょう 排氣鐘(名) 空氣を排出する鐘形の器械。物理學上の試驗に用ふるもの。

はいいう 俳優(名) (一)わざをぎ。(二)芝居の役者。

はいいう 俳友(名) 俳諧の道の友人。

はいめい 拜命(名) 官職補任の命令を拜受する事。△(動)—拜命す。

はいめん 背面(名) 背中の方。●うしろむき。

はいめん 拜面(名) 御目に懸る事。●拜顏。△(動)—拜面す。

はいみょう 俳名(名) 俳諧の雅號。

はいし 稗史(名) 小說。●稗官。

はいし 背子(名) 唐衣の一名。

はいし 癈止(名) 止めにする事。△(動)—癈止す。

はいじ 癈寺(名) 荒れ果てたる寺院。●無住の寺。

ばいし 倍蓰(名) 數の倍增になる事。△(動)—倍蓰す。

はいしょ 配所(名) 配流せられたる所。○「配所の月」

はいしょ 俳書(名) 俳諧に關する書籍。

はいしゃう 癈娼(名) 娼妓を癈止する事。

はいしゃう 敗將(名) 敗軍の將校。

はいしょう 拜承(名) 手紙の詞。承り奉る事。△(動)—拜承す。

ばいじょう 陪乘(名) 貴人に從ひて其車に同乘する事。

はいしゃうろん 癈娼論(名) 娼妓の癈止論。

ばいしょく 陪食(名) 貴人の前にて同食する事。●御相伴。

ばいしょく 賣色(名) 賣淫。

はいしつ 癈疾(名) かたわ。●不具。

ばひしらがふ (他動四段) 爭ひて奪ひ合ふ。○宇

治「羅刹ばひしらかひて」

はいしん

背進(名)　うしろにすゝむ事。●退却の文字を忌み之に代用する軍事上の詞。△(動)—背進す。

はいじん

俳人(名)　俳諧師。

はいじん

癈人(名)　かたわもの。●不具者。

はいしん

陪臣(名)　臣の又臣。●又家來。……封建時代の藩士の類。

はいしんくわん

陪審官(名)　裁判に立ち會ふ官職。

はいしゃ

齒醫者(名)　齒の療治をする醫師。●齒科醫。

はいしゃ

拜謝(名)　謝し奉る事。△(動)—拜謝す。

はいしゃく

拜借(名)　借り奉る事。△(動)—拜借す。

はいしゃく

媒妁(名)　(一)中立ちする事。(二)中に立つ人。●媒妁人。●媒介。△(動)—媒妁す。

はいじゅ

拜受(名)　受け奉る事。●頂戴。△(動)—拜受す。

はいじゅ

梅樹(名)　梅の木。

はいしゅつ

輩出(名)　同時に群がり出づる事。●引續き出づる事。△(動)—輩出す。○「才媛輩出す」

はいじゅう

陪從(名)　貴人の御側に從ふ事。△(動)—陪從す。

はひィひろごる

延廣(自動四段)　(一)蔓の延びつゝ四方に廣がるを云ふ。(二)物事の世に廣まり行はるゝを云ふ。○古今序「野邊に生ふるかづらのはひひろごり」

はいびゃう

肺病(名)　肺に起る病の總名。……肺結核、肺炎、肺嫩衝の類。

はひィびゃくしん

這柏槇(名)　木の名。柏槇の一種にして地上を這ふもの。

はひィも

(名)　竹の根より生ずる筍に似て小さき芽。

はいも

具母(名)　草の名。はいくりの一名。

はいせい

陪星(名)　衛星に同じ。◎太陽に附屬せる星に又附きたる星の意。

はいせつ

排泄(名)　動物の體内より體外に物を出だす事。……(汗、大小便等を)△(動)—排泄す。

はいぜつ

癈絶(名)　癈れ絶ゆる事。△(動)—癈絶す。

はいせん

盃洗(名)　盃を洗ふ爲に水を入れたる鉢。

はいぜん

配膳(名)　客に膳部を配り据うる事。

はいぜん

陪膳(名)　主上の御食事の時御前に伺候する人。

はいぜん

沛然(形)　宏大なる有樣。

はいせんかたる 肺尖加答爾(名) 肺病の一種。

はいぜんのひと 陪膳人(名) 天皇の御給仕する當番の公卿。(日中行事)

はいぜんのにょうばう 陪膳女房(名) 天皇の御給仕をする役の女官。三位四位の人之に當る。(日中行事)

はいせき 敗績(名) 敗北。△(動)—敗績す。

はいせき 排斥(名) 押しのけ退くる事。△(動)—排斥す。

ばいせき 陪席(名) 貴人と同席する事。△(動)—陪席す。

はいす 拜(他動サ變) 〔一〕をがむ。●おじぎする。〔二〕將軍の官に任ずるを云ふ。○「德川家康を拜して征夷大將軍と爲す」

はいす 廢(他動サ變) やむる。●廢止にする。

はいす 配(他動サ變) 割り當てる。●配る。●めあはす。

はいす 排(他動サ變) 押し開く。●押しのける。●並べる。○「門を排して入る」「衆を排して進む」

はいす (他動サ變) 裏打する。○源氏「紙屋紙に唐の綺をはいして」

ばいす 陪(自動サ變) 貴人の側に侍する。

ばいす 倍(自動サ變) 倍になる。●二倍する。

はいすゐのぢん 背水陣(名) 水をうしろにして陣を取る事。死を決して戰ふの意に用ふ。

はいすう 拜趨(名) 手紙の詞。參上に同じ。

はいずみ 掃墨(名) 胡麻油、菜種油等の油煙。墨に製する料。

はろばろに (副) はるゝにに同じ。●遙に。「難波潟こぎいづる舟のはろゝに○萬葉 ぬれぎ忘れかれつも」

ばば 母(名) 女親。●おかゝさん。

ばば 幅。巾(名) 細長き横の長さ。

ばば 祖母(名) 父母の母。●おほば。●おばあさん。

ばば 婆々(名) 年寄の女。●老女。●老嫗。●ばあさん。

ばば 馬場(名) 馬に乘り習ふ場所。●馬場。●調馬場。●競馬場。

ばばはばじ (名) 小兒の詞。〔一〕大便。〔二〕すべて不潔物。

母刀自(名) 母の敬語。○萬葉「母刀自に我は愛子ぞ」

はばてう　喇喇鳥(名)　鳥の名。百舌に似て鶏冠あるもの。

はばり　刃針(名)　外科醫の器械。平たき針の如きもの。●笹針。●披鍼。●ランセッタ。

はばる　(自動四段)　幅取る。●廣がる。●はびこる。

ははれや　母親(名)　母に同じ。

ははか　朱櫻(名)　木の名。樺櫻。(古)

ははかり　憚(名)　〔一〕憚る事。〔二〕廁の隱し詞。

ははかる　憚(自動四段)　〔一〕差控ふる。●遠慮する。〔二〕心に後れを取る。●一目置く。●怖ろゝ。

ははかる　(自動四段)　はびころの轉。◎はゞる。●ひろがる。○散木「彌陀の身も天つ御空にはばかりて」

ははかた　母方(名)　母の方の血統。●母系。●外戚。

ははからはし　(形。形狀言シク活)　憚るべくある有樣。

ははだたみ　幅疊(名)　物を幅廣く疊む事。

ははたき　(名)　鳥の羽擊つ事。●羽叩き。

ははそ　柞(名)　木の名。葉は柏に似て尖り秋紅葉するもの。●くぬぎ。

ははそばの　柞葉(枕)　母の枕詞。同音の詞を重ねて裝とせるのみ。○萬葉「柞葉の母のみこと」

ははむ　阻(他動四段。下二段)　妨ぐる。●邪魔する。●防きとむる。

ははうへ　母上(名)　母の敬語。●母公。

ははくろ　(名)　草の名。ははくりに同じ。

ははくり　貝母(名)　草の名。莖細くして葉は蕎麥の如く根は芋の如く秋花咲くもの。又編笠百合(あんがさゆり)とも云ふ。

ははくそ　黑子(名)　ほくろの古名。

ははこ　(名)　草の名。母子草の略。○實方集「聞けば淀野に母子つみけり」

ははご　母御(名)　他人の母の尊稱。●御母公樣。

ははこぐさ　母子草(名)　野に生ふる小草の名。葉は蓑(たばこ)に似て莖葉とも一面に白き毛あり。春の末より夏の始にかけて黃なる粒の花さくもの。昔は三月三日に此葉を餅に交へて用ひたり。●異名は……五形(ごぎやう)。●餅よもぎ。●はうこ。

ははこもちひ　母子餅(名)　母子草を搗き交ぜたる餅。昔は三月三日に必ず用ひたるもの。○和泉式部「春の野に色々つめる母子もちひぞ」

ははき　箒(名)　塵を掃く道具。●ばうきに同じ。

はばき 脛巾(名) 古へ旅行などの時脛に纏ふもの。今の脚絆。(圖)

はばきぼし 慧星(名) ほうきぼしに同じ。

はばきぎ 箒木(名) (一)信濃の國伊那郡に園原伏屋といふ處あり。遠くより眺むれば其深林の中に箒を逆樣に立てたる如き木のあるを近よりて見れば何れの楢なりしか遂に見失ふと言ひ傳へたる木。○六帖「園原や伏屋に生ふる箒木のありとは見れど逢はぬ君かな」(二)箒草。

はばきもち 箒持(名) 上古葬送の時箒を持ちて供に立つ役。(記)

はばみや 母宮(名) 母親となり給へる皇女。

はばじ 母字(名) 反切(はんせつ)にいふ詞。父字の下(ちゝと)にある音。

はばし (形。形狀言シク活) はゞからはしに同じ。(今物語)

はばしろ 母代(名) 假に母となり後見する人。(狹衣)

はに 埴(名) ねばつち。●粘土(ねんど)。●へなつち。

はにべ 埴瓮(名) 埴製の瓶。

はにわ 埴輪(名) 埴にて作りたる人形又は牛馬の形。上古貴人の死したる時は墓の周圍に垣の如く半は埋て立て列れたるもの。◎輪の字は周圍を輪の如く取り纏くの意なるべし。

はにわり 埴破(名) 雅樂の曲名。

はにかむ 牟割(名) 陰部に男女兩性を供へたる不具者。(自動四段) (一)齒嚙をする。(二)小兒の怖れ又は恥ぢらふ。

はにざゞふ 半挿(名) はんざふに同じ。

はにんじん 葉胡蘿蔔(名) 胡蘿蔔の若葉。食用にするもの。

はにふ 埴生(名) (一)埴のある土地。(二)埴に同じ。

はにふのこや 埴生の小屋(名) (一)埴にて壁を塗りたる粗造の小屋。(二)たゞ貧しい屋の事。

はにやまびめ 埴山姫(名) 土を守る女性の神。(紀)

はにやす 埴安(名) 土を守る神の名。(紀)

はにま 埴馬(名) 埴にて作りたる馬。●埴輪の馬。

はにし 黄櫨(名) 木の名。黄櫨の古名。

はにし 土師(名) 貴人の死したる時其墓側に土製の人馬などの形を造りて立て置く事あり。此土人土馬の類を作る職工。……後轉じて葬式の事を掌る職掌。

はぼたん 葉牡丹(名) 野菜の名。春の頃其葉紫色に變

して牡丹の花の如くなるもの。●異名は……牡丹栄。●隱元栄。

はほん 端本(名) 全部揃はぬ書籍。●缺本。

はばうき 羽箒(名) 鳥の羽にて造りたる箒。

はべり 侍(自動ラ變) 〔一〕對話もしくは消息文にてある居るの意を敬語に云ふ詞。●御座ります。●候ふ。○枕「おのれがもとにめでたき琴侍り」源氏「此五六日こゝに侍れど」〔二〕勅撰歌集の詞書は天皇に奉るものゆゑ、對話消息ならねど同じ意味の敬語を用ひて書ける處あり。○後撰「あひしりて侍りける人のもとより」〔三〕轉じては對話消息勅撰にもあらぬ自記の文にも同じ敬語を用ふる事あり。……但し是は近古末期の誤用と知るべし。○徒然「德大寺にも如何なる故か侍りけん」(雅)

はべり 侍(助動ラ變) 自動詞のはべりより出でて動詞を敬語にするに用ふる詞。●候ふ。●ます……用方は自動詞のはべりの〔一〕〔二〕〔三〕に準ず。○「見侍り」「聞き侍り」「思ひ侍り」「物し侍り」

はべりたうぶ (自動。又助動。四段) 侍り給ふの音便。◎侍りに同じ。○源氏「みづから逢ひ侍りたうびて」

はべりたまふ (自動。又助動四段) 侍りを尙一層敬語にせる詞。……但したゞ侍りに同じと見て誤なし。○源氏「咲き侍り給ふ」

はべらざめり (自動。又助動ラ變) はべらざるめりの略。◎御座らぬと見ゆる。●居らぬと見ゆる。●ませぬそうな。○竹取「唯事にも侍らざめり」

はべんさう 馬鞭草(名) 草の名。夏の頃薄紫の小さき花の開くもの。眞菊に同じ。

はべめり (自動。又助動ラ變) はべるめりの略。◎御座ると見える。●居ると見ゆる。●ますそうな。○源氏「もろこしには春の錦にしくものなしといひはべめり」

はべし (自動。又助動) 侍りしの略。○源氏「まゐりてはべし」

はと 鳩(名) 〔一〕鳥の名。家鳩、野鳩、雉子鳩、土鳩、珠數掛鳩等其種類多し。〔二〕鳩杖の略。○夫木「鳩てふ杖」

はと　波戸（名）　船着の便利の爲に又は波除の爲に土石にて水中に築き出だしたる堤。◉波戸場。

はと　（副）　大笑する有樣。◉はゝゝと。◉あはゝと。○宇治「人皆はと笑ひけり」

はとろん　（名）　はやごに同じ。

はとば　波戸場（名）　波戸のある場所。◉埠頭。

はとばねずみ　鳩羽鼠（名）　染色の名。濃き紫を帶びたる鼠色。◎鳩の羽の色に似たる故に言ふ。

はとり　服部（名）　機織（はたおり）の約。◎〔一〕機織る事。〔二〕機織る人。（古）

はとり　翳執（名）　翳を手に執り棒げ持つ人。

はとを　鳩尾（名）　鎧の名所。胸の左手の上に着くるもの。◉鳩尾（きうび）に同じ。

はとぞめ　鳩染（きうせん）（名）　染色の名。黄勝なる萌黄。一名は麴塵。◉鳩の毛色に似たる故に言ふ。

はとづゑ　鳩杖（名）　鳩の形を其頭に刻みて附けたる杖。最も老いたる人の用ふるもの。古事は漢土より來る。後漢書禮志に曰く「仲秋の月。縣道皆戸を安んず。民の年七十なる者を比（かんが）へて之に授くるに玉の杖を以てし。之に糜（か）粥（ゆ）を餔（く）ほしむ。八十九十には禮加ふる事あり玉杖の長尺を賜ひ端に鳩鳥を以て飾を爲す。鳩は噎ばざるの鳥なり。老人の噎ばざらん事を欲す」

はとむね　鳩胸（名）　〔一〕胸骨の高く突出てたる事。又は其人。〔二〕鎧の胸の高き所。

はとむぎ　鳩麥（名）　薏苡（すゐい）に似たる草の名。藥に用ふるもの。

はたう　波濤（名）　なみ。○謠曲「高思の波濤を凌ぎ」

はどう　波動（名）　波のうねるやうに運動を傳ふる事。

ばどう　拔頭（名）　雅樂の曲名。一名は宗妃樂。唐土の后嬪妬によりて鬼となり樓上に押籠められ居たるを破り出でゝ舞ふ姿なりと言ふ。又一說には胡人猛獸のために食はれしを其子之を殺して仇を報ぜる形なりとも言へり。亂髮にて怒氣を含みたる面を用ひ時々涙を拭ふ樣をなして舞ふ。

ばどうぱん　馬頭盤（名）　馬の頭の形したる臺盤。天皇の御膳めしあがる時に用ふるもの。（日中行事）

ばどうくわんおん　馬頭觀音（名）　ばどうくわんぜおん

に同じ。

ばとうくわんぜおん 馬頭觀世音(名) 馬の唯水草を念じて餘は知る所なきが如く利益の甚深き觀世音。其像ハ三面八臂なり。【圖】

ばどうゆ 馬桐油(名) 旅人の馬上にて用ふる大なる桐油合羽。

はとのがい (名) 法度(はつど)より起る弊害。

はとのつゑ 鳩杖(名) はとづゑに同じ。

はとぐるま 鳩車(名) 小兒玩具の名。鳩を載せたる如く作りなる車。

はとくさ 大青(名) 草の名。藍の一種。其花は蓼に似たり。◎異名は……大藍葉。◎小藍。

はとふく 鳩吹(自動四段) 人の兩手を合せて山鳩の鳴聲をまね吹きならすを云ふ。秋の頃獵師の鹿を待つにも人を呼ぶにも又鹿ありと他の獵師に知らすにもする事なり。○夫木「今日よりや鳩吹く聲は聞ゆらん朝けの風も秋を告ぐなり」

はとぶえ 鳩笛(名) 小兒玩具の名。鳩の形したる陶器の笛。

はどめ 齒止(名) 車の齒を止むる器械。

はち 鉢(名) 〔一〕印度の食器。○待には僧の食を乞ひあるく器。◎鉢多羅(はちたら)の略。〔二〕それより轉じて我國陶製の食器。皿の深きもの。〔三〕又飯櫃。○「おはち」〔四〕植木鉢の略。〔五〕頭蓋骨の一名。○「鉢あはせ」〔六〕兜の名所。頭の鉢にかぶさるところ。

はち 蜂(名) 蟲の名。翅二つ足六つありて腰細く尻に毒針を藏して敵を防ぐもの。其種類甚だ多し。

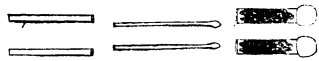
はち 八(數) 〔一〕やつ。〔二〕第八番目。

はぢ 耻辱(名) 耻かしき事。◎耻辱。◎慚愧。○「耻をかく」「耻を見する」

ばち 撥(名) 琵琶。三味線などを搔き鳴らす道具。其形銀杏(いてう)の葉に似たるもの。

ばち

撥。桴。枹(名)　太鼓鞨鼓などを擊つ道具。其形短き棒に似たるもの。先を玉の如く丸くしたるもあり。



はち

【圖】

罰(名)　神佛の咎め。○「罰があたる」

はちゐ

八位(名)　第八の位階。

はちいん

八音(名)　漢土にて云ふ樂器の總名。すなはち金、石、絲、竹、匏、土、革、木、の八種より出づる音。

はぢいる

恥入(自動四段)　深く恥づる。

はぢらふ

恥(自動四段)　恥かしげにてある。○源氏「少しはぢらひたりしがやうやううちとけて」

はちはいどうふ

八杯豆腐(名)　料理の詞。水四杯酒二杯醤油二杯の割にて汁を作り之に豆腐の細く切りたるを入れて煮たる物。

はちばみのは

蜂食羽(名)　熊蜂の羽にて作りたる矢の羽。(義經記)

はちにんげい

八人藝(名)　一人にて多くの人の爲す如く笛を吹き太鼓を打ち三味線を彈きなどする藝。

はちぼく

八木(名)　米の異名。漢字の米の字を解剖したる謎詞。

はちだう

八道(名)　昔の我國政治地理の大區畫。すなはち東海、東山、山陰、山陽、南海、西海、北陸の七道。今は北海道加はりて八道といふ。

はちぢゃう

八丈(名)　伊豆國八丈島より產する絹織物。黃、樺、黑等の色糸を用ふ。絲の强さと色のさめざるを以て名あり。古は美濃尾張等にて之に摸し織りたるが如し。今も上州武州等にて織り出だすあり。

はちぢゃうぐは

八丈桑(名)　木の名。桑の一種。八丈島に生するもの。

はちぢゃうしだ

八丈齒桑(名)　草の名。齒の一種。八丈島に生ずるもの。

はちぢゃうじま

八丈縞(名)　縞柄の名。八丈絹と同じ縞柄。

はちぢん

八陣(名)　兵法にて言ふ陣備への立て方。大江維時の傳ふる處によれば魚鱗、鶴翼、雁行、偃月、鉾尖、衝軛、長蛇、方圓の八法。

はちぢく

八軸(名)　法華經八卷。

はちたと

撥音(名)　琵琶を彈く撥の音。

はちたん

八音(名)　八種の釋迦の音聲。衆生をして其說法を聞き即ち悔悟せしむるものは是等の音あるが爲めと言ふ。すなはち一に極好音、二に柔輭音、三に和適音、四に尊慧音、五に不女音、六に不誤音、七に深遠音、八に不竭音。

はちわうじ

八王子(名)　神の名。素盞烏尊の御子五男三女神を合せ祭る故の稱。

はちかは

撥革(名)　(一)三味線の撥の當る所に貼りたる小さき革。(二)太鼓の撥の當る所に貼りたる小さく丸き革。

はぢかはす

(自動四段)　相互に耻ぢらふ。(雅)

はぢかがやく

(自動四段)　耻づに同じ。かがやくも耻づの意。(雅)

はぢかくる

耻隱(自動下二段)　耻ぢて人に隱るゝ。

はぢがまし

(形。形狀言シク活)　耻づべき有樣。❷耻づかし。(雅)

はちえふ

八葉(名)　紋所の名。八葉の蓮華の形したるもの。

はちえふぐるま

八葉車(名)　御所車の一種。輪木八枚にて成り立ちたる車。……八曜の紋を附くる故の名といふ說は誤なり。

はちだいぢごく

八大地獄(名)　八種の地獄。すなはち等活、黑繩、衆合、叫喚、大叫喚、焦熱、大焦熱、無間。(佛敎)

はちだいりうわう

八大龍王(名)　八種の龍王。すなはち難陀、跋難陀、娑竭羅、和修吉、德叉迦、阿那婆達多、摩那斯、優鉢羅の八龍王。○夫木「時によりすぐれば民のなげきなり八大龍王あめやめ給へ」(佛敎)

はちだいやしゃ

八大夜叉(名)　八種の夜叉。すなはち寶賢、滿賢、散支、衆德、應念、大滿、無比力、密厭。(佛敎)

はちだいし

八代史(名)　支那中古八代の歷史。すなはち晉書、宋書、齊書、梁書、陳書、周書、隋書、唐書。

はちだいしふ

八代集(名)　中古勅撰の歌集の名。すなはち古今、後撰、拾遺、後拾遺、金葉、詞華、千載、新古今の八つ。醍醐天皇以下數代の御宇に成りたるもの故に云ふ。

はちたたき

鉢叩(名)　(一)　瓢箪を叩きて念佛する事。空也上人の初めたる一種の念佛法。❸

空也念佛。〔二〕空也念佛を執行する僧。●空也僧。●鉢坊主。●鉢こくり。

はちつけのいた 鉢付板(名) 兜の名所。鉢へ取り付けたる鍔の第一の板。

はぢなく 耻無く(副) 〔一〕耻ぢずに。○源氏「かたくなしき姿をも耻なく」〔二〕耻かしからず。○源氏「昔の跡に耻なく」

ぱちん (名) ばちんどめの略。

ぱちん (感) 締りたる金具のはづるゝ音。又火に煎られて油炭などの刎ぬる音。△(副)ばちんと。

ぱちんどめ (名) ばちんと音のして締まる金具。女の帶留などに着くるもの。

はちうゑ 鉢植(名) 〔一〕植木鉢に植うる事。〔二〕其植ゑたる草木。

はちのを 八の緒(名) 箏の琴の一の糸より八番目に當る糸。

はちのこ 鉢子(名) 鉢多羅に同じもの。

はちのき 鉢木(名) 植木鉢に植ゑたる木。●盆栽。

葉竹(名) 竹の一種。節に白き粉ありて筍は五六月頃食用とせらるゝもの。

はちく 破竹(名) 竹を竪に割る事。其割るゝ勢の急なるを以て常に物事の急速なる喩に用ひらる。○「破竹の勢」

はちぐわつ 八月(名) 年の第八番目の月。●葉月。

はちやがき 蜂屋柿(名) 柿の一種。もと美濃の國各務郡蜂屋村より產せし大なる澁柿。

はぢゃや 葉茶屋(名) 茶を賣る家。……腰掛茶屋、料理茶屋などに區別しての名。

はちやき 鉢燒(名) 料理の詞。煎鳥などの類。

はちまん 八幡(名) 武を守り給ふ神の名。神體は應神天皇にて豐前の宇佐、山城の男山などに祭られ給ふ。●八幡大明神。●八幡大菩薩。

はちまんばと 八幡鳩(名) 鳥の名。數珠掛鳩の一名。◎八幡大明神の使者と言ひ傳へたる故の名

はちまんざ 八幡座(名) 兜の名所。鉢の頂上に菊座などのある處。◎八幡大明神が此處に宿りて武運を守護し給ふ故に云ふ。

はちまへ 鉢前(名) 座敷の庭にて手水鉢を置くところ。

はちまき 鉢卷(名) 〔一〕頭の鉢を卷く布。昔は軍人のせし事。今は工夫農夫など手拭にて之を爲す。〔二〕すべて鉢卷のやうに物の周圍を卷

き結ぶ事。

はちけん 八間(名) 又八方ともいふ。懸行燈の一種にて大きく平たく臺所の天井などに釣りて用ひらるゝもの。

はちぶ 八部(名) 八種の鬼神。すなはち一に天、二に龍、三に夜叉、四に乾闥婆、五に阿修羅、六に迦樓羅、七に緊那羅、八に摩睺。(佛教)

はちぶはんにゃ 八部般若(名) 釋迦の説きたる八種の般若經。すなはち一に大品般若、二に小品般若、三に放光般若、四に光讃般若、五に道行般若、六に金剛般若、七に勝天王般若、八に文殊般若。(佛教)

はちふく 蜂吹(自動四段) 顔に飛び來る蜂を除く爲め口にて吹き拂ふ事より起りて嫌ひ惡み侮れつくる事に云ふ。今の唾を吐きもくるやうに辭む時のさま。○源氏「何しに參りつらんとはちふく」

はちぶきしゅ 八部鬼衆(名) 八種の鬼畜類。……八部の一説。すなはち一に乾闥婆、二に毘舍闍、三に鳩槃茶、四に薜荔多、五に諸龍衆、六に富婁單那、七に夜叉、八に羅刹。(佛教)

はちぶしゅ 八部衆(名) 八部に同じ。(佛教)

はちこっくり (名) はちこくりに同じ。

はちかこう 八講(名) はっかうに同じ。

はちこくり (名) 鉢叩の僧。

はちあはっせ 鉢合(名) 〔一〕頭と頭とを打當てる事。〔二〕物事の衝き當る事。●撞着。●衝突。

ばちあはっせ 撥合(名) 琵琶三味線など彈き初むる前に調子を調へ試むる事。

はちざ 八座(名) 參議の異名。八人を定員とするゆゑに言ふ。

はちざかな 鉢肴(名) 大鉢に盛りて宴席に出だす肴。

はぢざらし 耻晒(名) 耻を人の前に知らるゝ事。

はちざっく 八虐(名) 支那古代の罪名。すなはち謀反、謀大逆、謀叛、惡虐、不道、大不敬、不孝、不義の八つ。

ばちめん 撥面(名) 琵琶の胴の撥の當る所。

はちみつ 蜂蜜(名) 蜜蜂の巣に貯へたる蜜。味甘美なり。藥用とす。

はちじ 八時(名) 時刻の名。戌の刻。

はちじ 八字(名) 八の字形。△(形)—八字の。○「八字の眉」(副)—八字に。○「髯を八字に生や

す」

はぢしらふロフ　（自動四段）　はちかはすに同じ。●互に耻ぢ合ふ。

はぢしむ　（他動下二段）　耻を與ふる。●辱かしむる。

はちじふシュフ　八十（數）　十の八倍。●やそ。

はちじふはちやシュフハチヤ　八十八夜（名）　暦の詞。立春後八十八日目の日にて太陽暦の五月一、二日の頃に當る。是より霜は最早降らぬと云ふ時節。

はちじふしやがうシュフシヤガウ　八十種好（名）　天と人と一切の愛し好むところの八十種の相貌言動。すなはち、一に頂を見る事無きの相、二に鼻高好にして孔現はれず、三に眉初月の如くにして紺璃瑠の色あり、四に耳に輪輻の相あつて垂成す、五に身堅實なる事那羅延の如し、六に骨際鉤鎖の如し、七に身一時に廻く事象王の如し、八に行く時足地を去る事四寸にして印文現ず、九に爪赤銅の色の如く薄くして細澤あり、十に膝骨堅著にして圓好なり、十一に身清潔なり、十二に身柔輭なり、十三に身曲らず、十四に指長うして纖圓なり、十五に指文莊嚴す、十六に脈深うして現はれず、十七に踝現はれず、十八に身潤澤あり、十九に身自ら持して逶迤せず、二十に身滿足す、二十一に識滿足す、二十二に容儀滿足す、二十三に住處安くして能く動ずる無し、二十四に威一切に振ふ、二十五に一切觀ん事を樂ふ、二十六に面長大ならず、二十七に容貌を正しうして色を撓めず、二十八に面具足にし滿す、二十九に唇頰婆果の色の如し、三十に言音深遠なり、三十一に臍深うして圓好なり、三十二に毛右に施れり、三十三に手足滿せり、三十四に手足如意なり、三十五に手文明に直し、三十六に手文長し、三十七に手文斷せず、三十八に一切惡心の衆生見る者和悅す、三十九に面廣うして姝好なり、四十に面淨滿なる事月の如し、四十一に衆生の意に隨ひて和悅して與に語る、四十二に毛孔より香氣を出だす、四十三に口より無上香を出だす、四十四に儀容獅子の如し、四十五に進止象王の如し、四十六に行法鵞王の如し、

四十七に頭摩陀那果の如し、四十八に一切の聲分具足す、四十九に四牙白うして利し、五十に舌色赤し、五十一に舌薄し、五十二に毛紅色なり、五十三に毛輭淨なり、五十四に眼廣長なり、五十五に孔門の相具す、五十六に手足赤白にして蓮華の色の如し、五十七に臍出でず、五十八に腹現はれず、五十九に細腹なり、六十に身傾動せず、六十一に身持する事重し、六十二に其身分大なり、六十三に身長し、六十四に手足輭淨にして滑澤あり、六十五に四邊の光各一丈あり、六十六に光身を照らして行す、六十七に衆生を等視す、六十八に衆生を輕しめず、六十九に衆生の音聲に隨ひて不增不減なり、七十に說法着せず、七十一に衆生の語言に隨ひて說法す、七十二に音を發して衆聲に報ふ、七十三に次第に因緣ありて說法す、七十四に一切衆生盡く相を觀る能はず、七十五に觀る者の厭足なし、七十六に髮長うして好し、七十七に髮亂れず、七十八に髮旋りて好し、七十九に聲の色青珠の如し、八十に手足德相あり。(佛敎)

ばちびん

撥鬢(名) 男子の結髮の風。德川中世以來の流行にて髮を刺り込み三味線の撥の如くしたるもの。

はちもんじ

八文字(名) 八といふ文字の形。△(形)—八文字の。(副)—八文字に。

はちす

蓮(名) 水草の名。略して。はちすとも云ふ。葉は大きくして傘の如く。莖は水底にあり。花は大きくして紅白の二種あり。根は蓮根と稱し食用とす。實は蜂の巢に似て産食ふべし。故に蜂巢(はちす)の名を受く。……印度にては極樂世界を水邊と爲すが故に此花此葉特に佛法上の淸淨なる植物として用ひらる。

はちす

(名) 木の名。木蓮(もくれん)の略。

はちすば

蓮葉(名) 蓮の葉。○古今「蓮葉の濁りにしまぬ心もて」

はちすのはひィ

(名) 蓮の根を云ふ。◎根は延(はひ)ふもの故に云ふとの說あり。(雅)

はちすのね

蓮の根(名) 蓮根(れんこん)に同じ。

はちすのうへェ

蓮の上(名) 蓮の臺(はちすのうてな)に同じ。○拾遺「一度も南無阿彌陀佛といふ人のはちすのうへ

はちすのうてな　にのぼらぬはなし」

蓮臺(名)　蓮花の上を臺としたる佛の御座。●れんだい。

はちすののり　蓮の法(名)　妙法蓮華經すなはち法華經をいふ。○夫木「いさぎよくはちすののりを寫してそはとも硯の水を添へける」

はちすけ　八介(名)　介の八種。近古武士の名譽官とするもの。すなはち出羽に秋田城介、相模に三浦介、下總に千葉介、上總に上總介、伊豆に狩野介、加賀に富樫介、周防に大内介、遠江に井伊介。

はり　針(名)　〔一〕物を縫ふに用ふる細き鋼の釘やうのもの。〔二〕釣針の略。〔三〕草木の枝などに生ずる針に似たるもの。●とげ。〔四〕蜂の尻にある毒劍。

はり　鍼(名)　〔一〕鍼醫(はりい)の用ふる金銀製の細き針。〔二〕鍼を用ひて治療する事。●鍼治(しんち)。

はり　梁(名)　梁(うつばり)に同じ。棟木を受くる材木。

はり　玻璃(名)　〔一〕水晶。○「淨玻璃の鏡」〔二〕硝子(がらす)。○「玻璃板」

はり　榛(名)　木の名。はんのきに同じ。(雅)

はり　張(名)　〔一〕張る事。〔二〕張る力。〔三〕張りたるもの。……其物をかぞふるにも云ふ。○「提燈一張(ゆばり)」「弓二張」

ばり　(名)　尿の略。●小便。(俗)

ばり　罵詈(名)　惡口雜言。●誹謗。●讒謗。△(動)―罵詈す。

はりい　鍼醫(名)　鍼にて療治する醫者。

はりいた　張板(名)　布切など張りて日に乾す板。

はりはり　(名)　干大根を薄く小口切にして酒醉などに漬けて食用とするもの。

はりばかま　張袴(名)　板引きにしたる紅の平絹の袴。謂はゆる緋の袴。

はりばこ　針箱(名)　裁縫道具を入るゝ箱。

はりぬく　張拔(他動四段)　張拔にする。

はりぬき　張拔(名)　木型(きがた)に紙を幾枚も張り附けて作りたるもの。●張子。

はりを　針魚(名)　魚の名。鱵(さより)に同じ。

はりわたす　張渡(他動四段)　此方より彼方へ長く引き張る。

はりがね　針金(名)　金屬を絲の如く延ばしたるもの。◎元は針を造る材料。針の金の意。

はりがねむし 針金虫(名) 小虫の腹中にある針金の如き虫。

はりがみ 張紙(名) 〔一〕糊にて張り付けたる紙。〔二〕書類などに一端を張り付けたる紙札。●附箋。〔三〕又人に示すための張札。

はりだくみ 張工(名) 經師屋の古名。●張物師。

はりだましひい 張魂(名) 強情張り。●負けじ魂。●勝氣。○盛衰「木曾は張魂なる男にて」

はりたけ 針茸(名) 菌の名。鹿茸に同じ。

はりだし 張出(名) 〔一〕張り出す事。〔二〕張り札。●掲示。

はりだす 張出(他動四段) 〔一〕張りて外に出す。〔二〕張札する。

はりづつ 針筒(名) 針を入れて仕舞ひ置く筒。

はりつく 張付(他動下二段) しっかりと張る。●ひったりと張る。●離れぬやうに張る。

はりつけ 磔(名) 張付の意。身體を木などに縛り附け鎗を以て突き殺す刑罰。●十字架。

はりねずみ 針鼠。蝟(名) 獸の名。鼠に似て全身に針の如き毛あるもの。

はりなすび 針茄子(名) 草の名。蔓陀羅華の一名。

ばりん 馬簡(名) 草の名。花も葉も菖蒲に似て葉の捩れたるもの。一名は捩菖蒲。

はりむしろ 張筵(名) 物の覆ひとして上に張る筵。○枕「雨降らぬ日張筵したる車」

はりのかがみ (名) 玻璃にて作れる鏡。地獄閻魔王の驅にありといふもの。—淨玻璃の鏡に同じ。

はりのみみ (名) 針の先の糸通す穴。

はりくら 張鞍(名)革を張りて包みたる鞍。

はりやる (他動四段) 物を張りつめて破るを云ふ。○伊勢「うへのきぬの肩をばりやりてけり」

はりやま 針山(名) 裁縫道具の名。きれにて綿を包み針を立ておくもの。

はりま 梁間(名) 建築上の詞。桁行に對して梁の長さをいふ。○「梁間五間」

はりまだり 擂磨折(名) 折烏帽子の一種。……赤松折を見よ。

はりふだ 張札(名) 公衆に知らする爲に張り附くる紙札。●掲示。

はりふぐ 針河豚(名) 魚の名。針千本の一種。

はりぶくろ 針袋(名) 針を入るゝ袋。

はりこ 張子(名) 中を空虛にし紙にて張りたるもの。

○「張子の虎」

はりごと 張言(名) 言ひ張る言。●いひはり。●強情張り。○新撰六帖「人は押したるはりごとなせそ」

はりこがひ 張子貝(名) 張子にて作りたる貝の形。香など入るゝもの。

はりこむ 張込(自動四段) 〔一〕物を中に入れて張る。〔二〕奮發する。●熱心になる。

はりごし 張輿(名) 輿の略式なるもの。疊表にて張りて押し縁打ちたる輿。

はりあひ (名) 〔一〕張り合ふ事。●競爭。〔二〕抵抗力。●希望。○「張合がぬける」

はりあひぬけ (名) 張合の拔ける事。●失望。●落膽。(俗)

はりあふ (自動四段) 互に競ふ。●競爭する。●抵抗する。

はりあふき 張扇(名) 疊みたるまゝ紙にて張り固めたる扇。謠曲などの拍子を打つ稽古に用ふるもの。

はりさいてんにょ 波利采天女(名) 沙竭羅龍王の第三女にして牛頭天王の后と爲る。(佛教)

はりさく 張裂(自動下二段) 強く張りて遂に裂くる。

はりさし 針刺(名) 女の針を刺して仕舞置く道具。

はりき 馬力(名) 〔一〕荷車の一種。馬に挽かするもの。〔二〕蒸氣力を測るに云ふ詞。すなはち馬幾足にて動かすに當る丈の力。一馬力は一抄時間に七十五キログラムの重量を一メートルの高さに輸上するの力を云ふ。

はりぎり 針桐(名) 木の名。桐の一種にして幹に刺多きもの。●異名は……しはぢ。●ほほだら。●針楸。

はりきる 張切(自動四段) 十分に張る。●全力を盡して張る。

はりゆみ 張弓(名) 引きしぼりて十分に張りたる弓。

はりめ 針目(名) 針の跡。●縫目。

はりめだか 針目高(名) 魚の名。目高の小なるもの。

はりめごろも 針目衣(名) はりめぎぬに同し。

はりめぎぬ 針目衣(名) 種々のきれを縫ひ合せたる衣。

はりみち 墾道(名) 新に開墾せる道路。●新道。(萬葉)

はりし 針師(名) 針を造る職工。

はりしづむ (他動下二段) 琴の糸を張りたり弛めたりするを言ふ。○源氏「女はえはりしづめじ

はりしごと　針仕事(名)　衣類など縫ふ事。●裁縫。

はりひぢ　張臂(名)　臂を左右に張る事。威を示すさま。

はりひさぎ　針楸(名)　木の名。針桐(はりぎり)に同じ。

はりもの　張物(名)　〔一〕衣類など洗ひて日に乾すため糊にて板に張り附くる事。又は其張り附けたるもの。〔三〕紙を糊にて張る事。表具の類。

はりものし　張物師(名)　表具師。●經師屋。

はりせんぼん　針千本(名)　魚の名。北海に産し全身に針のあるもの。

はりすひいし　針吸石(名)　磁石の古名。

はりすり　針磨(名)　針を造る職工。●針師。

はりすり　榛摺(名)　榛の木の皮の汁にて染むる事。上古の衣類の染色に用ひたるもの。

はね　跳(自動下二段)　飛び躍る。●走る。●ほどばしる。●彈じくる。

はね　刎(他動下二段)　首を斬り落す。

はね　撥(他動下二段)　筆棒などの先を押し付けて上へ拂ふ樣にする。●はじく。●擇みて投げ棄つる。

はぬひ　端縫(名)　きれの端を細く折り込みて縫ふ事。●はしぬひ。

はぬふ　端縫(他動四段)　端縫ひする。●端を縫ふ。

はぬけ　齒拔(名)　齒の拔けたる人。●老人。

はぬけどり　羽拔鳥(名)　羽の脫け落ちたる鳥。○新六帖「夏草の野澤がくれの羽拔鳥」

はぬき　齒拔(名)　齒を拔く事。●齒科醫。

はる　春(名)　草木の芽が張るの意。⊙四季の第一。太陰曆正月より三月まで。大陽曆にては二三四の三ヶ月。

はる　張(他動四段)　〔一〕物を押し擴ぐる。〔二〕物を引き延ばす。〔三〕物を擴けて糊にて張り付くる。〔四〕つっぱり出だす。〔五〕板など打ちつくる。

はる　張(自動四段)　〔一〕草木の芽の出づる。●萌え出づる。〔二〕延ぶる。●開くる。●擴がる。●充つる。〔三〕見張る。●看守する。〔四〕氷の結ぶ。〔五〕絹布を板引にして艷を出だすを云ふ。○枕、褶(ちちき)またはりたるもあまた奉りて」

はる　晴(自動下二段)　〔一〕雲霧などの去りて空の清く

なる。〔二〕雨雪などの降り止む。〔三〕心中の憂、恨、疑等の全く去る。

はる

墾（他動四段）　土地を新に開く。●開墾する。

腫（自動下二段）　腫物又は打傷などにて腹れあがる。

はる

（他動四段）　拳にて擊つ。○「頭をはる」

はるばるはるばる

春春（名）　毎春。（後拾）

遙々（副）　遙に〳〵。●遠く〳〵。（又）—はるゝ〳〵と。（形）—はるゝの。

はるばるごとに

春々毎に（副）　春毎にに同じ。○宇治「めぐりくる春々毎に櫻花いくたび散りき人に問はばや」

はるばな

春花（名）　春咲く花。（歌詞）

はるばなの

春花の（枕）　春の花の如くの意にてたふとしうつろふめづらしにほふさかゆさかりなどに掛けたる枕詞。（萬葉）

はるに

（副）　遙にに同じ。○伊勢「目もはるに」

はるべ

（名）　春槃（はるはば）の約ならんとの説あり。◎春さき。○古今「今は春べと咲くやこの花」

はるとりの

春鳥の（枕）　春鳥は彼方此方とさまよひ遊ぶものなれば泣きさまよふ事に言ひ掛け。又その鳴く音を人の泣く音に言ひ掛けたる枕詞。○萬葉「春鳥のさまよひぬれば」同「春鳥の音のみなきつゝ」

はるをしみづき

春惜月（名）　太陰暦三月の異名。

はるか

遙（名）　遠方。○宇治「はるかより人の聲多くしてとどめき來る音す」

はるか

遙（副）　〔一〕遠く離れて。〔二〕久しく隔てゝ。（又）—はるかに。△（形）—はるかなる。

はるかたまけて

（句）　春方向けての意。◎春に向ひて。●春の時候に爲りて。○萬葉「梅の花散りまがひたる岡邊には鶯なくも春かたまけて」

はるかげに

遙氣に（副）　遠そうに。●久しそうに。（雅）

はるかげなる

遙氣なる（形）　遠そうなる。●久しそうなる。（雅）

はるかぜ

春風（名）　春吹く風。

はるかぜの

春風の（枕）　音の枕詞。春には意なし。たゞ風の音と言ひ掛けたるなり。○萬葉「春風のおとにし出なば。」

はるかす

（他動四段）　〔一〕晴らす　はるす　はるくるに同じ。〔二〕障るものなく遠く見晴らす。

○祝詞式「皇太神の見はるかします四方の國」

はるがすみ
はるがすみ

春霞(名)　春立つ霞。(歌詞)

春霞(枕)　春霞の霞むといふをかすがに掛け。立ち居るといふを井の上に掛け。春霞の立つといふを立田に掛けたる枕詞。○萬葉「春霞かすがの里の植小水葱」○「春霞井上ゆたゝに道はあれど」古今「春霞立田の山の鶯の聲」

はるつかた

春つ方(名)　春の頃。

はるうへ

春上(名)　東宮。=春の宮に同じ。

はるのぢもく

春除目(名)　春正月に行はるゝ除目。縣召に同じ。

はるのなゝくさ

春の七草(名)　正月七日摘みて祝ふ七種の若菜。其名を數へたる古歌あり。曰く、「芹、薺、五形、繁蔞、佛の座、鈴菜、鈴白、これぞ七草」

はるのみや

春宮(名)　東宮に同じ。〔一〕皇太子殿下の御所。〔二〕皇太子殿下。(雅)

はるのみやびと

春宮人(名)　東宮の官吏。○後撰「五月雨の春の宮人來る時は時鳥をや鶯にせん」

はるく
はるくはゝる

(他動下二段)　晴らすに同じ。

(句)　春の日數の餘分に加はる。太陰曆にて春三ヶ月の内に閏のあるを言ふ。○古今「櫻花春くはゝれる年だにも人の心にあかれやはせぬ」

はるくさ
はるくさを

春草(名)　春の若草。

春草を(枕)　春草を馬が食ふの意を昨山に言ひ掛けたる枕詞。○萬葉「春草を馬咋山ゆ越ゑ來なる雁の使は宿すきぬなり」

はるくさの

春草の(枕)　春の若草の如くの意にてめづらし、しげしに掛けたる枕詞。○萬葉「春草のいやめづらしき」同「春草のしげき我戀」

はるやなぎ

春柳(枕)　春の柳を鬘にするといふ意にてかづらの枕詞。○萬葉「春柳葛城山に立つ雲の」

はるやまの

春山の(枕)　春山はしなやかなるものなればしなひに言ひ掛け又霞みわたりて奥の知られぬものなればおぼつかなきに言ひ掛けたる枕詞。○萬葉「春山のしなひさかねて」同「春山のおぼつかなくも思ほゆるかも」

はるまちづき
はるまけて
春待月(名)　太陰暦十二月の異名。
(句)　はるかたまけてに同じ。○萬葉「春まけてものがなしきに」

はるけし
遙けし(形。形狀言ク活)　遙なる。○拾遺「極樂はるけき程と聞きしかど」

はるげしき
春景色(名)　春の景色。●春光。●春色。

はるぶくろ
春袋(名)　昔し女子の吉例として正月に縫ひたる袋。

はるふす
(他動下二段)　頭をはりたふす。(今物語)

はるご
春蠶(名)　春蛻化する蠶。

はるごろ
春頃(名)　春の頃。(後拾遺)

はるごと
春毎(副)　毎春。(又)—春毎に。(形)—春毎の。

はるごり
春伐(名)　春の時節に木を伐る事。○萬代「春ごりの柴積車」

はるごま
春駒(名)　〔一〕春の野に放ち飼ふ駒。〔二〕竹の上端に駒の頭を付け下端に車をつけたる小兒の玩具。◎春乘りて遊ぶ故の名。

はるされば
(句)　春になれば。●春來れば。(雅)

はるさき
春先(名)　春の盛。

はるさめ
春雨(名)　春降る雨。

はるぎ
春着(名)　春着る衣類。●正月着の衣裳。

はるめく
(自動四段)　春らしくなる。●春の氣色があらはるゝ。

はるび
春日(名)　〔一〕春の空ゆく日。○「わたる春日」〔二〕春の晝。○「永き春日」(歌詞)

はるびを
(名)　腹帶の轉。馬の腹を締むる帶。

はるびの
春日を(枕)　春日のといふに同じ。春日の霞む意にてかすがに言ひかけたる枕詞。この枕詞より起りて春日をカスガと讀む事になれり。○萬葉「はるびをかすがの山の」

はるぜみ
春日の(枕)　春日の霞む意にてかすがに言ひかけたる枕詞。○紀「春日のかすがを過ぎ」

はるす
春蟬(名)　虫の名。春の末より鳴き初むる蟬。
(他動四段)　晴らす。●はるかす。●開く。○祝詞式「大御鏡の面を押しはるして見そなはす事の如く」

はるすすき
春薄(名)　柳の異名。

はたど
羽音(名)　鳥の羽叩く音。

はたり
羽織(名)　〔一〕衣服の上に打ち掛くる着物。〔二〕藝妓の異名。……文化文政の頃の詞。女にして羽織を着用せし故の名。

はおる　（他動四段）　衣服の上にちょと打懸けて着る。帶を結びたる上に引っ懸くる。（俗）

はわう　霸王（名）　諸侯の頭領。●旗頭。

はわうじゅ　霸王樹（名）　草の名。さぼてん。

はをく　破屋（名）　破れたる家。●あばらや。

はわかれ　歷齒（名）　〔一〕齒並。〔二〕齒の透間。

はわけ　葉分（名）　葉の間々をかき分くる事。●又同じやうの働に見ゆる事。○「葉分の風」「葉分の波」「葉分の月」「葉分の雪」（雅）

はか　墓（名）　屍を埋葬せる所。●塚。●むしょ。

はか　果（名）　めあて。●際限。○後撰「いづこをはかと」

はか　（名）　〔一〕稻を植ゑ又は刈る時其田地を區劃して稱ふる詞。……たとへば一町の田を三つに分け一はか二はか三はかと立て〻一はかより植ゑはじめ二はか三はかと順次に植ゑゆくといふ類なり。○萬葉「秋の田の穗田の刈ばか」〔二〕轉じて仕事の進歩を言ふ。○「はかがゆく」「はかどる」

（名）　鷸（もち）にて鳥を捕る具。＝はごに同じ。

はが　馬鹿（名）　〔一〕愚痴。●愚鈍。●愚物。●愚者。●愚人。〔二〕貝の名。馬鹿貝の略。

ばか　馬鹿　愚なる。●過度なる。（形）—馬鹿な。（副）—馬鹿に。

はかい　破戒（名）　佛門の戒律を破る事。○「破戒の僧」

はがひィ　齒貝（名）　貝の名。寶貝に同じ。

はがひィ　羽交（名）　鳥の左右の翼の交叉して重なる所。

はがひィしめ　羽交締（名）　鳥の羽交のやうに組み合せて締むる事。

はかば　墓場（名）　墓のある場所。●墓所。●墓地。

はかばかし　（形。形狀言シク活）　はかのゆく有樣。●際立ちたる有樣。●しっかりとしてゐる。

ばかばかし　（形。形狀言シク活）　馬鹿らしい。●あほらしい。

ばかばやし　馬鹿囃子（名）　東京にて祭の山車（だし）などに用ふる一種の音樂。

はかどり　捗取（名）　仕事の進み。

はかどる　捗取（自動四段）　捗が行く。●片づく。●早く運ぶ。

はかり　秤。權（名）　物品の輕重を量る器械。其製種々あり。

はかり　量（名）　桝にて量りたる分量。○「はかりがわる

はかり（名）い」目あて。●限り。○夫木「吉野山雲をはかりに尋れ入りて」

はかり（名）血の流れたる跡。●のりのあと。○人丸集「鹿のはかり」

ばかり（助名）程。●頃。○源氏「九月七日ばかりなれば」

ばかり計（後）〔一〕のみ。●だけ。○古今「深草の野べの櫻し心あらば今年ばかりは墨染に咲け」〔二〕ほど。くらゐ。○伊勢「比叡の山を二十ばかり重れあげたらん程して」

はかりべり斗耗（名）桝にて量り見て前より減りの立つ事。

はかりなきいのちのほとけ（名）佛の名。無量壽佛の譯語。◎阿彌陀佛（謠曲）

はかりなきいのちのあるくに（名）無量壽國の譯語。◎極樂世界。（雅）

はかりむし（名）虫の名。尺蠖。

はかりごと謀（名）〔一〕計略。●策略。●謀計。〔二〕人を欺く手段。

はかりごつ（他動四段）〔一〕謀事すの約。●謀をめぐらす。●議する。〔二〕欺く。

はかりざ秤座（名）德川時代に特許を得て秤を賣る處。

はかりざら秤皿（名）秤の一方に釣り下げて量るべき品物を載するための皿。

はかりざを秤竿（名）秤の目を刻みたる竿。

はかりめ秤目（名）〔一〕秤竿に刻みたる量目の點。〔二〕秤に懸けたる重さ。●かけめ。

はかりし秤師（名）秤を作る職工。

はかる（他動四段）〔一〕（計）心の中にて積りを立つる●考ふる。〔二〕（詢）相談する。〔三〕（謀）計略を廻らす。〔四〕（謀）欺く。●だます。〔五〕（計）員數を數ふる。〔六〕（度）寸法を指す。〔七〕（量）秤に懸けて輕重を見る。〔八〕桝に入れて多寡を見る。〔九〕（測）寒暖計、測量器および其他の器械にて物の度を見る。

はかはら墓原（名）墓のある廣場。

ばかがひィ馬鹿貝（名）貝の名。蛤に似て其肉赤きもの。世人よく汁に入れ又ば酢に漬けて食す。

はがた齒形（名）嚙みたる痕。

はかたたり博多織（名）絹織物の一種。筑前國博多の名產。

はがため　齒固（名）　年の始に堅き物を食すれば齒を固むるとて昔し正月三ヶ日の内に猪肉、鹿肉、押鮎、鹽鮎、大根、餅の類を食ひて祝ふ事。後世は唯餅をのみ用ふ。

はがね　鋼（名）　刄物の燒刄に用ふる鐵。●鋼鐵。

はかなだつ　（自動四段）　はかなき有樣である。○枕「屋のさまはかなだちて」源氏「手ははかなだちて」

はかなゝう　（副）　はかなくの音便。

はかなぶ　（自動上二段）　はかなだつに同じ。（雅）

はかなごと　（名）　はかなし事。はかなし言に同じ。

はかなし　（形。形狀言ク活）　確かならぬ有樣。●定め難き有樣。●脆き有樣。●なんでもない。●ついちょうと。●つまらない。●いたづらに。●かひなし。●なさけなし。

はかなしごと　（名）　取留のなき事。●わけもない事。○源氏「かやうのはかなしごともをまぎるゝ事なきまゝにこなたかなたと思し惱めり」

はかなしごと　（名）　取留のなき言。●くだらぬ話。●雜談。○源氏「今宵は少し打とけてはかなしごともいふ」

はかなもの　（名）　弱き奴。役に立たぬもの。（雅）

はからひ　計（名）　計らふ事。●處理。●處置。

はからふ　計（他動四段）　計る。●謀議する。●處置する。

はからず　圖らず（副）　思ひも寄らず。●思ひの外に。●不圖。

はがふ　葉替（自動下二段）　葉替をする。○後拾「葉かへぬ谷の岩根松かな」

はかく　破格（名）　先例に由らぬ事。●格式を破る事。

はがくれ　葉隱（名）　葉の陰に隱れて現はれぬ事。○山家集「葉がくれに散りとゞまれる花のみゞ忍びし人に逢ふ心地する」

はかま　袴（名）　〔一〕衣服の上に腰より下に着くる袋やうのもの。時代により其制種々あり。〔二〕緋の袴。〔三〕德利の座。〔四〕稻麥などの莖の根の方を包む表皮。

はかま　褌（名）　上古衣類の一つ。今の猿朕の如き下着。

はがま　齒釜（名）　周圍に鍔の如きものある釜。

はかまねり　墓參（名）　墓所への參詣。●ぼさん。

はかまぢ　袴地（名）　袴に適する切地。

はかまのう　袴能(名)　能樂演舞の一法。裝束を用ひず。唯袴のみ着けてするもの。

はかまごし　袴腰(名)　袴の名所。腰にあたる所に板又は厚紙を包みたるところ。

はかまぎ　袴着(名)　童兒の初めて袴を着る祝ひ。……三歳より七歳までの間に行ふ。德川時代には五歳と定まりて上下着とも稱へたり。

ばかげる　(自動下二段)　馬鹿らしくある。(俗)

はがへェ　羽替(名)　鳥の羽の拔け替る事。○夫木「雪ふれば深山鳥の羽がへして横の楢に鷺ぞ群れゐる」

はがへェ　葉替(名)　草木の葉の生ひ替る事。○拾遺「ほし鷹のとかへる山の椎柴の葉がへはすとも君はかへさじ」

はがき　端書。葉書(名)　〔一〕紙の切端に書きたるもの。〔二〕一種の郵便用紙。

はがゆし　齒痒(形。形狀言ク活)　意に滿たずしていらたつ有樣。●他の爲す事のもどかしく思はる丶有樣。

はがみ　齒嚙(名)　〔一〕眠り居ながら齒を嚙みて音を立つる事。●齒ぎしり。〔二〕憤慨して知らず識らず齒を嚙みしばる事。●切齒。〔三〕動物の戰ひんとして齒を嚙みしばる事。○「獅子の齒がみ」

はかし　博士(名)　はかせに同じ。(榮花)

はかし　佩刀(名)　佩きを延べたる詞。●貴人の御太刀。○紀「みはかし」

はかじるし　墓標(名)　墓標の木又は石。

はかしょ　墓所(名)　墓所。●墓地。

はかもり　墓守(名)　墓の番人。

はかもなし　(形。形狀言ク活)　〔一〕跡はかもなきの意。○和泉式部集「はかもなき宵の夢路にあくがれにけり」〔二〕限なきの意。○源氏「はかもなくおほどき給へる女の」〔三〕かひもなきの意。○空穗「何のはかもなくて歸りぬ」

はかせ　博士(名)　〔一〕昔し大學寮陰陽寮等に置かれたる官名。其道の碩學もしくは其家の人が之に任ぜらるるもの。紀傳博士、明經博士、天文博士、曆博士、醫博士の類。〔二〕識者。●學者。●碩學。●須儒。〔三〕外國學位のドクトルの譯語。〔四〕現今文部省より出づる學位の一つ。●はくし。〔五〕音樂の

はかせ 節附。●節博士。

はかぜ 佩刀(名) はかしに同じ。

はかぜ 羽風(名) 鳥の羽を動かすために起る風。

はかすは 葉風(名) 葉を吹く風。

はかす 齒滓(名) 齒屎の古言。

はかず 佩(他動四段) 佩くの延音にて敬語の時に用ふ。●佩き給ふ。(古)

はかず 羽數(名) 鳴の羽搔する數。(長秋詠藻)

はかず 葉數(名) 草木の葉の數。○于載「松山の松の葉數」

はがす 剝(他動四段) 剝ぐに同じ。●むく。●放す。

ばかす 化(他動四段) 狐狸の人をたぶらかす。

はた 畑。畠(名) 穀物野菜などを作る小さき田地。●はたけ。

はた 機(名) (一)織物を織る道具。(二)機にて織りたるもの。

はた 旗(名) 布、絹もしくは紙を張りて竿の上に掲げ神祭、佛事、祝賀、軍陣の儀式に用ひ又は諸種の目標として高く掲ぐるもの。

はた 鰭(名) 魚の鰭。(古)

はた 端(名) 端に同じ。●緣。●ふち。●ほとり。○二舟のはた」「海のはた」

はた 二十(數) はたち。●にじふ。

はた 將(副) 又。●も亦。●それも亦。●さすがにやはり。●なぜに又。●又或は。

はた 肌。膚(名) (一)動物の皮膚。(二)何物にても動物の皮膚に似たる外面の處。

はた (名) 英語のバターより來る。◎西洋料理の食品。牛乳を煉りて作りたるもの。

はたい 齒代(名) 車の損料。

はだい 馬代(名) 昔し馬の贈物に代用せし金。大馬代は黃金一枚。小馬代は南錄一片。

はたいろ 旗色(名) (一)戰陣にて旗の進退する模樣。(二)轉じて勝敗の樣子。

はたいた 鰭板(名) 板塀。

はたばり 機張(名) 織物の幅。○職人盡歌合「白布の せのう。はたばりも尺もよく候ふ」

はたばる (自動四段) はゞる。●廣がる。○枕「青鈍の指貫のはたばりたる」

はたばかま 肌袴(名) 猿股引。●猿股。

はたはた 蝦蟆(名) 羽をはたはたさする故の名。◎はたはたの一名。

はたはた　雷魚(名)　はたゝがみのする時群れ集まる魚なれば云ふ。◎北國の海に産する魚にて大さ七八寸銀色にして冬多く捕るゝもの。

はたぼこ　幡鉾。旗鉾(名)　〔一〕小さき幡を附けたる鉾。寺にて佛事の時用ふるもの。〔二〕旗竿。

はたと　(副)　〔一〕物事の行詰る時又は撞着したる時などに形容する詞。○「はたと當惑」〔二〕手などを拍つやうの音の形容。○手をはたと打つ」「はたと膝を打つ」

はたどの　機殿(名)　機織る家。(古)

はたち　二十(名)　二十歳。

はたち　二十(數)　にじふ。

はたちあまりいつつのすがた　(名)　二十五菩薩を云ふ。○續千載「紫の雲ぼれゆきてはたちあまりいつつの姿待ち見てしがな」

はだぬぐ　肌脱(自動四段)　〔一〕衣服の上部を脱ぎて肩腕などを露はす。〔二〕熱心に其事に働く。

はだぬぎ　肌脱(名)　肌ぬぐ事。

はたる　儆(他動四段)　責め促がす。●督促する。

はたれり　機織(名)　〔一〕機を織る事。〔二〕機織女の略。〔三〕機織虫の略。

はたりむし　機織虫(名)　虫の名。=きりぐすに同じ。

はたりめ　機織女(名)　〔一〕機を織る女。●〔二〕はたおりむしに同じ。

はたるむし　機織虫(名)　はたおりむしに同じ。○新撰六帖「裾野には機織る虫もいそぐなり山の錦の色まさる頃」

はたたび　肌帶(名)　下帶。●腰卷。皮膚に直に締むる帶。

はだか　裸(名)　膚赤の意。◎〔一〕人體に衣類を纏はぬ事。●裸體。〔二〕何物にても裸體に似て物を被らぬ事。○「裸馬」「裸山」

はだかる　(自動四段)　擴がる。○「立ちはだかる」「目口はだかる」

はだかむぎ　裸麥(名)　大麥の一種にして芒の取れ易き者。

はだかむし　裸虫(名)　羽又は毛などのなき虫の總名。

はだかくる　(自動下二段)　半ば身を隱す。○源氏「御几帳にはだかくれておほす」

はだかまゐり　裸參(名)　寒三十日毎夜裸體にて神社又は佛閣へ參詣する事。

はだかぶみ　裸文(名)　表包なき書狀。

はだかみ　裸身(名)　裸體。

はたがしら　旗頭(名)　〔一〕霸王。〔二〕一頭領。○「自由黨の旗頭。

はだかひゃくッくゎん　裸百貫(名)　身は裸にて僅か百貫の錢ならでは持たぬの意にて貧乏の事。

はたたがみ　霹靂(名)　雷鳴。◆雷電。

はたたく　羽叩(自動四段)　鳥が羽ばたきをする。◆羽擊つ。

はたたく　(自動四段)　〔一〕光のひらめく。〔二〕ばたばたと音のする。

はたたき　羽叩(名)　鳥の羽ばたき。

はだれ　(名)　はだれの雪の略。○萬葉「笹の葉にはだれ降りおほひ」　はだらまだらに同じ。(形)—はだれなる。(副)—はだれに。○貫之集「庭もはだれにふる雪の」

はだれゆき　斑雪(名)　斑に降りたる雪。(賴政集)

はだれしも　斑霜(名)　斑に降りたる霜。(風雅)

はたそで　鯖袖。端袖(名)　袍、直衣、狩衣等の裝束に袖を長くする爲め。ゆきの外に縫ひ附けたる半幅の袖。……其ゆきの内なる一幅の袖をば大袖と云ふ。

はたつけ　肌付(名)　馬具の名。兩脇の鎧の當る所を被ふ物。

はだつき　肌付(名)　肌のさま。○源氏「いと美しき御肌つきも」

はたつもり　(名)　木の名。令法(りやうぶ)に同じ。若葉は飯に雜ぜ炊きて食用とす。○新撰六帖「里人や若葉摘むらんはたつもり外山も今は春めきにけり」

はたつもの　畑つ物(名)　穀物野菜の類。

はたら　まだらに同じ。ぶち〳〵のある事。(形)—はだらなる(副)—はだらに。○躬恒集「庭もはだらに雪はふりつゝ」

はたらひ　馬盥(名)　〔一〕馬を洗ふに用ふる盥。〔二〕馬盥の形ちしたる花瓶。

はたらかす　働(他動四段)　働かしむる。◆動かす。

はたらく　働(自動四段)　〔一〕動く。〔二〕活動する。〔三〕勤勞する。〔四〕文法上の詞。語尾の變化する。◆活用する。〔五〕價を精々安直にする。

はたらき　働(名)　〔一〕働く事。〔二〕働きたる結果。◆功。◆手柄。〔三〕機轉の才。〔四〕働き人。

●小使。〔五〕文法上の詞。語尾の變化。●活用。

はたらきびと 働人(名) 〔一〕勞働者。〔二〕基督教にて傳道者を云ふ。

はたらきもの 働者(名) 〔一〕勤勉家。〔二〕活用するオのある人。

はだらゆき 斑雪(名) 斑に降りたる雪。(蜻蛉)

はだん 破談(名) 相談の纏まらぬ事。●談判の破裂。

はたんきやうぎ 巴旦杏(名) 木の名。李の一種にして。其實大きく味美なり。花は白き單瓣のもの春の末に咲く。◎始め東印度の巴旦島より其種を持來る故に名づく。

はたむすび (名) 紐の結びかた。〔圖〕

はだのたび 肌帶(名) はだおびに同じ。

はだのたばこ ●下帶。

はたのあし 秦野煙草(名) 相州秦野名產の烟草。

はたのさもの 旗脚(名) はたあしに同じ。

はたのひろもの 鰭狹物(名) 小さき魚類。○視詞式「鰭の廣物鰭の狹物」

鰭廣物(名) 大なる魚類。○視詞式「鰭の廣物鰭の狹物」

はたく (他動四段) 叩く。●拂ふ。●搗き碎く。

はたく (他動下二段) 〔一〕開く。〔二〕四段のはたくに同じ。

はたぐも 旗雲(名) 旗の如く棚引きたる雲。(古)

はたけ 畠。畑(名) はたに同じ。●陸田。

はたけいぬ 疥(名) 病の名。田虫に似たる皮膚病。

畠稻(名) 稻の一種。畑に作るもの。●陸穗。

はたけがさ 疥瘡(名) はたけに同じ。

はたけふぢ 畠生(名) 物の植わり居る畠。(散木)

はたけやまをり 畠山折(名) 折烏帽子の一種。〔圖〕

はたけすゐれん 畠水練(名) 陸地に水練するの意にて實驗せぬ空言を云ふ。●空論●机上の議論。

はたふる 肌觸(自動下二段) 男女互に肌を接して寢る。

はたぶぎやうぎ 旗奉行(名) 德川時代官職の名。武者奉行に次ぐ重職。

はたご 旅籠(名) 〔一〕馬糧を入るゝ籠。(和名抄)〔二〕食料を入れて旅に携ふる籠。○空穗「はたご二掛に道の程の物入れてよき馬に負せた

り。〔三〕旅宿の食品。〔四〕旅籠錢の略。●宿泊料。〔五〕旅籠錢を拂ひて宿泊する事。……木賃宿の泊り方と區別して。

はたごどころ　旅籠所(名)　旅宿にて旅人の荷物を置く場所。●旅人の宿泊する室。

はたごうま　旅籠馬(名)　旅中荷物を負はする馬。

はたごや　旅籠屋(名)　宿屋。●旅宿。●旅舍。●旅人宿。●旅館。

はたごぶるひ　旅籠振(名)　無事に旅より歸りたる祝の振舞。

はたごせん　旅籠錢(名)　旅籠屋の食料。

はだへ　膚(名)　皮膚。●肌に同じ。

はたて　旗手(名)　旗。○「靡く旗手」「四方の旗手」……立ちてある旗にのみ云ふ詞。

はたあし　旗脚(名)　旗の裾に垂れたる總。

はださむ　肌寒(名)　肌のひやりと感ずる時候。秋の半九月十月頃の寒さ。

はださむし　肌寒(形)形狀言ク活)　肌がひやりと寒い。

はたさく　畑作(名)　畑の作物。

はたざめ　幡鮫(名)　魚の名。天蓋鮫の一名。

はたざし　旗差(名)　昔し陣中にて大將の旗を馬に乗りながら持つ役。(盛衰)

はたき　(名)　紙などを細く切りて采配の如く竹の柄に附けたる塵拂ひ。形の似たるを以て俗に采配とも云ふ。

はだぎ　肌着(名)　肌に着る衣。●襦袢。●シャツ。

はだぎぬ　肌衣(名)　肌着。

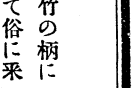
はためく　(自動四段)　はた〳〵音のする。●ばた〳〵する。

はだみ　肌身(名)　肌に同じ。

はだし　跣(名)　足に履物を穿かぬ事。

はたじろ　(名)　魚の名。形平たく鰭に白と黑との模樣あるもの。

はたじるし　旗印(名)　〔一〕軍陣の旗に付くる家の紋。〔二〕旗。〔圖〕



はたした　旗下(名)　大將の指揮の下に本陣を守る兵。●麾下。

はたじね　機繻(名)　機にて織り餘りの糸。

はたして　果(副)　思ひし如く終に。●案の通り終に。

はたしあひ　果合(名)　〔一〕殺し合ふ事。〔二〕決鬪。

はたしじょう　果狀(名)　果合を申込む書狀。●決鬪狀。

はたび 旗日(名) 國旗を掲ぐる日。●大祭日。

はたもと 旗本(名) 〔一〕大將の陣營を守る兵。〔二〕德川時代家格の稱。萬石未滿にして將軍に拜謁し得るもの。又御目見以上ともいひ略して以上とも云ふ。

はたもち 旗持(名) 戰場、祭禮、葬送等にて旗を持つ役。

はたもの 機物(名) 〔一〕布を織る具。●機。〔二〕機にて織りたるもの。

はたもの (名) 昔の刑罰。磔。

はだせ 肌脊(名) 鞍置かぬ馬の脊。

はたす 果(他動四段) 〔一〕遂ぐる。●成就する。〔二〕果てしむる。●殺す。

はたすすき 旗薄(名) 穗の出でゝ靡く樣の旗に似だる薄。(歌詞)

はたすすき (枕) 薄の穗のまだ開き切らずにこもるといふ意にや。くめの(つのぐむ、めぐむ等の意あれば)枕詞とせり。○萬葉「旗薄久米の若子が」

はれ 晴(名) 〔一〕晴天。〔二〕表立つ事。●はれがましき事。●公開。

はれ 腫(名) 病又は打傷などにて筋肉の膨脹する事。

はれ (感) 古代歌曲の拍子を添ふる聲。○催馬樂「澤田川袖つくばかり淺けれど。はれ」

はればれし (形。形狀シク活) 空又は心の晴やかなる有樣。●さつぱりとしたる有樣。

はれがまし (形。形狀言シク活) 晴れやかなる有樣。●はなばなし。

はれつ 破裂(名) 破れ裂くる事。(動)—破裂す。

はれらか (副) はれやかに同じ。(形)—はれらかなる。(副)—はれらかに。

ばれん 馬藺(名) 草の名。ばりんに同じ。

ばれん 蟠連(名) 旗の一種。軍陣に用ふるもの。〔圖〕

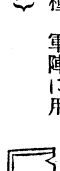
はれんち 破廉耻(名) 耻を知らぬ事。●德義心のなき事。

はれんちかん 破廉耻漢(名) 破廉耻の男。

はれのうた 晴の歌(名) 貴人もしくは公衆の前へ出だす和歌。●面目ある名歌。

はれのふく 晴の服(名) 晴着。

はれやか 晴れたる有樣。●曇りなき有樣。●清き有樣。●さわやか。(形)—はれやかなる。(副)—は



はれま　れやかに。
晴間(名)　雲の晴れたる間。●雪雨の止みたる間。

はれて　(副)　公然と。●表向に。

はれぎ　晴着(名)　晴の場所に着て行く衣裳。●よそいき着。

はれもの　腫物(名)　腫物。●出來物。

はそ　鰯(名)　魚の名。はすに同じ。(和名抄)

はぞり　端反(名)　端の反りたる事。○「はゞりの笠」

はそん　破損(名)　破れ損ずる事。●こはれ。(動)—破損す。

はそう　破窓(名)　やぶれたる窓。

はざふ　半挿(名)　はんざふの略。

はそで　羽袖(名)　天人の羽衣の袖。舞まふ姿の形容に云ふ語。○謡曲「花をかさしの天の羽袖。なびくもかへすも舞の袖」

はつ　鉢(名)　鉢多羅の略。—はちに同じ。

はつ　初(形)　最初の。●最新の。

はつ　果(自動下二段)　〔一〕終る。●濟む。〔二〕命の終る。●死ぬ。〔三〕舟の湊に行き着く。○萬葉「難波津に御舟はてぬと聞ねこば」……泊の字をも書く。

はつ　巴豆(名)　灌木の名。其實豆に似て藥に用ひ又は油を搾るもの。

はつ　跋(名)　書物の末に著者又は他人の記し添ふる文。跋文。●奥書。……序の反對。

はつ　恥羞慚(自動上二段)　〔一〕我心に過を知る。●良心に咎めらるゝ。〔二〕人に對して面目を失ふ。●面目なく思ふ。●赤面する。

ばつ　罰(名)　罪を責め懲らす事。●刑罰。

ばづ　馬爪(名)　馬の爪より製したるもの。櫛笄などに用ふる品。

はついく　發育(名)　發達生育。△(動)—發育す。

はつろ　發露(名)　隱事の顯はるゝ事。●發覺。●露顯。△(動)—發露す。

はつばい　發賣(名)　賣出し。(動)—發賣す。

ばっぱい　罰杯(名)　酒席にて遊戯に負けたる罰として飲まざるゝ盃。●罰酒。

はつはる　初春(名)　春の初め。

はつはつ　(名)　はつか。●わづか。●かすか。●ほのか。(形)—はつはつの。○夫木「はつ〳〵の若菜を摘むとあさる間に野中の雪はむら

ぎにけり」(副)—はつはつに。○萬葉「此山の紅葉の下の花を我はつはつに見て歸る戀しも」

はっぱっと
はつはな
(副) 物の飛び散る有樣。
初花(名) (一)すべての草木の中にて春最初に咲く花。(二)其年其木草に咲く最初の花。(三)生ゐてから其木に咲く最初の花。(四)初櫻。

はつはなぞめ
初花染(名) 染色の名。紅の初花にて染めたるもの。○古今「紅の初花染の色深く」

はつはなづき
初花月(名) 二月の異名。太陰曆にては櫻の咲き初むる月故に云ふ。

はつはぎ
はっぱき
初萩(名) 秋初めて咲く萩。
(名) 脛巾(はゞき)の轉。越後あたりにて雪中にはく藁または蒲の脚半。

はつに
初荷(名) 其年又は其季節に初めて運び出だす商品の荷物。東京の俗として一月二日裝飾など加へたる荷車に積み大鼓などにて囃し立て〻引きあるく事あり。

はっぱぉう
發泡(名) 膏藥の名。體內の毒を取るに用ふる物。

はっぱぉう
八方(名) (一)四方と四隅と。(二)總ての方角。
發砲(名) 銃砲を發する事。△(動)—發砲す。
伐木(名) 立木を伐る事。△(動)—伐木す。

ばっぽぉう
法度(名) (名)法律。●掟。(二)禁制。●禁斷。

はつぽく
(副) 驚く有樣。

はっと
(副) 大笑する聲。●はあと。●あはゝと。○宇治「一度にはっと笑ひける」

はっと
(副) (一)漠然。●茫然。(二)ばら〳〵と。●ばらりっと。○謠曲「島っ洲おろし荒鷄ども此河波にばっと放せば」

はつとり
初酉(名) 十一月最初の酉の日。此日および二の酉三の酉には東京の風俗として其もよりの大鷲神社に參詣し熊手を購ひ歸る事あり。
初鷄(名) 一月元旦はじめて鳴く鷄の聲。
初鳥狩(名) 秋になりて初めてする鷹狩。
●小鷹狩。

はつとり
はつとがり
法度書(名) 禁制の箇條書。

はっとがき
八德(名) 法衣の一種。=胴服(どうふく)に同じ。◎十德に似て非なる故の名ならん。

はっとく

はつとやだし　初鳥屋出(名)　鷹を初めて鳥屋より取り出だす事。○夫木「暮れぬとも初とやだしのはし鷹を一よりいかゞ合せざるべき」

はつどこ　初床(名)　正月初めて床屋にて結髪する事。

ぱっち　(名)　絹製の股引。

ぱっちり　(副)　ぱっきり。●すゞやかに。(又)—ぱっちりと。

ばつぢよ　末女(名)　末の娘。●季女。

はつてふ　初蝶(名)　春最初に飛び來る蝶。○壬二集「軒端の梅の花の初蝶」

ばつぢよざいくぜんしん　拔除罪垢善神(名)　十六善神の一つ。(佛教)

はつり　(名)　麻をはつして糸にしたるもの。(空穗)

ばつりう　末流(名)　末の血統。●末孫。

はつる　(自動下二)　織物などの端より糸の乱れ解ける。●ほつれる。○古今「藤衣はつる〻糸はわび人の涙の玉の緒とゞなりぬる」

はつる　(他動四段)　表面より削り取る。●へづる。

はづる　外(自動下二)　〔一〕離る〻。●別々になる。〔二〕目的が狂ふ。●的に中らぬ。

はつほ　初穗(名)　〔一〕其年最初にみのりたる稻の穗。〔二〕轉じて其年初めて出來たる穀物野菜菓物の類。●はつもの。〔三〕初穗を以てするの意より轉じて神に奉る金錢。……初穗料の意味。

はつを　(名)　はての尾の意。◎山鳥の尾の最も長き物。(雅)

はつをばな　初尾花(名)　秋最初に穗を出だしたる薄。

はつおん　發音(名)　〔一〕音聲を發する事。〔二〕或音聲の發し方。●文字又は詞の音讀の仕方。

はつわらび　初蕨(名)　春最初に生ねたる蕨。

はつか　二十日(名)　〔一〕二十の日數。〔二〕月の第二十日目。

はつか　わづか。●かすか。●ほのか。△(形)—はつかなる。○源氏「おのがじ〻はつかなる別をしむべかめり」△(副)—はつかに。○古今「初雁のはつかに聲をきゝしより」

はつかり　初雁(名)　秋初めて渡り來る雁。

はつかり　初狩(名)　〔一〕其季節になり始めてする鷹狩。〔二〕生れて始めてする鷹狩。

はつかり　初刈(名)　秋最初に稻を刈る事。○夫木「初刈のおしね取りほし今は早家居するほど

はつかりごろも　になれる山里」

初狩衣(名)　初めて鷹狩に出づる時着る衣。(續千載)

はつかつを

初鰹(名)　夏に入りて最初に捕りたる鰹……昔し江戸の風俗として我先にと競爭し之を買ひたるもの。

はつかづき

二十日月(名)　太陰暦二十日の夜の月。午後十時頃に昇るなり。

はつかねずみ

二十日鼠(名)　鼠の一種にして極めて小さきもの。◎生れて二十日經たる位の大きさ故に云ふ。

はつがらす

初鳥(名)　正月元日の朝最初に鳴く鳥。

はっかん

發刊(名)　書物の出版。△(動)—發刊す。

はっかん

發汗(名)　汗の出づる事。△(動)—發汗す。

はっかんざい

發汗劑(名)　病氣の時汗を出させて熱を取る藥。

はつかのつき

二十日の月(名)　はつかづきに同じ。

はっかく

八覺(名)　一切の煩惱を引起すべき八種の惡覺。一に欲、二に瞋覺、三に惱覺、四に親里覺、五に國土覺、六に不死覺、七に族姓覺、八に輕侮覺。(佛教)

はっかく

發覺(名)　隱事の露はるゝ事。△(動)—發覺す。

はつかぐさ

二十日草(名)　牡丹の異名。◎白氏文集に「花開花落二十日」とある句より出でたる詞。

はつがま

初釜(名)　茶湯の詞。正月初めて据うる釜。

はつかし

恥かし(形。形狀言シク活)　(一)赤面すべくある。●面目次弟もない。●きまりがわるい。(二)我より優りたる人に向ひて劣れる我身の恥かしくなる意味。又其風來に押されておのづから心のあらたまる意味。○源氏「いとはづかしき御けはひに何事をかはいらへ聞えん」今昔「此御使に伊衡をつかはす事は此人かたち有樣より始めて人がらなんありける。されば御息所はづかしと思ひぬべき者は是なんあると思し召して撰びて遣はすなるべし」

はづかしがる

(自動四段)　恥かしく思ふ。●赤面する。

はづかしむ

辱(自動下二段)　恥かしと思はしむる。●恥辱を與ふる。●赤面させる。

はづかしめ

辱(名)　はづかしむる事。●ちぢょく。

はつかぜ

初風(名)　春又は秋に入りて初めて吹く其時

候相應の風。○長秋詠藻「鴛鴦のゐる池の氷の解けゆけばおのがはぶきや春の初風」千載「水莖の岡の葛葉も色づきて今朝うらがなし秋の初風」

はつよ 初夜(名) 其季節に入りて最初の夜。○夫木「冬來ては今宵ぞ初夜」

はつえョふ 末葉(名) 末孫。●子孫。●遠裔。●遠孫。●後胤。

はつだ 發兌(名) 新たに出版せる書物雜誌新聞等の賣出し。△(動)—發兌す。

ばった (名) 虫の名。蝗の類。

はったい 麨(名) はたきの音便。白ではたきたるものなればなり。◎新米又は新麥を煎りて粉にしたるもの。

はったいいし 麨石(名) 礦物の名。鐵と砂と結合せしもの。異名は……于持石。●石壺。●いしなだんご。

はつだいちごく (名) はちだいちごくに同じ。

はつだいりうわう (名) はちだいりうわうに同じ。

はつたか 初鷹(名) 狩に連れゆく爲め初めて鳥屋(とや)より取り出だしたる鷹。

はつたれ 初垂(名) 鹽を燒く時はじめて其滴り垂れたる鹽。○萬葉「難波の小江の初垂を」

はったつ 發達(名) 〔一〕生育して完全の身體に達する事。〔二〕進歩して完全の智識藝術に達する事。△(動)—發達す。

はったら 鉢多羅(名) 梵語なり。應器と譯す。僧の食を乞ひて受け入るゝの器。

はったん 八端(名) 織物の名。八端掛の略。

はったんがけ 八端掛(名) 織物の名。縱横に縞を織りたる絹織物。

はったけ 初茸(名) 菌の名。秋の半に生ずるもの。椎茸に似て莖短かく美味なり。

はったじったと (副) 打擲し合ふ音。○曾我「はったじったと打合ひける」

はづれ (名) 〔一〕はづるゝ事。〔二〕物の端(はし)。●緣(ふち)。

はつぞら 初空(名) 新年の空。●初みそら。

はつそらづき 初空月(名) 正月の異名。

ばっそん 末孫(名) 遠孫。●末葉。●後裔。●遠裔。

はっさっう 八相(名) 釋迦如來の具したる八種の相。一に降兜率の相、二に託胎の相、三に降生の相、四に出家の相、五に降魔の相、六に成道

の相、七に說法の相、八に涅槃の相。(佛敎)

はつづき 初月(名) 太陰曆にて其月初旬の月。●三日月頃の月。●新月。◎謠曲「まだ初月の宵々に影も姿も少なきは」

はつね 初子(名) 〔一〕正月最初の子の日。……子の日を見よ。〔二〕十一月最初の子の日。此日何くにても大黑天の祭を行ふ。

はつね 初音(名) 其年初めて鳴く鳥、虫、獸の聲。○「鶯の初音」「時鳥の初音」「鹿の初音」

はつねどうしん 初子燈心(名) 十一月初子の日大黑天に供ふる燈心。

はつねつぢごく 八熱地獄(名) 熱の苦を受くる八種の獄。一に相地獄、二に黑繩地獄、三に堆壓地獄、四に叫喚地獄、五に大叫喚地獄、六に燒炙地獄、七に大燒炙地獄、八に無間地獄。(佛敎)

はづな 絆綱(名) 馬の口に附けて牽く綱。◎鼻綱の略なるべし。

はつなり 初生(名) 其木其蔓に初めて出來たる菓物又は瓜。

はつなん 八難(名) 八種の難儀なる境界。此八處にありては佛を見る事能はずと云ふ。すなはち地獄、畜生、餓鬼、長壽天、北鬱單越、盲聾瘖瘂、智辯總、佛前佛後に生れたるもの、の八つ。(佛敎)

ばつなん 末男(名) 末の男子。

ばつなんだ 跋難陀(名) 八大龍王の一つ。譯して善歡喜龍王とも云ふ。釋迦誕生の時難陀龍王と共に空中より產湯の水を吹き出だしたるもの。(佛敎)

はつなぐさ 初名草(名) 木の名。梅の異名。

はつなへ 初苗(名) 最初に植うる早苗。●又たゞ若苗をいふ。(散木)

はつなす 初茄子(名) 其年初めて生れる茄子。

はつらい 初雷(名) 春初めて鳴る雷。

はつう 初卯(名) 〔一〕其月の初の卯の日。〔二〕一月の初の卯の日。古來此日を祝ひて神に詣づる風俗あり。

はつうり 初賣(名) 其年又は其店にて商品の賣初め。

はつうのはな 初卯花(名) 其年最初に咲く卯の花。(新古今)

はつうぐひす 初鶯(名) 春最初に鳴く鶯。(後撰)

はつうま　初午(名)　〔一〕二月の初の午の日。此日山城の稻荷神社を始めとし全國の同社にて祭あり。〔二〕初午祭の略。

はつうまはつうままつり　初馬(名)　馬に初めて荷を負はする事。　初午祭(名)　稻荷祭。……はつうまを見よ。

はつのぼり　初幟(名)　〔一〕男子生れて初めての五月に立つる幟。〔二〕初幟の祝。

はっく　八苦(名)　八種の苦難。一に生苦、二に老苦、三に病苦、四に死苦、五に愛別離苦、六に怨憎會苦、七に求不得苦、八に五陰盛苦。(佛教)

はづくろひィ　羽繕(名)　飛ばんとして羽ばたきし其準備を爲す事。

はっくどくち　八功德池(名)　はっくどくすゐを見よ。

はっくどくすゐ　八功德水(名)　極樂世界の池に湧く八種の功德ある水。一に澄淨、二に清冷、三に甘美、四に輕輭、五に潤澤、六に安和、七に除患、八に增益。(佛教)

はっくぁいばっくんに　發會(名)　一月最初の會合。　拔群に(副)　多くの中にすぐれての意より轉じ來る。◎すぐれて。●無類に。●非常に。●餘程。○謠曲「先の關をば早拔群にに程へだいりて候」同「はや拔群に年たけ給ひて候」

はつくさ　初草(名)　初めて生ふる草。若草に同じ。○源氏「初草の若葉の上を見てしより」

はつくさのまくら　初草の(枕)　初草の如くめづらしきと言ひ掛けたる枕詞。○伊勢「初草のなどめづらしき言の葉ぞ」

はつやま　初山(名)　〔一〕參詣の季節に期限ある山にて其年山の開かれて後第一に登山する事。〔二〕其人の初度の登山。

はつま　初馬(名)　初めて乘る馬。

はっけ　八卦(名)　易に謂ふ八種の卦文。すなはち乾、兌、離、震、巽、坎、艮、坤の八つ。

はっけ　末家(名)　本家に對していふ詞。●分家。●わかれ。

はっけん　發見(名)　天然に成りたちてある物事を初めて見出す事。△(動)—發見す。

はっぷ　髮膚(名)　人間の髮毛と皮膚。

はっぷ　發布(名)　發表頒布。△(動)—發布す。

はっぷ　(名)　蘭語より來る。湯潰の麵包の意。◎醫師の

身體局部を溫むる爲めに麵麥を熱湯に浸して用ふるもの。

はっぷり 半首。半頭(名) 兜の種類。猿頰。又は頰當を面部に用ふる時頰をおほふもの。……鐵鉢を半首とも言ふと心得たる說あるは誤なり。〔圖〕

はつぶたい 初舞臺(名) 〔一〕初めて舞臺に出で能樂芝居など演する事。〔二〕それより轉じて何事にても初めて公衆の前に於てする事。○「演說の初舞臺」「議會の初舞臺」

はっぷん 八分(名) 漢字の書體。隸書と篆書との間にあるもの。

はつふゆ 初冬(名) 冬の初め。

ばっこ 跋扈(名) 我儘の振舞を爲す事。●橫行。△(動)—跋扈す。

はつこひ 初戀(名) 生れてから初めて起る戀慕心。●色氣の附きはじめ。

はつごほり 初氷(名) 冬最初に張る氷。

はつごよみ 初曆(名) 其年の初に開く新曆。

はっかう 八庚(名) 詩學上韻字の一つ。……ぬんの處を見よ

はっかう 八講(名) 法華經八卷を朝夕一卷づゝ讀誦して四日間行ふ佛事。

はっかう 醱酵(名) 酒類を釀す時酒母より泡を立たする事。△(動)—醱酵す。

はっかう 發向(名) 出向く事。●出立。△(動)—發向す。

はっかう 發行(名) 書籍など賣り出す事。△(動)發行す。

はっかう 發行(名) 流行。○「御發行の神樣」△(動)發行す。

はっかうふ 八講布(名) 法華八講の布施に僧に贈る布。多くは加賀越中などより產せしものを用ふ。

はつこゑ 初聲(名) 初音に同じ。

はづゑ 羽杖(名) 鷹の羽を擴げて拳を抑ふる如くする事。

ばっていら (名) 西班牙語より來る。◎西洋形の傳馬船。

ばってき 拔擢(名) 撰擇。●擇拔。△(動)—拔擢す。

はつあき 初秋(名) 秋の初め。

はつざ 末座(名) 末の座席。●末席。

はっさいのりうにょ　八歳の龍女(名)　佛法の功力にて成佛せしといふ龍神の女。……變成男子を見よ。

ばっさり　(副)　桐の葉などやうのものゝかぶさりかゝる音。(又)―ばっさりと。

はつざる　初申(名)　二月最初の申の日此日に大和春日明神の祭あり。○永久百首「二月の初申なれや春日山峰とよむまでいたゞきまつる」

はっさん　八算(名)　珠算の二の段より九の段までの總稱。

はっさく　八朔(名)　太陰暦八月朔日。〔一〕農家にては稻の熟する季節ゆゑ田實(頼み)の節と稱へて祝ふ事あり。〔二〕德川幕府にては天正十八年の今月今日家康の初めて江戸城に入りたる日とて重き祝日と爲したり。

はつざくら　初櫻(名)　春最初に咲く櫻。

はっき　張着(名)　女官裝束尻切の一名。◎强く突つ張る衣故に云ふ。

はつき　(名)　衣を懸けて乾す木。物乾竿の類。○堀川「濡衣今ぞはつきに懸けてほす」

はつき　葉月(名)　八月の異名。◎葉落月の略といひ萩月の略ともいひ又稻穗張月の略なりとも云ふ。

はっきり　(副)　判然と。●あきらかに。(又)―はっきりと。

はっけう　八教(名)　四教に化儀の四教、化法の四教の別あり。化儀のは頓教、漸教、不定教、秘密教。化法のは三藏教、通教、別教、圓教。これを合せて八教と云ふ。(佛教)

はつきゃう　發狂(名)　氣ちがひ。●狂氣。●瘋癲。△(動)―發狂す。

ばっきん　罰金(名)　法律上の詞。◎罪を償ふ爲めの金錢。●過料。

はづきん　羽頭巾(名)　山伏の着る帽子の一種。(圖)

はつゆ　初湯(名)　正月最初の入湯。

はつゆき　初雪(名)　〔一〕其冬初めて降る雪。〔二〕重の色目の名。表白、裏は白のうるみたるもの。

はつゆきげんざん　初雪見參(名)　初雪の日に群臣參内する事。中古にありたる式なり。(公事根源)

はつゆめ　初夢(名)　年の初に見る夢……世俗正月二日の夜に目出度き初夢を見んとて寶船の畫を

枕に敷き寢る事あり。

はつめい 發明(名) 鋭敏なる性質。●怜悧。(形)—發明なる。(副)—發明に。

はつめい 發明(名) 是迄になき事物を考へ出だす事。△(動)—發明す。

はつみそら 初御空(名) 初空に同じ。

はつみづき 初見月(名) 正月の異名。

はつみぐさ 初見草(名) 古來種々の意に用ひたり。〔一〕菊の異名。(莫傳抄)〔二〕萩の異名。(同上)〔三〕卯花の異名。(藻鹽草)〔四〕冬草の總名。(頼政集)〔五〕壽の異名(寂蓮集)(歌詞)

はつみゆき 初深雪(名) 初雪に同じ。(歌詞)

はつし (名) 〔一〕はつす事。〔二〕はつしたるもの。……糸の類。

ばっし 末子(名) 末の子。●季子。

はつしばね 初芝居(名) 一月に興行する芝居。

はっしと (副) かちんと。●かっちりと。

はつしほォ 初汐(名) 其時刻最初にさしくる汐。

はつしほォ 初入(名) 〔一〕絹、布など染むる時初めて之を染汁に入るゝ事。●一度染め。〔二〕草木の葉の染み初むる事。○續古今「立田山しぐれぬさきの初入は何に染めたる峰のもみぢ葉」

はつしほォ**ぞめ** 初入染(名) 初入のみにて染めあぐる事。……すなはち色の薄きもの。●一度染め。

はっしゃショ**う** 八省(名) 中古置かれたる八の官廳。すなはち中務、式部、民部、治部、兵部、刑部、大藏、宮内。今も此内二省だけ名稱を遺せり。

ばっせショ**ふ**ゥ 跋渉(名) 山川を踏み越えて旅行する事。△(動)—跋渉す。

はっしゃショ**うゐん** 八省院(名) 古へ禁中にて八省の庶政を行はれたる一の役所。その正殿が大極殿にして天皇毎朝こゝに臨御あらせらる。

はっしゃショ**うだ**ド**う** 八正道(名) 一に正見、二に正思惟、三に正語、四に正業、五に正命、六に正精進、七に正念、八に正定。(佛教)

はっしゃショ**うじん** 八將神(名) 陰陽道にて祭る八體の神。すなはち太歳、大將軍、大陰、歳刑、歳破、歳殺、黄幡、豹尾。

はっしん 發信(名) 郵便又電信を發する事。(動)—發信す。

はつしぐれ 初時雨(名) 冬に入りて最初に降る時雨。

はっしき　八識(名)　一に眼識、二に耳識、三に鼻識、四に舌識、五に身識、六に意識、七に末那識、八に阿頼耶識。(佛教)

はっしゅう　八宗(名)　佛教の八宗派。すなはち倶舎、成實、律、法相、三論、天臺、華嚴、眞言なり。倶舎、成實、法相、三論、華嚴の五宗は今既に我邦に亡びたり。

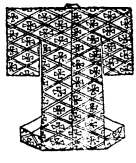
はつしも　初霜(名)　冬初めて降る霜。

はつしもづき　初霜月(名)　十月の異名。太陰暦にては初霜の降る時節故に云ふ。

はつひ　初日(名)　正月元日の朝日。

はっぴ　半臂(名)　はんびに同じ。

はっぴ　法被(名)　能裝束の一種。◎裝束下着の半臂より轉じ來れる名なるべし。〔圖〕



はっぴ　半被(名)　〔一〕昔し武家にて中間の上着としたる羽織の如きもの、必ず其家の印を附けて用ふ。〔二〕半被に似たる衣類。當今職人などの多く着るもの。◎印半纏。

はつびゃうびょう　發病(名)　病のおこる事。(動)—發病す。

はつびゃうびょう　八病(名)　喜撰式に出でたる和歌難病の八種。一に同心病、二に亂思、三に欄蝶、四に渚鴻、五に花橘病、六に老楓病、七に中飽病、八に後悔病。

はっぺうびょう　發表(名)　世に公にして示す事。△(動)—發表す。

はつびな　初雛(名)　〔一〕女子生れて初めての三月にかざる雛。〔二〕初雛の祝。

はつひので　初日の出(名)　正月元日の日の出。

はつも　初藻(名)　神に奉るため其年初めて采る海草。○夫木「春は又浦に出でゝや三熊野の神の初藻の磯菜つむらん」

はつもとゆひ　初元結(名)　昔し公卿の元服する時に初めて髪を結びあぐる元結。(源氏)

はつもの　初物(名)　其年初めて出來たる野菜、穀物、菓物の類。

はつもみぢ　初紅葉(名)　〔一〕秋初めて紅に染む木の葉。〔二〕重の色目の名。表蒲黄、裏薄朋黄。

はつせ　初瀬(名)　名香の名。

はつせ　初脊(名)　馬の脊に始めて物を負はする事。○

續詞花「山賤の野飼の駒もかへるめり初春に草をしがひかけつゝ」

はっせい 八齊(名) 詩學上韻字の一つ。……ぬんの處を見よ。

はっせい 八齊(名) 詩學上韻字の一つ。……ぬんの處を見よ。

はっせい 發生(名) 生び出づる事 △(動)—發生す。

はっせい 發聲(名) (一)音聲を出だす事。●歌など歌ふ事。△(動)—發聲す。(二)歌會にて歌を讀み上ぐる役。(三)音頭。

はつせっく 初節句(名) 小兒生れて初めての三月もしくは五月の節句。

はっせん 八專(名) 曆の詞。壬子の日より癸亥の日まで十二日間を云ふ。此間は雨多しといふ季節。一年に六度あり。

はつせめ 初瀨女(名) 大和の初瀨邊の女。(萬葉)

ばっせき 末席(名) 末の座席。●末座。●席末。

はつす (他動四段) はつれさする。●ほつれさする。●解きほごす。……糸などを。

はっす 發(自動サ變) (一)起る。(二)出立する。

はっす 發(他動サ變) (一)起す。(二)送り出す。(三)放つ。

はづす 外(他動四段) (一)物を取除くる。(二)物を得られぬやうにする。(三)當らぬ樣にする。●そらす。

ばっす 罰(他動サ變) 罰に處する。●罪す。

ばっすゐ 拔萃(名) 書拔。△(動)—拔萃す。

はつずり 初刷(名) 其年最初に刷り出だしたる新聞の類。○「初刷の附錄」

はっすん 八寸(名) 脚の高さ八寸の膳。

はね 羽根。羽(名) (一)鳥の翼もしくは毛。(二)鳥の羽に似たる形もしくは働のもの。(三)鳥の羽に造れるもの。(四)羽子板に突く女子の遊戯品。●羽子。●突羽根。

はね (名) はねる事。

ばね 彈機(名) 器械に用ふる彈力機。

はねばし (名) 橋の一種。平生は撥ね上げて置き臨事入用の時に掛け渡す橋。

はねる (自動下二段) 髮に髮飾など掛くるを云ふ。(俗)

はねたご 羽根音(名) はおとに同じ。○詞花「雉のはねおと」

はねをかはせるとり (名) 比翼の鳥に同じ。○玉葉「生

きての世死にての後の後の世もはねをかはせる鳥となりなん」（歌詞）

はねかづら（名）　花髪の轉。◎古へ少女の髪上する時髪の裝飾にしたる花の髻。○萬葉「はねかづら今する妹を夢に見て」

はねかく　羽根搔（自動四段）　羽根搔をする。○夫木「時鳥何とて聲をかはすらん羽根搔く鳴は友ならなくに」萬代「淡路島かよふ千鳥のしばしいも羽根かくまなく戀ひやわたらん」

はねかへる（自動四段）　跳れ戻る。●反動する。

はねがき　羽根搔（名）　鳥の嘴にて羽を搔く事。……多く鳴に用ふ。○新續古今「身の思しげき寢覺に聞きわびぬ曉毎の鳴の羽根がき」

はねつるべ　撥釣瓶。拮槹（名）　釣瓶の一種。柱の頂を支點として天秤を載せ一端に重りを付け一端に釣瓶を付けたるもの。

はねつく（他動下二段）　〔一〕はねかへして寄せつけぬ。●彈く。〔二〕謝絶する。●拒絶する。

はねつき　羽根突（名）　羽子を突き遊ぶ事。

はねならはし　羽根習（名）　幼き鳥の飛び初めんとして羽の働をならはす事。○後撰「木がくれて五月まつとも時鳥はねならはしに枝うつりせよ」

はねならぶとり（名）　比翼の鳥に同じ。○榮花「羽根ならぶ鳥となりては契るとも」（歌詞）

はねうつ　羽根擊（自動四段）　羽擊つ。●羽叩く。

はねうま　跳馬（名）　跳ぬる馬。●荒馬。

はねのはやし　羽林（名）　大將中將少將の異名。うりんに同じ。（歌詞）

はねのく（他動下二段）　はね出してのける。

はねのけ（名）　はねのけたる物。

はねやすめ　羽根息（名）　飛ぶ鳥の木などにとまりて羽を休息さする事。

はねごろも　羽根衣（名）　羽衣に同じ。（保憲女集）

はねび（名）　炭など燃やす時はねたる火。

はねもっとひ（名）　はね元結の轉。〔一〕能樂にて垂れたる髪のうしろに附くる平たき元結。……奉書の紙にて之を造る。◎端の左右にはねたるよりの名。〔二〕女の髪飾に掛くる太き元結。◎髪にはねる故の名。

はねず　唐棣（名）　木の名。古來諸説あれど郁李一名庭梅の古名とするが穩當に近し。○萬葉「夏

まけて咲きたるはねず」

はねずいろ　唐棣色(名)　染色の名。赤みを帶びたる白色。○萬葉「紫のにほへる妹がはねずいろの赤裳の姿夢に見ねつゝ」

はねずいろのうつろひやすき心あれば　(枕)　はねずの花にて染めたる色の如くうつろひやすきと掛かる枕詞。○萬葉「はねずいろのうつろひやすき心あれば」

はな　花。華(名)　〔一〕草木の枝または幹に生じて同類繁殖の働をなす機關。〔二〕櫻の花。〔三〕青花。染物色に云ふ詞。○「花色」〔四〕花やかなる事。●華美。●華麗。〔五〕佛に手向くる檀。〔六〕藝人などに與ふる祝儀。

はな　鼻(名)　〔一〕顏の中の高き所。〔二〕鼻にてかぐ事。〔三〕鼻より出づる液。

はな　端(名)　最初。●發端。

はないろ　花色(名)　〔一〕何の花にても其色に擬して染めたる衣の色。○古今「山吹の花色衣」夫木「卯の花の花色衣」〔二〕青花にて染めたる色。又これと同樣の色。

はないろごろも　花色衣(名)　花色にて染めたる衣。花色の〔一〕〔二〕ともに云ふ。

はないかだ　花筏(名)　〔一〕水上に散り浮く櫻を筏に見立てて云ふ。〔二〕櫻と筏との畫を附けたる衣服器物等の模樣。〔三〕木の名。〔四〕女の顏に塗る化粧品の名。白粉の種類。

はないくさ　花軍(名)　手に櫻の枝を持ちて擊ち合ふ遊戯。

はないけ　花活(名)　花を活くる器具。●花器。●花瓶。●花立。

はないき　鼻息(名)　鼻にてする呼吸。

はなばいろ　花葉色(名)　染色の名。花山吹に同じ。

はなばいろ　花葉色(名)　染色の名。花山吹に同じ。

はなばちす　花蓮(名)　花の咲きたる蓮。●蓮華。(歌詞)

はなはだ　甚(副)　いたく。●いみじく。●ひどく。●強く。●大そう。●よほど。

はなばたけ　花畑(名)　花を植ゑたる畑。●花園。●花壇。

はなはだし　甚(形。形狀言シク活)　はなはだに同じ。

はなばなに　(副)　花毎に。○後拾「折るからに我名は立ちぬ女郎花いざ同じくは花々に見ん」

はなばなと　花々と(副)　花やかに。●美しく。●華美に。

はなばなし 花々し(形。形狀言シク活) 花やゝなる。● 華美なる。

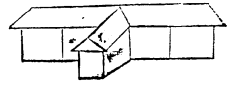
はなばこ 花筥(名) 花籠の種類。摘みたる花を入るゝもの。

はなばさみ 花鋏(名) 花の枝などを摘み切る鋏。

はなばしら 鼻柱(名) 〔一〕鼻の穴のしきり。● 鼻の障子。〔二〕鼻のさき。

はなぢ 鼻血(名)鼻より出づる血。

はなちいで 放出(名) 母屋より棟を別にして建て出したる家。〈圖〉



はなちどり 放鳥(名) 〔一〕放飼の鳥。〔二〕放生會又は葬式等の時放ち遣る鳥。● はなし鳥。

はなちがひィ 放飼(名) はなしがひに同じ。

はなちがみ 放髮(名) 男髷の二のよりを切りて後ろに垂れしむる髮。……昔し猩々のヲキなどする能役者がせしもの。

はなちがみ 放紙(名) 昔し禁中殿上の間に掲げたる當番非番日割を記したる紙。◎夜は放して袋に入れ收むる故の名なるべし。

はなちがき 放書(名) 〔一〕文字を續けずに書く事。〔二〕書放しにする事。● なげがき。

はなちうま 放馬(名) 野飼の馬。● 放駒。(靖蛉)

はなちのかみ 放の髮(名) 振分髮(ふりわけがみ)に同じ。○散木「うなゐこがはなちの髮をとりたてて」

はなちごま 放駒(名) 放飼の駒。● 野飼の馬。

はなちで 放出(名) はなちいでの略。

はなちあぐ 放上(他動下二段) 聲をあぐるの意。ちあぐに同じ。○榮花「歌をぞ放ちあげて歌はせ給ひける」

はなちじょう 放狀(名) 物を人に與ふる時に其由を書きて添ふる書狀。● 讓狀。

はなり (名) 〔一〕振分髮に同じ。童女のまだ〳〵上げずに垂らしたる髮。〔二〕其年頃の童女。○萬葉「橘の寺の長屋に我ゐれしうなゐはなりに髮あげつらむか」

はなる 離(自動下二段) 別々になる。● 隔たりの生ずる。● 其所を去る。

はなを 鼻緒(名) 〔一〕草履下駄等の前の緒。指に挾むところ。〔二〕轉じては緒全體を云ふ。

はなたち 花落(名) 花の落ちて間もなく採りたるもの。茄子、胡瓜などの若きのを云ふ。

はなをれだひィ（名）　魚の名。鯛の一種。頭四角にして鼻の折れたる如く見ゆるもの。

はなはワ　塙（名）　山の出鼻のところ。……奥儀抄（武隈のはなはの條に）「武隈の坊とて山のさし出でたる所のあるなりとぞ近く見たる人は申し丶」

はなわらび　花蕨（名）　草の名。蕨に似て花咲くもの。●一名は冬蕨。

はなわけごろも　花分衣（名）　花の咲きたる中を掻き分けたる衣。○萬代「秋の野の花分衣」

はながひィ　花貝（名）　貝の名。櫻貝の事。

はながはリ　鼻革（名）　馬の鼻に附くる革紐。

はながた　花形（名）　〔一〕花の形ちしたる模樣。〔二〕八つ花形の略。鏡の異名。又痘痕の異名。（大鏡）

はながたみ　花筐（名）　（一）花を摘み入るゝ籠。〔二〕貝の名。

はながつを　花鰹（名）　料理の調。鰹節を薄く美しく削りたるもの。

はなかづら　茜蔓（名）　〔一〕木草の花を糸に貫きて髪に懸くる事。○萬葉「唐人も舟をうかべて遊ぶと言ふ今日ゞ我菅子花かづらせよ」

はながつみ　花勝見（名）　草の名。夏の初め沼などに花咲く杜若に似たる草。○古今「みちのくの淺香の沼の花かつみかつ見る人に戀ひやわたらん」

はながら　（名）　活花の取り捨てたるもの。

はなかんざし　花簪（名）　造花を着けたる簪。

はなかけ　鼻欽（名）　鼻の缺けたる人。

はなかご　花籠（名）　〔一〕花を摘み入れたる籠。〔二〕竹にて作りたる花籠。

はなかへュる　（他動四段）　花色のさむるを云ふ。○枕「地摺の裳のはなかへりたる」

はながさ　花笠（名）　〔一〕木草の花をかざしたる笠。○古今「鶯の縫ふてふ笠は梅の花笠」〔二〕造花を着けたる笠。祭禮などに用ふるもの。

はながめ　花瓶（名）　花いけ。●くゎびん。

はながみ　鼻紙（名）　懷中紙。●ふところがみ。

はながみいれ　鼻紙入（名）　鼻紙袋。●紙入。

はながみぶくろ　鼻紙袋（名）　鼻紙などを入れて懷中する袋。●鼻紙入。●紙入。●懷中物。

はなかぜ　花風（名）　櫻の花を吹く風。○枕「三月ばかり

はなかぜ
の夕ぐれにゆるくふきたる花風」
鼻風(名)　〔一〕鼻息。〔二〕鼻水の出る位にて濟む風邪。

はなよめ
花嫁(名)　新婚の嫁。●新婦。

はなだ
縹。花田(名)　染色の名。青花にて染めたる色。青色の濃きもの。●花色。

はなだいろ
縹色(名)　はなだに同じ。

はなたちばな
花橘(名)　〔一〕花の咲きたる橘。〔二〕衣の重の色目の名。表朽葉、裏青色。〔三〕名香の名。

はなたりやまひィ
(名)　病の名。感冒。●風邪。

はなたか
鼻高(名)　〔一〕鼻の高き事。〔二〕天狗の異名。〔三〕普の履物の一種。鼻緒の高きもの。●鼻高。

はなたたき
鼻叩(名)　化粧道具の名。眉掃の小さきもの。

はなたれ
鼻垂(名)　鼻水を垂らして拭はぬ人。

はなだつ
花立(自動四段)　花●開かんとする。●苔になりて見ゆる。○夫木「梅が枝はまだ花立たず雪の中ににほひばかりは風に知られて」

はなだぐさ
縹草(名)　縹色を染むる草の名。●青花。●露草。●蜀草。

はなたて
花立(名)　花活け。●花瓶。

はなだあを
縹青(名)　重の色目の名。表裏共に縹。

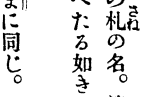
はなれ
離(名)　〔一〕離るる事。〔二〕離れたる場所。

はなれそ
離磯(名)　陸を離れて長く差し出でたる磯。○萬葉「はなれそに立てる槻の木」

はなれうま
放花(名)　繋ぎたる縄をはづれたる馬。

はなれや
離家(名)　〔一〕人里遠く離れたる家。〔二〕棟を別にしたる建物。

はなれやまみち
離山道(名)　鎧の札の名。遠山の形を一つづつ並べたる如きもの。〔圖〕



はなれごま
放駒(名)　はなれうまに同じ。

はなれざしき
離座敷(名)　〔一〕棟を別に離して建てたる座敷。〔二〕座敷の中にて相遠さかりたる室。

はなれじま
離島(名)　陸を遠く離れたる島。○夫木「波あらき南の海のはなれじま」

はなれす
離洲(名)　陸を遠くはなれたる洲。○夫木「鷗むれゐる沖のはなれす」

はなその
はなぞめ
花園(名)　花を植ゑたる園。●花壇。●花畑。
花染(名)　〔一〕花摺にする事。〔二〕青花にて染むる事。

はなつ
(他動四段)　〔一〕(放)離す。●分くる。●分つ。〔二〕(縱。放)捕はれたるものを免す。〔三〕(發)出だす。發する。

はなつつ
花筒(名)　花を活くる筒。●花瓶。●花立。

はなつな
鼻綱(名)　牛の鼻に貫く繩。

はなつら
鼻面(名)　鼻のさき。

はなつく
(名●)　鼻綱に同じ。
鼻突(自動四段)　〔一〕鼻の突きあたる……塲所の狹くて。〔二〕甲の鼻と乙の鼻と突きあたる。

はなつくり
花作(名)　〔一〕花の咲く草木を培養する人〔二〕造花師。

はなづくゑ
花机(名)　〔一〕花器を載する机。●花臺……すもに佛前などに用ふるもの。〔二〕脚を花の形に作りたる机。●華足机。

はなづま
花妻(名)　〔一〕草木の花を妻の如く親しみて云ふ詞。〔二〕鹿の妻に見なして萩を云ふ詞。○「萩が花妻」(歌詞)〔三〕花の如く美しき妻。○八犬傳「今宵は忍ぶ花妻あるか」

はなつき
鼻突(名)　〔一〕鼻の突き當る事。……塲所の狹くて。〔二〕甲の鼻と乙の鼻と突きあたる事。

はなつみ
花摘(名)　〔一〕野に出で、草花を摘み遊ぶ事。〔二〕特には三月の終の日先祖祭を行ふために手向の料の花を摘む事。(古今)

はなねぢり
花捻(名)　荒馬を鎭むるため其鼻を捻ぢる道具。

はななは
鼻縄(名)　鼻綱に同じ。

はなはでし
花撫子(名)　はねならはしに同じ。●羽たゝき。

はなはなし
(名)　重の色目の名。表紫裏紅。

はなむけ
餞(名)　旅立つ人に物品詩歌など贈る事。●餞別。◎昔し馬に乘りて行く人を送りて待て暫しと馬の鼻づらを此方へ向けさせ告別の辭、詩歌、物品等を贈るより起れる詞。

はなむこ
花聟(名)　新婚の聟。

はなむしろ
花莚(名)　花薹に同じ。

はなむすび
花結(名)　紐の結方の名。

はなうるし
花漆(名)　漆の一種。上品なるもの。

はなうた
鼻唄(名)　低き聲にて唄うたふ事。……わざ

はなうそやぎ（名）　く、唄ふとなしに唄ふやうの時に云ふ。心中に可笑しと思ふ時鼻の少し動くやうに見ゆる事。○盛衰「佐殿は鼻うそやぎして忍ばれけれども」

はなの　花野（名）　秋の花の咲きたる野邊。

はなのたより　花弟（名）　菊の異名。◎四季の花に後るゝ故。

はなのが　花賀　櫻の花盛に行ふ賀の祝。（伊勢）

はなのかほ　花顔（名）　〔一〕咲く花の美しきを美人の顔に見立てゝ言ふ。〔二〕花の如く美しき顔。

はなのつゆ　花露（名）　〔一〕花の上に置きたる露。〔二〕薔薇の花を製して採りたる露。女の化粧品に用ふる物。

はなのうてな　花臺（名）　〔一〕蓮の臺に同じ。佛の御座。〔二〕花の如く美しき櫻。〔三〕花の花瓣を載するところ。●蕚。●花ぶさ。

はなのこりづき　花殘月（名）　四月の異名。◎太陽暦にては遲櫻の咲く頃ゆゑ。

はなのえ　花の枝（名）　花の咲きたる枝。

はなのえん　花宴（名）　花見の宴會。

はなのえん　花緣（名）　死後蓮臺の上に生るべき佛緣。

はなのあに　花兄（名）　梅の異名。◎四季の花に先んずる故。

はなのき　花の木（名）　〔一〕花の咲く木。〔二〕筆の異名。（八雲御抄）

はなぐるま　花車（名）　〔一〕花やかに裝飾したる車。〔二〕花見車。〔三〕模樣の名。花籠を車に積みたるさま。

はなぐわね　花慈姑（名）　草の名。澤瀉（おもだか）に同じ。

はなぐはし（枕）　花美しの意。花の美しき櫻、葦などと掛かる枕詞。○紀「花ぐはし櫻のめで」萬葉「花ぐはし葦垣ごしに」

はなくそ　鼻屎（名）　鼻の穴に溜る分泌物の滓。

はなぐぎ　花釘（名）　柱、長押などに飾りに打つ釘。釘隱しの類。

はなぐき　鼻莖（名）　鼻筋。

はなぐもり　花曇（名）　櫻の咲く頃曇る空。

はなぐすり　鼻藥（名）　鼻にかゞする程の些少なる賄賂。

はなや　花屋（名）　木草の花を賣る家。又は賣る人。

はなやか　華美。●奇麗。●きらびやか。△（形）—花やかなる。（副）—花やかに。

はなやなぎ　花柳（名）　重（かさね）の色目の名。表白、裏青。

はなやぐ （自動四段） はなやかにてある。

はなやまぶき 花山吹（名） 重の色目の名。表紅又は濃朽葉、裏黄。

はなまじろき （名） 目を動かすをまじろくといふより來れる詞にて鼻を動かすやうにするを云ふ。心中には服せずながら面色だけにて阿諛するさま。○源氏「時に從ふ世の人の下に鼻まじろきをしつゝ追從し」

はなぶくろ 花袋（名） 香ひ袋。

はなふくあき 花吹く秋（名） 九月九日酒に浮べたる菊の花を吹きて飲む事あり。之を花吹くと云ふ。之より起りて九月の異名のやうに用ひ習ひたり。○散木「なしまれて花吹く秋もうつろへる菊をばえこそ見捨てざりけれ」

はなぶさ 花房。英（名） 〔一〕花瓣を受け支ふる所。〔二〕房の如くむらがり集まりて咲く花。○謠曲「牡丹の花房にほひ満ちゝ」

はなこ 花籠（名） 花かごに同じ。又佛に手向くる樒なと摘み入るゝ籠。○榮花「花こながらとりて」新撰六帖「樒つむ竹の花この」

はなごろも 花衣（名） 〔一〕櫻色の衣。〔二〕櫻重の衣。〔三〕青花色の衣。〔四〕美しく花やかなる衣。

はなかうじ 花柑子（名） 柑子の木の花。○拾玉「此頃は伊勢に知る人おとづれてたゝりいろある花柑子かな」

はなごけ 花苔（名） 苔の一種。色白く莖は花の蕊に似て山中に生ずるもの。一名は白苔。

はなごころ 花心（名） 〔一〕美しき心。〔二〕仇めきたる心。●色めかしき心。（雅）

はなごゑ 鼻聲（名） 〔一〕鼻の詰りて正しく出でぬ聲。〔二〕涙の出でて鼻の詰りたる聲。

はなござ 花蓆（名） 蓆の一種。藺を美しく染めて模樣を織り出だしたるもの。●花莚。

はなござね 花小札（名） 鎧の札の名。櫻の花瓣に似たる故の名。（圖）

はなごめに （副） 花ながら。●花と共に。（雅）

はなゑみ 花笑（名） 花の如く美しき笑み。（萬葉）

はなあふひ 花葵（名） 草の名。葵の一種。丈高く葉大きく梅雨の頃赤白紫などの花咲く。

はなのたに 花青丹（名） 染色の名。濃き青に黄を加へたる色。

はなあはせ 花合(名) 〔一〕中古行はれたる雅遊。人々木草の花に歌を添へ持ち集りて優劣を競ふこと。〔二〕花加留多を取り遊ぶ事。

はなあかり 花明(名) 花の光にて夜も明るき事。

はなあやめ 花菖蒲(名) 〔一〕草の名。花の咲く菖蒲。●はなしやうぶ。〔二〕重(かさね)の色目。表白、裏萠黄。

はなあぶ 花虻(名) 虫の名。虻の一種。花の蜜を吸ふもの。其色黄なり。

はなざかり 花盛(名) 〔一〕花の咲き揃ふ事。〔二〕花の咲き揃ふ時節。

はなざくら 花櫻(名) 〔一〕八重櫻の一名。〔二〕櫻花に同じ。〔三〕重(かさね)の色目。表白、裏青。

はなぎ 鼻木(名) 〔一〕牛の鼻に着けたる木。〔二〕材木の切れ端。

はなきる 劓(他動四段) 古の刑罰に鼻を切る事あるを云ふ。

はなめく (自動四段) 華やぐ。●ときめくに同じ。○唐物語「時にあひ花めかせ給ふ后」

はなみ 花見(名) 〔一〕何にても花を見る事。〔二〕櫻の花を見る事。

はなみ 花蕚(名) 木の花と其實と。

はなみ 葉並(名) 草木の花の幷び工合。

はなみ 齒並(名) 齒の生ね並び方。

はなみどり 花見鳥(名) 鶯の異名。(和泉式部集)

はなみち 花道(名) 芝居の舞臺に俳優の出づる路。能舞臺の橋掛の如きもの。

はなみぞ 鼻溝(名) 鼻の下の竪に溝の如く凹みたる處。

はなみづ 鼻水(名) 鼻の穴より出づる液。

はなみづ 花水(名) 佛に花を手向くる爲の水。○謠曲「庭の板井を結ひあげて花水さし」

はなみづき 花見月(名) 三月の異名。太陰暦にては櫻の花見する月なる故に云ふ。

はなみね 鼻峰(名) 鼻の先。

はなし 話・噺・咄(名) 〔一〕話す事。●談話。●物語。〔二〕噂。●風聞。〔三〕譯。○「見られた噺でない」

はなし (名) 其儘に捨て置くの意。「取りばなし」「送りばなし」の類。

はなじろ 鼻白(名) 馬などの鼻端の白きもの。

はなじろむ (自動四段) 氣おくれがする。●耻かしがる。○源氏「皆臆しがちに鼻白める多かり」

はなじほ　花鹽（名）　花形に造りたる燒鹽。攝州赤穗の名產。

はなしべ　花蕊（名）　花の中にある小さき糸の如きもの。

はなしどり　放鳥（名）　〔一〕放飼の鳥。〔二〕放生會に遇ふ鳥。

はなしどき　話伽（名）　話相手。

はなしる　鼻液（名）　鼻の穴より出づる汁。

はなしか　噺家（名）　落し噺、人情噺などするを業とする人。

はなしがひ　放飼（名）　生物を網など附けずに自由にして飼ひおく事。

はなしがめ　放龜（名）　〔一〕放飼にする龜。〔二〕放生會に遇ふ龜。

はなしやうぶ　花菖蒲（名）　草の名。花の咲く菖蒲。（はなあやめに同じ）

はなしづめ　（名）　鎭花祭の略。

はなしづめのまつり　鎭花祭（名）　古へ櫻の散る頃禁中にて行はるゝ祭。此頃は疾病の流行する季節なる故其神の心を鎭め和ぐるの趣意なり。

はなしね　花稻（名）　米を紙に包みて花の如く木の枝に附けて幣のやうに神に奉るもの。○夫木「山櫻吉野詣の花しねを尋ねん人の袖に包まん」

はかしぐち　話口（名）　話の樣子。●話工合。（俗）

はなじくろ　花柘榴（名）　木の名。柘榴の一種にて實を結ばざるもの。

はなしあひ　話合（名）　相談。●和談。

はなしあふ　話合（他動四段）　互に話す。●相談する。●打解けて語り合ふ。●共に謀る。

はなじんさい　花蓴菜（名）　水草の名。あさざの一名。

はなび　花火（名）　花の如く空中に打ちあげて觀覽に供する火。

はなひる　蓮（自動四段）　くさめする。○「高くはなひたるものいさにくし」（枕）

はなびら　葩（名）　花のびら〳〵する最も美しき部分。●花瓣。

はなびらゆき　葩雪（名）　落花の如くちら〳〵と降る雪。

はなびらもち　葩餅（名）　花瓣の形に似せ作りたる餅（永正狂歌合）

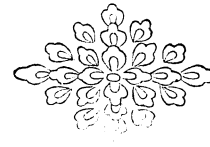
はなびし　花菱（名）　模樣また紋の名。花にて菱形をな

したるもの。〈圖一、二〉（一）

はなひせ 鼻塞（名） 鼻の詰る事

（和名抄）

はなびぜんかう 花火線香（名） 藁紙などに烟硝を附けて之に火を點ずれば花火の如き火花を出だす玩具。



はなもり 花守（名） 花の番人。（二）

はなぜきしゃう 花石菖（名） 石菖の一種。

はなす 話（他動四段） 語る。●言ふ。告ぐる。●談ずる。

はなす 放。離（他動四段） 〔一〕遠ざくる。●解き分くる。●別々にする。〔二〕捕へたる者を免す。

はなすぢ 鼻筋（名） 額より鼻のさきまで筋の通りて高き所。

はなずり 花摺（名） 木草の花を摺りつけて衣を染むる事。○「萩の花摺」

花摺衣（名） 花摺にしたる衣。

はなずりごろも

はなずはう 花蘇芳（名） 灌木の名。春の頃紫色の花咲き。後ち豆の如き實を結ぶもの。蘇芳の木とも云ふ。

はなずすり

はなずすき （名） 物に深く感する時すゝりなきする事

○源氏「忍びがたげなるはなすゝり」

花薄（名） 〔一〕穗の出でたる薄。●尾花。〔二〕重の色目。表白、裏薄。

はら 腹（名） 廣、平などと通音。◎〔一〕動物の體の前部の廣く平たき處。●又其腹の中。〔二〕心。●了簡。●根性。〔三〕物の中程の腹に似たるところ。〔四〕其子の宿りたる腹。〔五〕其腹に生れたる子を云ふ詞。○「后腹」「宮腹」

腹の意に同じ。◎〔一〕廣き平面の場所。○「天の原」「海原」「國原」〔二〕特には田畑村里ならぬ平地。●野原。

はら 薔薇（名） いばらの略。◎ぜうびに同じ。

ばら 蕀（名） いばらの略。◎〔一〕草木にある刺。〔二〕其棘のある草木。

ばら （助名） 人に關する名詞の複數をあらはす詞。たち。●等。●ども。○「法師ばら」「殿ばら」「うかれめばら」

はらひ 禊（名） 〔一〕神に祈りて災尼罪穢を拂ふ事。○

「水無月の祓」〔二〕祓へつ物に同じ。〔三〕祓の詞。○「中臣の祓」〔四〕祓箱の略。○「伊勢の御祓」

はらひ

拂(名)　〔一〕物を拂ひ除く事。〔二〕仕拂に同じ。價を拂ふ事。

はらひばこ

祓箱(名)　伊勢大神宮の祓串を入れたる箱……「お祓箱になる」といふは追ひ出さるゝ事。

はらいたみ

腹痛(名)　ふくつう。

はらひのかみ

拂紙(名)　女の髪を解く時その櫛に附きて拔けたる髪を入るゝ疊紙。

はらいせ

(名)　腹立を癒やす事。

はらろ

(他動)　張れるの轉。○萬葉卑歌「青柳のはらろ川門に汝を待つとせみどはくまずたちとならすも」

はらばひ

腹這(名)　はらばふ事。

はらはら

(副)　時雨、木の葉などの類の散りかゝる音。●物の散り亂るゝやうの有樣。●ばら〳〵●ばらりばらり。……(又)—ばら〳〵と。

はらばら

腹々(名)　本腹や妾腹やの意。●あの腹や此腹やの意。○源氏「御子どもあまたはら〳〵にものし給ふ」

ばらばら

(副)　〔一〕ばらばら又ちりぢりに同じ。(又)ばら〳〵と。〔二〕散亂して少しも纏まり居らぬ有樣。(又)—ばら〳〵に。

はらばふ

腹這(自動四段)　腹を下にして龜のやうに這ふ。

はらどり

腹取(名)　按摩。●按腹。○榮花「はらどりの女」

はらちがひ

腹違(名)　父は同しくして母の同じからぬ事。●異母。

ばらり

(副)　ばら〳〵に同じ。(又)—ばらりと。

ばらり

(感)　琵琶の音。△(副)—ばらりと。

ばらりからり

(感)　琵琶の音と箏の音と。△(副)—ばらりからりと。(謠曲)

ばらりずんと

(副)　利刀にて一切りに切り下ぐる音。

はらぬち

腹内(名)　腹の内。●意中。(謠)

ばらを

(名)　鼻緒の一種。〔一〕種々の細き緒を集めて造りたるもの。〔二〕竹の皮又は櫻樹の葉にて造りたるもの。

はらをきる

(句)　〔一〕切腹する。〔二〕腹痛する。〔三〕抱腹する。●大笑する。

はらたび　腹帶(名)　〔一〕腹に捲き着くる帶。●腹卷。〔二〕懷姙したる婦人の腹に捲くゆはだ帶。〔三〕馬の腹を括る帶。即ちはるび。

はらわた　腸(名)　〔一〕腹中にある管の如きもの。胃に始まり肛門に終る。●腸(ちやう)。●百尋(ひやくひろ)。〔二〕腸の形に似たる物。

はらか　腹赤(名)　魚の名。鱒の古名。

はらがはゥり　腹變(名)　父は同じくして母の異りたる事。●異母。

はらから　同胞(名)　〔一〕同腹の兄弟姉妹。〔二〕又同腹ならぬ兄弟姉妹にも云ふ。

はらかん　(名)　近古の武器の名。石火矢の類。

はらかのにへェ　腹赤贄(名)　昔し正月元日に佳例として筑紫より禁裡へ献じたる鱒の魚。……公事根源に曰く「腹赤の贄とて魚を筑紫より奉るなり。昔はやがて節會などに供しけるにや。腹赤の食樣とて食ひさしたるを皆取りわたして食ひたり。景行天皇の御宇。筑紫の國宇土の郡長濱にて海人之を釣りて奉る。その後聖武天皇の御時。天平十五年正月十四日太宰府より之を奉りける。これよりして年毎の節會に供すべきよし定めおかれたるなり」

はらかのそう　腹赤奏(名)　昔し正月元日禁中に行はれたる公事の一つ。腹赤の贄を奉れるよしを奏聞する事。

はらかのみにへュ　腹赤御贄(名)　はらかのにへに同じ。

はらかけ　腹掛(名)　裸體に着くる一種の腹當。

はらたかし　腹高(形。形狀言ク活)　懷胎して腹の高く脹れたる。

はらだたし　(形。形狀言シク活)　腹の立つやうな。

はらだつ　腹立(自動四段)　怒る。●立腹する。

はらだてじゃうご　腹立上戶(名)　酒に醉ひて立腹する人。

はらつづみ　腹皷(名)　腹を太皷の如く擊ち鳴らす事。〔一〕飽くまで食して滿足するさま。〔二〕狸のする所作。

はららに　(副)　ばらくに。●ちりぢりに。○萬葉「海士小舟はららにうけて」

はらかす　(他動四段)　散らす。●ちりぢりに碎く。○記「沫雪なす蹶ゑはらかして」

はららく　(自動四段)　散る。●碎け散る。

はららご

（名）　魚の腹籠りの子。

はらむ

孕。妊（自動四段）　〔一〕身ごもる。●身持になる。●姙娠する。●懐胎する。〔二〕膨脹する。●ふくれる。●含む。

はらん

葉蘭（名）　草の名。一莖一葉にして春の頃其下の方に紫の花咲くもの。……よく活花に用ひらるゝもの。●異名ば……馬蘭。●紫蘭。●一葉蘭。●一つ葉。●烏蕘。

はらん

波瀾（名）　〔一〕大波小波。〔二〕騒動。●闘着。〔三〕文章中大波小波の押しよする如く勢に乗じて語句を使用するを言ふ。

はらロふ

はらロふ

祓（他動下二段）　祓をする。

拂（他動四段）　〔一〕物事を退き去らしむる。●追ひやる。●取り捨つる……箒にてはらふ時は掃の字を用ひ夷狄をはらふ時には攘の字を用ふ。〔二〕拂ふが如き働を爲す。●はたく。●こする。●物を寄せ附けぬ。〔三〕買物の價を渡す。〔四〕賣買品ならぬものを賣る。

はらの

はらのむし

原野（名）　平原。●野原。

腹虫（名）　腹中に居る總べての虫。

はらのふえ

大角（名）　昔し戰陣に用ひたる笛。後世の螺貝の類。

はらぐろし

腹黒（形。形狀言ク活）　心の正しからぬ。●根性の惡しき。

はらくだり

はらくだし

腹下（名）　下痢。

腹下（名）　〔一〕下痢。〔二〕下痢。はらくだりに同じ。

はらまき

腹卷（名）　〔一〕鎧の一種。袖なくして背の方にて引き合するもの。其透間をば脊板にて塞ぐなり。又袖を附くゝ時は他の鎧の袖を取りて附くるものとす。○盛衰記「萌黄の腹卷に袖つけたり」。〔二〕腹帶に同じ。

ばらげ

はらこなし

はらごもり

（名）　女の島田髷に入るゝ根の無き髮。

（名）　消化を助くる爲の運動。（俗）

孕（名）　〔一〕胎中に兒の宿る事。〔二〕佛像の腹の中に又小さき佛像の入れてある事。

はらへ

祓（名）　祓はしめの意。神官又は陰陽師をして其事を行はしむる故の名。はらひに同じ。

はらへ

はらへつもの

祓（名）　はらひに同じ。

祓物（名）　祓をする人が其身の罪穢等を解除するために出だすもの。……天武紀に

詔して天下國別に、國造は馬一匹、布一常。郡司は各刀、鐵、刀子並一口、鹿皮一張、矢一具、稻一束。戸毎に麻一條を出して解除せしむるとあるの類。

はらへのぐ　**はらへぐさ**　**はらへぐし**

祓具(名)　はらへつものに同じ。(伊勢)

祓草(名)　はらへつものに同じ。

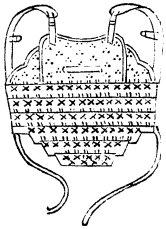
祓串(名)　伊勢神宮にて祓の神事を執行し其玉串を分ちて全國の人民に配布するもの。●お祓。……祓串の上包に四萬度など記したるは祓の詞を四萬返讀みて執行せしの意。

はらあはせ

腹合(名)　裏表別々のきれを縫ひ合す事。○「腹合の帶」

はらあて

腹當(名)　〔一〕鎧の一種。袖も草摺もなくして腹より脊に着くる雜兵の用具〔圖〕〔二〕胸から腹にあつる衣。即ち腹掛の類。



はらきり

切腹(名)　切腹。●割腹。

はらぎたなし

(形。形狀言ク活)　心の卑吝なる。●心の正しからぬ。

はらぬ　**はらめく**

孕婦(名)　孕みたる女。

(自動四段)　はら〳〵と音する。●はら〳〵と音して來る。●ばらつく。

はらみつ

波羅蜜(名)　梵語。譯して到彼岸と云ふ。此迷の岸を去りて彼悟の岸に到るの意。

はらみすすき　**ばらもん**

孕薄(名)　穗のまだ開かぬ薄。

婆羅門(名)　梵語。譯して淨行と云ふ。◎〔一〕上古印度に婆羅門、刹帝利、毘舍、首陀の四階級ありて婆羅門は宗教を司り學問などに從事せし種類。梵天王の裔なりと云ふ。〔二〕婆羅門種族の司る宗教。釋迦以前に早く起りて梵天王を祖とするもの。〔三〕伎樂の曲名。〔四〕佛者にては他宗教者といふ意にも用ふ。

はらす　**ばらす**

晴(他動四段)　晴れしむる。

(他動四段)　物を毀つ。●ばら〳〵にする。

はむ

食(他動四段)　食ふ。

はむ

食(他動下二段)　食はせる。

はむ

挿。嵌(他動下二段)　物を挿入る。●挾み込む。

はん　●其物に當てゝ入るゝ。●適當さする。

旛。幡(名)　旗の一種。佛事に用ふるもの。【圖】

はん　判(名)　〔一〕書き判。〔二〕印判。●印形。●印。

はん　判(名)　〔一〕判斷。●判定。〔二〕歌合の可否を判定する事。○「判の詞」「何がしの判」

はん　藩(名)　朝廷の守護となりて配下の所領を取締るもの。即ち德川時代の大名の統治する其範圍。○「金澤藩」「宇都宮藩」

はん　飯(名)　いひ。●めし。

はん　反(名)　〔一〕反對。〔二〕反切の略。

はん　版。板(名)　印刷するために書畫を彫刻したる板。●板木。

はん　叛(名)　謀叛。

はん　半(名)　〔一〕物事の半。●半分。〔二〕二にて割り切れぬ數。●奇數。

はん　絆(名)　きづな。●羈絆。

はん　畔(名)　ほとり。●邊。

はん　煩(名)　煩はしき事。

はん　範(名)　のり。●手本。

はん　繁(名)　しげきこと。

はん　帆(名)　船のほ。

はん　斑(名)　まだら。●ぶち。

はん　鷭(名)　水鳥の名。二種あり。大なるものは一名を川鴉といひ黑くして頭のみ白く趾に水搖あり。之を大鷭と呼ぶ。小なるものは形ち鳩に似て黑く眼の上と嘴とは赤くして趾は長けれども水搖なし。之を小鷭と呼ぶ。

はん　盤(名)　〔一〕食物を盛る器。〔二〕食器を載する臺。〔三〕碁、將棋、雙六などの臺。

はん　番(名)　〔一〕二つ以上ある物事の一組。●つがひ。○「相撲一番」「三十番歌合」〔二〕舞樂にて一番といふは萬歲樂に對するに延喜樂を以てし迦陵頻に對するに胡蝶を以てするの類。すべて二種の曲を一組とするの稱なり。之を番の舞と云ふ。〔三〕故に之より轉じて能狂言等の一段落をいふ詞。○「五番の能」〔四〕更に轉じて物事の順序を數ふる詞。○「三番議員」「二番には紀の國の紀三井寺」

ばん 番(名) 〔一〕順序。●順番。〔二〕其順番に當りて守るの意より起る詞。◎當番。●守護。

ばん 晩(名) 〔一〕夕暮。●黄昏。●薄暮。〔二〕夜。

ばん 麵包(名) 葡萄牙語より出つ。◎小麥粉にて造りたる食品。西洋人の常食とするもの。

はんゐ 範圍(名) かこひ。●區域。

はんろ 販路(名) 販賣の路。●賣れ先。●賣れ口。

はんらう 煩勞(名) 煩はしき事。●面倒なる事。

はんば 半端(名) 端はぬ事。●完からぬ事。●はした。

はんばい 販賣(名) 賣り捌く事。△(動)＝販賣す。

はんばかま 半袴(名) 長袴に對して言ふ詞。普通の袴。●小袴。

はんばつ 半髮(名) 前髮を剃り落し髻を結ひたる男の頭。

ぱんぱん 萬萬(副) 戴重にも。くれぐれも。

はんぱく 斑白(名) 髮の毛の白髮交ぢりになりたる事。

はんにち 半日(名) 一日の半分。

はんにん 判任(名) 官吏の階級に言ふ詞。●所屬長官の判によりて任命する事。●官吏の最下級。

ばんにん 番人(名) 番をする人。

はんにゃ 般若(名) 〔一〕梵語。譯して智慧と言ふ。〔二〕般若經の略。〔三〕能面の名。鬼女の形に作れるもの。◎般若坊と言ふ面打の作れる故の名。〔四〕それより轉じて神樂面にも言ひ。又鬼女の異名にも言ふ。

はんにゃたう 般若湯(名) 酒の異名。酒の文字を憚りて僧の言ひ替へたる詞。

はんにゃのふね 般若船(名) 佛の智慧もて愚痴の凡夫を助くる事を船にて溺者を救ふに喩へ言ふ。

はんにゃごゑ 般若聲(名) 般若經を讀誦する聲。○謠曲「あらあら恐ろしの般若聲や」

はんにゃきゃうぎょう 般若經(名) 釋迦の說きたる經文の一つ。……大般若經に同じ。

はんぽ 反哺(名) 幼時親より與へられたる丈の食を成長の後反し報ゆる事。……鴉に此事ありと言ひ傳ふ。

はんぽん 板本(名) 印刷せる書物。●印本。

はんぱう 繁忙(名) 繁務多忙。●多用。

ばんぼく 萬木(名) 多くの木々。

ばんぼく 滿目(形) まんもくの轉。◎眼前に見ゆる總べての。○謠曲「滿目青山は心にあり」

はんぺい 藩屏(名) 藩は籬の意。屏は塀にて外圍の意。

◎垣塀と爲りて王室の守護を爲すもの。すなはち維新前の諸藩。

ばんぺい 番兵(名) 陣營を守る兵卒。

はんべり 侍(自動四段) はべりに同じ。《雅》

はんぺん 半片(名) 食品の名。蒲鉾の一種。

はんと 版圖(名) 〔一〕其領地の繪圖。〔二〕領分。

はんと 半途(名) 〔一〕行く道の中途。〔二〕事業の中途。

はんとり 判取(名) 判取帳の略。

はんとりちゃう 判取帳(名) 商家にて用ふる帳面。金錢物品受渡の證印を受け置くもの。

はんたう 半島(名) 水中に突出して三方海に面し一方のみ陸に接する土地。

はんどう 反動(名) 物體に一の動力を與ふれば其れに對して反對に起る力。

ばんどう 番頭(名) 商店の雇人の頭。

ばんどう 坂東(名) 足柄山以東の地。＝關東に同じ。

ばんどう 晩冬(名) 冬の末。太陰曆の十二月。

ばんちゃう 番長(名) 〔一〕中古以後の官名。近衞府の舍人の長。〔二〕侍從長。

はんちじ 藩知事(名) 維新後置かれし官。德川時代の藩主にして今の縣知事の如く其藩を主宰せしもの。

はんちく 斑竹(名) 竹の一種。幹に斑點あるもの。

ばんちゃ 番茶(名) 下等の茶。

はんちゅう 藩中(名) 其藩中の士人。＝藩士に同じ。

ばんり 萬里(名) 長き里數。●遠きところ。

はんりょう 藩領(名) 其藩内の領地。

はんりゃう 半兩(名) 支那秦の代の銅錢の名。穴の左右に兩の字あるもの。

ばんりょう 盤領(名) 衣服の襟の稱へ。袍、直衣、狩衣などの如く圓形なる襟。＝くびかみに同じ。

はんりょうし 泛龍舟(名) 雅樂の曲名。

はんりん 半輪(名) 〔一〕丸きもの、半分。〔二〕半月。●片割月。

はんりょうじ 泛龍寺(名) はんりょうしに同じ。

はんたう 反應(名) 〔一〕裏切り。●反忠(かへりちゅう)。〔二〕或物に或物を投して異狀の顯はるゝ事。《化學》

はんか 反歌(名) 古體長歌の後に附きたる短歌。◎支那にて荀子に反辭と稱へて賦の後に一篇の括りを述べたるものあり。是等の類に擬して奈良時代の歌人の私に創めしものなら

ん。萬葉集の外には反歌を用ひたる例古人に無し。德川時代に至りては萬葉に擬して古學者多く之を用ふ。

ばんか　輓歌(名)　〔一〕柩を送る時の歌。〔二〕人の死を悼む歌。●悲しみの歌。(萬葉)

ばんか　晩霞(名)　夕暮の霞。

ばんか　晩夏(名)　夏の末。太陰曆の六月。

はんかい　半開(名)　〔一〕花の半ば開く事。〔二〕國の半は開化の域に進む事。

ばんかぢ　番鍛治(名)　昔し諸國より上京して勤番した る鍛工。

はんかがみ　判鑑(名)　印鑑(いんかん)に同じ。

ばんかた　晩方(名)　夕暮。●黄昏。●薄暮。(俗)

はんかぱ　半合羽(名)　合羽の短きもの。

はんかつう　半可通(名)　通人ぶる人。●生物識。

はんかん　反間(名)　〔一〕廻し者。●間者。〔二〕流言を放ちて敵を惑はしむる事。

はむかふ(コウ)(ウ)　齒向(自動四段)　〔一〕獸などの嚙み付かんとする。〔二〕敵對する。●手向ひする。●抵抗する。

はんかく　半額(名)　半數。……多く金錢に云ふ。

ばんがく　晩學(名)　齡の末の學問。●老後の學問。

はんかざ　半跏坐(名)　佛像に云ふ詞。半分あぐらかきたるの意味。◎釋迦の座像の如きすわりかた。

ばんがさ　番傘(名)　下等なる傘。

ばんがしら　番頭(名)　武家の役名。一隊の番士の長。

はんよう　繁用(名)　用務の繁多なる事。●多忙。

はんた　繁多(名)　用事の多き事。

はんだ　半田(名)　鉛と錫との合金。金屬の接合に用ふる物。

ばんた　番太(名)　番太郎の略。

はんたい　反對(名)　うらうへ。●裏表。●ありやこりや。●あべこべ。△(動)—反對す。……うらうへになるの意。

はんだい　飯臺(名)　數人集まりて共に食事する臺。●食卓。

はんだい　板臺(名)　魚を料理する時に水を入れおく小判形の淺き桶。

ばんだい　板臺(名)　湯屋などにて番人の居る高き臺。

ばんたらう(ウ)　番太郎(名)　番小屋の番人。畧して番太ともいふ。德川時代江戸の町々の木戸に置き

たるもの。

ぱんだね 麹酵(名) 〔一〕麪包を膨らすに用ふる酒。〔二〕基督教にては感化の源といふ意に用ふ。

はんだん 判斷(名) 可否眞僞等を分ち定むる事。△(動)—判斷す。

ばんたん 萬端(名) 萬事。萬般

はんだいふ 半太夫節(名) 半太夫節の略。

はんだいふぶし 半太夫節(名) 淨瑠璃の一種。元祿頃盛に行はれたるもの。始は半之亟といふ人の作り出したるゆゑの名。

はんれい 凡例(名) 書物の初の處に置く全部の要領。

はんれき 頒曆(名) 曆を頒布する事。

はんざふ 半挿(名) 〔一〕古は水を物に注ぐ器の名。今の水さしの類。◎和名抄に「或說に云ふ。柄あり半ば其内に挿む故に呼んで半挿と爲す」とあり。〔二〕後世は耳盥の一名。

ばんそう 伴僧(名) 葬禮に伴ふ僧侶。

ばんそう 番僧(名) 禁中に宿直する僧。●夜居の僧。

ばんざう 番匠(名) ばんしやうに同じ。(雅)

ばんざうかう 絆創膏(名) 膏藥の名。傷口を閉つるに用ふるもの。

はんつる 反對(名) はんたいに同じ。

ばんづけ 番附(名) 芝居の外題と役者の當役とを記したる目錄。●相撲の取組の目錄。

はんねん 半年(名) 一年の半分。

ばんねん 晩年(名) 末の年齡。●老年。

はんらん 汎濫(名) 水の溢れ滿つる事。△(動)—汎濫す。

はんむ 繁務(名) 用務繁多なる事。●いそがしき事。●多忙。

はんのき 榛木(名) 木の名。榛に同じ。

はむく 齒向(自動四段) 齒向ふに同じ。○謠曲「はむいたるつばものも」

はんくわ 繁華(名) 都會などの賑はふ事。

ばんくわ 晩花(名) 咲きおくれたる花。●遲櫻。

ばんくわい 挽回(名) 挽き回す。●引き戻す。●とりかへす。●恢復。△(動)—挽回す。

ばんぐわい 番外(名) 〔一〕順序の外。●番號の外。〔二〕會議の席にて議員外の人。

はんぐわん 判官(名) 〔一〕中古以來の官制。使といふ役處の目附役。○「鑄錢判官」「勘解由判官」……

はんぐゎんだい　尉の異名を云ふ時は發音ホウグワンなり。ほうぐゎんの處を見よ。〔二〕裁判官。

判官代(名)　院の御所の目附役。またホウグワンダイとも讀む。

はんぐつ　牛靴(名)　洋風の淺靴。

はんぐみ　番組(名)　〔一〕演藝の組み合せ。●演奏の順序。〔二〕番組を記したる紙。●曲目。●目錄。

ばんや　番屋(名)　番人の居る家。●番小屋。

ばんや　麭包屋(名)　麭包を賣る家。又は賣る人。

はんまい　飯米(名)　飯に炊く米。

はんまちどり　(名)　濱千鳥の謠詞。○狂言謠「はんまちどりの友よぶ鳥は」

はむけ　羽向(名)　翼を其方に向くる事。○新拾遺「秋風に山飛び越ゑて來る雁の羽向に霧ゆる峰の白雲」

はむけ　葉向(名)　葉を其方へ向くる事。葉を其方へ向けしむる事。○新古今「いつしかと萩の葉向のかたよりにそゝや秋とぶ風もきこゆる」

はんげ　半夏(名)　半夏生に同じ。

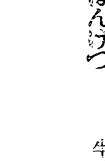
はんげ　半夏(名)　草の名。半夏の頃花咲くもの。花をば鴉柄杓といひ。根は藥に用ふ。

ばんけい　晩景(名)　〔一〕夕暮の景色。〔二〕夕方。

はんけち　(名)　英語ハンカチーフの訛。◎金巾または絹にて作れる四角の手拭。

はんけつ　判決(名)　法律上の詞。公式に據りての判斷。

はんげつ　半月(名)　〔一〕一ヶ月の半分。〔二〕半は缺けたる月。●弦月。●三日月。〔三〕三日月形の兜の前立。〔圖〕



はんけん　版權(名)　書畫等の出版專賣の特權。法律上政府は保護して他人の犯すを許さゞるもの

はんげき　繁劇(名)　多忙なる事。●繁忙。●繁務。

はんげしやう　半夏生(名)　暦の詞。夏至の後十一日目に當る季節。

はんぷ　頒布(名)　分配。●配布。△(動)―頒布す。

ばんぶつ　萬物(名)　天地間の總べての物。

はんぶん　半分(名)　二分の一。●半。●一半。

はんぷう　瘢風(名)　皮膚病の一種。―なまづに同じ。

はんぷうし　半風子(名)　風の異名。◎風の文字を解剖して云ふ。

はんぷく　半腹(名)　山の峯と麓の間。

はんぷく　反覆(名)　心をひるがへす事。△(動)—反覆す。

はんぷく　反覆(名)　くりかへす事。△(動)—反覆す。

はんぷく　萬福(名)　萬事多福なる事。○「萬福を祈る」

はんぷたう　萬夫不當(名)　萬人と雖も當るべからざる程に強き事。

はんこ　判子(名)　印判。(俗)

はんこ　(名)　半ば剃りたる髪。半髪頭。

はんご　反語(名)　語學上の詞。意味を裏返らしむる語。「さざるべけんや」「おもふましやば」の類。

ばんこ　萬古(名)　萬古燒の略。

ばんこ　萬古(名)　萬年の後。永久。

ばんご　萬戸(名)　多くの家々。國内一統の人家。

はんごんかう　反魂香(名)　死人の魂魄を招き返すと云ふ靈藥。支那の東海に祖州といふ處ありて反魂香を出だすよし山海經に見ゆ。又西海の聚窟洲といふ處に反魂樹といふ木ありて之を伐り汁を煮取りて丸藥に作るといふ事も十州記に見ゆ。○謠曲「いかなれば漢王は。李夫人の御別れを歎き給ひ。云々。李夫人の面影を。暫くこゝに招くべしとて。九華張のうちにして。反魂香を燒き給ふ」

はんかう　版行(名)　〔一〕書籍を出版して發賣する事。〔二〕誤りて版木をいふ。〔三〕又印判、印形を云ふ。

ばんが　番號(名)　順序のしるし。番數。號數。

ばんこうく　蕃紅花(名)　草の名。=さふらんに同じ。

ばんこく　萬國(名)　地球上すべての國。

ばんこくこうほふ　萬國公法(名)　法律上の詞。國と國との關係を現定する法律。當今謂ふゆる國際法の古き譯語。

ばんごや　番小屋(名)　番人の居る小屋。

ばんこやき　萬古燒(名)　陶器の一種。伊勢の國朝明郡小向村より產するもの。

ばんゑ　盤繪(名)　舞樂の裝束などに用ふる模樣の名。獅子の丸、熊の丸等を常とす。鬼など畫がけるもあり。◎盤は借字にて丸き模樣なれば盤繪と書くが正字ならんとの說もあり。之に從へば盤はめぐるとも

讀みて丸きの意。〔圖〕

はんえい 繁榮(名) 繁り榮ゆる事。●繁昌。△(動)—繁榮す。

はんえり 半襟(名) 婦人の常服又は襦袢などに縫ひ付けて掛くる襟。

はんてい 藩邸(名) 藩主の屋敷。

ばんでなけ 番手桶(名) 雜巾がけなどに用ふる手桶。

はんてん 半纏(名) 羽織に似たる下等社會の服。襟のかへりなく前に紐をも附けず。

はんざ 判座(名) はんじゃに同じ。(雜)

はんさい 燔祭(名) 猶太教の一儀式。羊を燒きて神に捧ぐるもの。

はんさい 斑犀(名) はんさいのおびの略。

はんざい 犯罪(名) 罪を犯す事。

ばんざい 萬歲(名) 〔一〕萬年。●よろづよ。〔二〕天皇陛下を始め奉り其他をも祝ふ時に云ふ詞。◎萬歲ましませの意。

はんさいのおび 斑犀帶(名) 昔し四位五位の官人朝服の時の革帶の名。

はんさつ 藩札(名) 德川時代藩にて製造したる銀札。其藩内にのみ行はるゝもの。

はんざつ 煩雜(名) 混雜。●錯雜。

はんさん 半産(名) 臨月以前に出産する事。●流産。

ばんさん 晩餐(名) 夕飯。●晩食。

はんざき 半割(名) 魚の名。山椒魚の一名。

はんざし (名) 笘刺(はぢさし)の音便。

はんき 半旗(名) 洋風の禮式。吊意を表する爲に旗竿の中途に國旗を掲ぐる事。

はんき 半期(名) 一期の半分。

はんき 半季(名) 一年を二つに分けて云ふ詞。上半季は一月より六月まで。下半季は七月より十二月まで。

はんぎ 版木(名) 板に同じ。

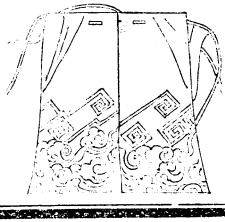
ばんき 萬機(名) よろづの政。

ばんぎ 板木(名) 釣り下げて相圖などのため槌にて打ち鳴らす板。

はんきり 半切(名) 半切紙の略。

はんぎり 半切(名) 能裝束の名。袴の一種。大口の仕立に同じくして模樣の附きたるもの。

〔圖〕



はんきりがみ 半切紙(名) 全紙を横二つ切にしたるもの。●書信用の紙。

はんぎゃうぎょう 判形(名) 印形に同じ。

はんきん 半金(名) 其金高の半分。

はんきん 輓近(名) 近年。●最近。

ばんきん 版金。判金(名) 大判小判の總名。……大判を主として呼ぶ事あり。

ばんきのまつりごと 萬機の政(名) 萬機に同じ。

はんきゅう 半弓(名) 大弓の半分程の大きさの弓。

はんきゅう 半球(名) 地球を二分したる一方。○「東半球」「西半球」

はんきゅう 斑鳩(名) 〔一〕鳥の名。=いかるがに同じ。

はんぎし 版木師(名) 版木を彫る工人。●版木屋。●版彫り。

はんめい 反命(名) 使に行きて其返事と成行とを上申する事。●復命。△(動)—反命す。

はんめん 半面(名) 〔一〕兩面あるもの、一面。〔二〕一面の半分。〔三〕其人の顔を少し知り居る事。●「半面の識」

はんみち 半道(名) 一里の半分。

はんめうみょう 斑猫。斑蝥(名) 虫の名。毒の猛烈なるもの。

ばんみん 萬民(名) 多くの人民。●すべての人民。

はんし 半紙(名) 紙の名。◎昔は延紙を半分にせしもの故に此名あり。

はんし 藩士(名) 其藩の侍。●大名の家來。○「水戸藩士」「彦根藩士」

はんし 半死(名) 半ば死したる事。

はんじ 判事(名) 罪人を裁判する官の名。昔は刑部省に屬して大中少の三等あり。四人に過きず。現今は司法省に屬して敕任あり奏任あり其人數に制限なし。

ばんし 番士(名) 〔一〕番に當りたる士人。〔二〕其組々々の士卒。

ばんじ 萬事(名) 總べての事。

はんしはんしょう 半死半生(名) 半は死し半は生きたる事。●死に瀕する事。

はんじり 半尻(名) 中古貴族童形の裝束。狩衣に似て裾の短きもの。〔圖〕

ばんしょ 番所(名) 往來の人を

監査する爲に番人の詰め居る所。●關所。

はんしょう

半鐘(名)　釣鐘の小さきもの。◎其大きさ釣鐘と鈴との半に居る故の名。

はんじゃうう

繁昌(名)　榮ゑ賑ふ事。●繁榮。●昌盛。△(動)—繁昌す。

はんしょう

晩鐘(名)　暮の鐘。●入相。

はんしゃうう

番匠(名)　〔一〕昔し飛彈大和等の國々より京都に上りて勤番せし大工。〔二〕足利頃にハ大工の事。

はんせうう

蕃椒(名)　草の名。たうがらし。

はんじょうう

萬乘(名)　天皇の御位。◎孟子の註に「兵車萬乘は天子を謂ふなり」とあり。

はんじゃうう

番上(名)　〔一〕番に當りて禁中に宿直する事。●當直。〔二〕京都もしくは禁中に交代勤番する役。

はんしょく

繁殖(名)　動物の殖る盛がる事。△(動)—繁殖す。

はんじょや

番匠屋(名)　はんしゃうやの略。

はんじゃうや

番匠屋(名)　番匠の〔二〕に同じ。

はんしたはんしん

版下(名)　版木に彫る下書。

半身(名)　〔一〕人體の半分。○「半身不隨」〔二〕其上部。○「半身の寫身」

はんしん

番新(名)　番頭新造の意。◎遊女に使はるゝ主席の侍女。

はんしんはんぎ

半信半疑(句)　半は信し半は疑ふ事。

はんしんふずゐ

半信不隨(句)　病にて半身感覺を失ふ事。

はんしく

斑枝花(名)　蔓草の名。バッヤの一名。

はむしゃ

半武者。端武者。葉武者(名)　雜兵。●雜卒。

はんしゃ

反射(名)　光線の照り反し。△(動)—反射す。

はんじゃ

判者(名)　〔一〕審判官。〔二〕特別に歌の可否を判定する人。

はんしゃろ

反射爐(名)　銅鐵を熔解せしむる大仕掛の爐。大砲など鑄るに用ふるもの。

はんじゃく

磐石(名)　大なる石。●巖。

はんじゃくのり

磐石糊(名)　糊の一種。麩にて製したるもの。◎磐石の如く堅固に附く故の名。

はんしき

盤渉(名)　はんしきでうの略。

はんしきでう

盤渉調(名)　雅樂の調子の名。冬の時候に相當する調子。

はんしゅ

藩主(名)　藩の主人。●大名。

はんじゅ

判授(名)　中古以來の制八位以下の叙位の方法。

所屬長官の判によりて授くる事。今の判任に似たり。

ばんしゅん 晩春(名) 春の末。太陰曆の三月。

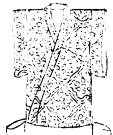
ばんしゅう 晩秋(名) 秋の末。太陰曆の九月。

はんじゅく 半熟(名) 半は煮ゐ半は煮ゐぬ事。●生煮ゐ。

はんじもの 判じ物(名) 謎の類にて意味を遠まはしにし判斷さするもの。……月の字を逆さまに書きて盃(逆月)と讀ませ。闇夜に壯士の居る畫をかきて枕草紙(眞闇壯士)と當てさする類。

はんび 半日(名) 二にて割り切れぬ日。奇數の日。……一日三日五日の類。

はんぴ 半臂(名) 束帶衣冠などの時下襲と袍との間に着する下着。袖なくして洋服のチョッキに似たる姿あり。〔圖〕



はんも 繁茂(名) 草木などの生ひ茂る事。△(動)—繁茂す。

はんもと 版元(名) 書籍出版者。●發兌元。●出版人。

ばんもつ 萬物(名) ばんぶつに同じ。

はんもん 斑紋(名) 斑の模樣。●斑々。

はんもん 煩悶(名) 悩へ苦しむ事。△(動)—煩悶す。

はんせい 半生(名) 人間一生涯の半分。

はんせい 反省(名) 我身を省みる事。△(動)—反省す。

ばんせい 萬世(名) よろづよ。

はんせつ 萬歳(名) ばんざいに同じ。足利時代頃は多く此發音を用ふ。

はんせつ 半切(名) 自紙唐紙畫仙紙などを竪二つ切りにしたるもの。

はんぜん 反切(名) 支那にては我假名または羅馬字の如く發音を示す文字なきが故に二字を約音にして之を示すの法。……たとへば薑亦の切と云ひて尺の音を示し。尼與の切といひて女の音を示すの類。

はんぜん 判然(副) 明らかに。●はっきりと。●たしかに。●てきぱきと。(又)—判然と。(形)判然たる。

はんぜん 萬全(名) 總べて完全なる事。

はんせき 藩籍(名) 藩の領分。

はんす 反(自動サ變) 〔一〕反對する。〔二〕謀反する。

はんず 判(他動サ變) 〔一〕辨別する。●判斷する。〔二〕判定する。〔三〕判じ物を當つる。

ばんず
はんすり　晩(自動サ變)　暮るゝ。●夜に入る。
版摺(名)　〔一〕版木を摺る事。〔二〕版木を摺る人。

はう
はふ
はふ　ホウと發音する詞はほうの部にあり。ホウと發音する詞はほうの部にあり。
這(自動四段)　〔一〕腹を地に附けて歩く。……大蛇などの進み行くさまを云ふ。〔二〕延び擴かる……蔓草の生長するさまを云ふ。

はふ　延(他動下二段)　引き延ばす。●引き張る。○後撰「青柳の糸よりはへて織るはたを」
ほの部を見よ。

はふはふ
はうたはつ　羽團扇(名)　鳥の羽にて作れる團扇。能樂にて天狗の持つもの。〔圖〕

はふり
はふる　はふの處を見よ。
はうた　端唄(名)　小唄の一種。簡單にして下品なるもの。
ほの部を見よ。

はふこ
はのはやし　羽林(名)　大將、中將、少將の異名。〔うりんに同じ。(夫木)

はのぼる
はのじ　葉上(自動四段)　葉をのぼる。
巴の字(名)　曲水の宴に云ふ詞。菅原道眞の文に「巴字を書きて地勢を知なり」とあるより出でたる詞にて其盃を流す水の形が巴の字すなはち巴の形の渦まきたるが如しとの意。○夫木「かきし巴の字の春の夜の夢」

はく　白(名)　しろき事。●しろ。

はく　帛(名)　絹布の最上のもの。細き絹糸にて織りたるもの。練りて白くしたる絹。

はく　伯(名)　〔名〕神祇官の長官。●神祇伯。〔二〕現今五爵の第三。●伯爵。〔三〕神。

はく　泊(名)　とまり。●旅宿。

はく　舶(名)　ふね。●大船。

はく　箔(名)　金銀銅錫などを薄くしたるもの。○「箔を押す」「箔を置く」「箔を散らす」

はく　魄(名)　たましひ。……人死して冥途に行くたましひを魂といひ。此土に留まるものを魄といふ。

はく　掃(他動四段)　〔一〕塵を掃ふ。●掃除する。〔二〕掃除するやうなる働を爲す。○「眉をはく」「紅をはく」

はく

吐(他動四段)　口から物を出だす。

はく

(他動四段)　腰又は足に着くる。〔一〕(佩)太刀を帶ぶる。……帶に差すに非ずして腰に釣り下ぐるを云ふ。〔二〕袴を着くる。〔三〕(履)足袋、靴、下駄、草履を着くる。

はぐ

剝(自動下二段)　〔一〕附着せし物の離るゝ。●はがれる。〔二〕塗りたるもの〻色のさめる。〔三〕(禿)髮の毛の拔けて皮膚のあらはるゝ。

はぐ

剝(他動四段)　むく。●へぐ。●はがす。●衣服などを脫がす。●官位などを取上ぐる。

はぐ

矧(他動四段)　矢を作る。

はぐ

矧(他動下二段)　弓に矢をつがふ。●はめる。

はぐ

(他動四段)　綴り合はす。

ばく

貘(名)　惡魔を拂ふといふ想像の獸。形は熊に似て犀の目、象の鼻、虎の足、牛の尾を俱へ。人もし惡しき夢を見る時には之に食はしめて其害を避けんとするの俗說あり。故に恐ろしき夢、悲しき夢など見たる人は覺めて後貘々と數聲稱ふるを習とす。

ばく

縛(名)　惡魔をしばる繩。不動明王の左手に持つ繩。

ばく

化(自動下二段)　不思議の變化を爲す。●狐狸などが形を變へて他の物と見せる。

ばぐ

馬具(名)　馬乘道具。

はくひぃむし

葉食虫(名)　虫の名。芋虫の一名。

はくろ

白露(名)　〔一〕白き露。〔二〕二十四氣の一にて寒き露の降る季節。

はぐろ

齒黑(名)　はぐろめの略。

ばくらぃう

博勞(名)　馬の賣買を業とする人。

はくろく

薄祿(名)　僅の俸祿。

はくろく

博陸(名)　關白の異名。◎支那にて前漢の霍光が博陸侯に封ぜられたるより起る。

はぐろめ

齒黑(名)　女または中古公卿の齒を染むる爲め鐵片を酒の中に入れて酸化せしめたるもの。●おはぐろ。●かね。

はくば

白馬(名)　〔一〕白毛の馬。〔二〕青馬。白馬の節會に用ふる馬。

はくばい

白梅(名)　白き梅の花。●しらうめ。

はくはつ

白髮(名)　しらが。

はくはん

拍板(名)　田樂の用具。びんざゝらの一名。

ばくはん

麥飯(名)　むぎめし。

はくばのせちゑ

白馬の節會(名)　中古朝廷儀式の一つ。

正月七日天皇豐樂院に出御ありて青馬を覽給ふの式。……公事根源に曰く「白馬の節會を或は青馬の節會とも申すなり。其故は馬は陽の獸なり。青は春の色なり。是によりて正月七日に青馬を見れば年中の邪氣を除くといふ本文侍るなり」

ばくばく　（副）　ばくりに同じ。（又）―ばくばくと。

はくぼ　伯母（名）　父母の姉。◉をば。

はくぼ　薄暮（名）　うすくれがた。●黄昏。●夕暮。

はくぼく　白墨（名）　しらすみ。塗板に文字又は圖などかくに用ふるもの。

はくべら　藁葉（名）　草の名。はこべ。（和名抄）

ばくと　博徒（名）　博奕をする人。◉ばくちうち。

はくどう　白銅（名）　〔一〕鑛物の名。ニッケル。〔二〕銅と安質母に錫および亞鉛少量を加へたる合金。〔三〕五錢銀貨の異名。

はくとうをう　白頭翁（名）　〔一〕白髮の老人。〔二〕掠鳥（おくり）の一名。

はくち　白痴（名）　馬鹿。●阿呆（あほう）。

ばくち　博打（名）　〔一〕ばくうちの略。●博奕をする人。◉ばくちうち。（字治）〔二〕博奕。

ばくち　驀地（副）　驀然と。まっしぐらに。（又）―驀地に。

はくてう　白鳥（名）　〔一〕鳥の名。―鵠（くぐひ）に同じ。全身白くして脚黑く頸細長きもの。〔二〕德利の一種。白き陶器にて頸長く白鳥の形に似たる物。

はくちやう　白張（名）　〔一〕しらはりに同じ。昔し朝家公卿幕家の下男の着る白布の狩衣。

〔二〕（白丁）白張を着る仕丁。〔圖〕

はくちやうぼし　白張烏帽子（名）　白張を着る時に被る烏帽子……はくちやうの圖を見よ。

ばくちうち　（名）　博奕をなす人。博徒。

ばくちく　爆竹（名）　〔一〕左義長に同じ。〔二〕竹に火藥を詰めて火に焚くもの。支那人の祝日に行ふ事。

はくちゆう　白柱（名）　雅樂の曲名。

はくちう　白晝（名）　眞晝間。●日中。

はくちう　伯仲（名）　兄と弟との意味にて優り劣りのな

き事。●同等なる事。○「伯仲にあり」

ばくり 幕吏(名) 幕府の官吏。

ぱくり (副) 〔一〕唇の先を内へ入れて音させつゝ物食ふ有樣。〔二〕齒の拔けたる老人の物食ふ有樣。(又)—ぱくりと。

ばくりと (副) ぱたりと。●ごさりと○落窪「ばくりとつゐすゑられて」

はぐる (他動四段) 剝ぐに同じ。●まくる。

はぐるま 齒車(名) 機械などに用ふるものにてまはりに齒のある車。

はくわい 破壞(名) やぶりくづす事。●打ちこはし。△(動)—破壞す。

はくッか 薄荷(名) 草の名。春生じて葉は鋸齒をなし秋白紫の花咲く。藥品薄荷油。薄荷晶は此草より製出す。

はくが 博雅(名) 物織。●博識。

ばくッか 幕下(名) 〔一〕將軍の尊稱。〔二〕將軍配下の人。

はくがく 博學(名) 學識の博き事。●碩學。

はくやう 白楊(名) 木の名。はこやなぎ。

ばくやう (名) はくやくの音便。◎博奕。(雅)

ばくたい 莫大(名) これより大なるは莫きの意。●廣大。●非常。(形)—莫大なる。(副)—莫大に。

はくだつ 剝奪(名) 官位などを剝ぎ上ぐる事。●褫奪。●(動)—剝奪す。

はくたく 傳託(名) 莫子の名。饂飩粉にて作りたるもの。ほうたう。

はくたく 剝喙(副) 戸を叩く音。

はくれい 魄靈(名) たましひ。●魂魄。●幽靈。○謠曲「魄靈の影は失せにけり」

はくれつ 爆裂(名) 火氣を受けて破裂する事。△(動)—爆裂す。

はくれつだん 爆裂彈(名) 爆裂するやうに出來たる鐵炮玉。

はくそ 齒屎(名) 齒に溜る垢。

はくざッうす 白藏主(名) 狂言面の名。釣狐に用ふるもの。

はくらい 舶來(名) 外國より船にて持來る事。△(動)—舶來す。

はぐらかす (他動四段) はぐれしむる。●はづれさす。

はくらん 博覽(名) 博く書物を覽る事。●博學。●多讀。

はくらんくゎい　博覽會(名)　天産人造の諸物を陳列して之を縱覽せしめ。また之を品評して優劣を定め以て産業の進歩を謀る爲の會。

はぐん　破軍(名)　破軍星の略。

はぐんせい　破軍星(名)　星の名。北斗七星の内の第七の劍形の星。……其劍先の指したる方は不吉の兆なりとて陰陽家にては忌む事なり。又軍を破ると云ふ名を勝軍の意に取りて軍陣の具などに之を畫かく事あり。

はくうち　箔打(名)　箔を打つ職工。●箔屋。

はくうち　博打(名)　ばくちうち。

はくうん　白雲(名)　しらくも。

ばくのなは　縛繩(名)　縛を見よ。

はぐくむ　(他動四段)　〔一〕親鳥の翼にて雛鳥を覆ひ包みて養ふを云ふ。○萬葉「旅人の宿りせん野に霜降らば我子はぐくめ天の田鶴むら」〔二〕養育する。

はくや　箔屋(名)　箔を造る職工。又は商ふ家。

ばくや　莫邪(名)　支那古代の名劍の名。

はくまい　白米(名)　搗き白げたる米。●精米。

はくッけい　伯兄(名)　一番の兄。

はくげんがく　博言學(名)　諸國の言語を比較攻究する學問。●原語學。●フ非ロロジイ。●フッイロロッジー。

はくげき　駁擊(名)　批難する事。●駁論。●駁議。〈動〉—駁擊す。

ばくげき　莫逆(名)　親密なる交。●刎刺。

はくふ　白布(名)　白き布。●しらぬの。

はくふ　伯父(名)　父母の兄。●おぢ。

ばくふ　幕府(名)　〔一〕將軍の居る所。〔二〕武家の政府。●覇府。

ばくふ　瀑布(名)　瀧に同じ。◎唐の曹松が天臺瀑布の詩に「萬仞得ノ名云」瀑布」

はくぶつがく　博物學(名)　學科の名。動物學、植物學、礦物學の總稱。

はくぶつくゎん　博物館(名)　天産と人造とを問はず古物と新品とを論ぜず總べての物を一堂に集めて衆人に縱覽せしむる所。

はくふん　白粉(名)　〔一〕白き粉。〔二〕おしろい。

はくぶん　白文(名)　〔一〕漢文の訓點なきもの。〔二〕白字に同じ。

はくぶん　博聞(名)　見聞の博き事。

はくこつ
はくッこう

白骨(名)　死して程經たる骨。●されかうべ。

白虹(名)　白色の虹。支那にて周の穆王の時西方に白虹十二道あり南北に貫通せし事を周書異記に記して「西方に大聖人あり滅度の魂相を現ずるのみ」と云へる事あるより彌陀來迎の光明などの形容にも用ふ。○謠曲「聖衆來迎の雲の上には。九品蓮臺の花散りて。異香みちみちて人に薰じ。白虹地に滿ちてつらなれり」

はくえ

白衣(名)　白き衣。……神佛天人などの類に多く用ふ。○謠曲「月宮殿の白衣の袖」

はくえん
ばくえき

白猿(名)　白毛の猿。

博奕(名)　物を懸けて勝負を爭ふ事。●賭博。●樗蒲。●ばくち。

はくあい

博愛(名)　博く愛する事。

はぐさ
はくさい

莠(名)　田に生じて稻を害ずる草の總名。

舶載(名)　外國より船にて持ち來る事。△(動)—舶載す。

はくざめ

箔鮫(名)　魚の名。つのじ。

はくぎ

薄儀(名)　薄き謝儀。●薄謝。……人に對して我謝儀を云ふ詞。

はくぎ

駁議(名)　駁論。●駁擊。

はぐき

齦(名)　齒の根を被ふ肉。●齒肉。

はくぎょ

白魚(名)　魚の名。＝白魚(しらうを)に同じ。

はくッきふッ
はくッきん

薄給(名)　僅の給料。

白金(名)　金屬礦物の名。其色は銅に似て熔解し難く金屬中最も貴重なるもの。

はくぎん

白銀(名)　〔一〕銀に同じ。〔二〕銀子(ぎんす)に同じ。通用銀三分に値したるものにて長三寸斗の隋圓形の地金なり。

はくめい

薄命(名)　不仕合なる事。●不幸。●不運。●薄運。

はくめん
はくし

白面(名)　素面。●むきだし。

白紙(名)　〔一〕白き紙。●字を書かぬ紙。〔二〕支那産の一種の名。書畫など書く廣き紙。

はくじ

白字(名)　印判に其文字を白く顯はす事。……朱字の反對。

はくしょ
ばくしょ

薄暑(名)　夏の初の暑氣。

曝書(名)　書物の虫干。△(動)—曝書す。

はくじょう

薄情(名)　情愛の薄き事。●義理も人情も構はぬ事。△(形)—薄情なる。

はくじょう

白狀(名)　〔一〕罪人の罪狀を申し立つる

紙面。〔二〕自身の罪科又は隱密の事を述ぶる事。△(動)—白狀す。

はくじつ　(名)　〔一〕晴天の太陽。〔二〕晝中。●日中。●晝間。

はくじん　白刃(名)　拔身の刀。●しらは。

はくじん　白人(名)　白晳人。●白色人種。

ばくじん　麥蕈(名)　菌の名。＝松露に同じ。

はくじゃ　白蛇(名)　白き蛇。

はくしゃく　伯爵(名)　現今五爵の第三位。

はくしき　白色(名)　能面の名。翁の一種。

はくしき　博識(名)　見聞の博き事。●物識。

はくしゅ　拍手(名)　掌を拍ち鳴らす事。神拜または喝采を表する時にするもの。

はくしゅ　薄酒(名)　弱き酒。

ばくしゅ　麥酒(名)　麥にて製したる酒。●ビールと。

ばくしゅう　麥秋(名)　麥の秋。五月頃をいふ。

はくひょう　薄氷(名)　うすごほり。

はくひん　白濱(名)　雅樂の曲名。

ばくもんどう　麥門冬(名)　草の名。山菅に同じ。根は藥に用ふるもの。龍の髯(りゅうのひげ)とも云ふ。

はくせい　剝製(名)　動物の外部のみ其儘に存して生きたる如くに造る事。動物學上標品として保存するに用ふ。

はくせつ　白雪(名)　雪に同じ。●しらゆき。

はくせっかこう　白雪糕(名)　菓子の名。蓮の實を入れたる落雁。色の白き故に云ふ。

ばくぜん　驀然(副)　急に進む有樣。●まっしぐらに。(又)—驀然と。(形)—驀然たる。

ばくせん　漠然(副)　取留めのなき有樣。●ぼっして。(又)—漠然と。(又)—漠然として。△(形)—漠然たる。

はくせき　白晳(名)　皮膚の色の白き事。

はくす　駁(他動サ變)　他の非を擊つ。●論破する。

ばくす　縛(他動サ變)　しばる。●繩を懸くる。

はや　甲矢(名)　弓を射る時其初に射る矢。

はや　(名)　魚の名。鮠(はや)に同じ。小さき河魚。

はや　早(名)　早速。●急使。●早飛脚。

はや　早(副)　早く〔一〕過去現在に言ふ詞。●最早既に。○拾遺「きのふこそ年は暮れしか春霞かすがの山にはや立ちにけり」〔二〕未來の願、命令に言ふ詞。●どうか早く。○玉葉「今年はやあすにあけなん足引の山に霞は立て

りとや見ん」古今「わたし守ぼや舟に乗れ日も暮れぬといひければ」

はや（感）よかなどの如く句の終に置きて感嘆の意を添ふる詞。○拾遺「君が住む宿の梢をゆくゝとかくるゝまでにかへりみしはや」源氏「常よりも暑さを人々わぶるに川づら涼しからんはや」

ばや（助動）願の詞。たいものじゃ○後拾遺「心あらん人に見せばや津の國の難波わたりの春のけしきを」……願のなんに似たる處あり。然れどもなんは他の働に就きて「夜もあけなん」「人も訪はなん」など云ひ是は我方の働に就きて「我も行かばや」など云ふの別あり。

はやいと（名）風の名。●暴風。＝はやてに同じ。

はやばんしょう（名）流行。

はやばしり（名）當時の風習。●りうかう。●今樣風。

はやにへ（名）速雄。心のはやりかなる男。●勇み立ちたる男。●血氣の若者。●短氣者。○盛衰「はやりをの若者二十五騎」

はやと（名）〔一〕氣のせきこみたる有樣。●心のみ進みて事の粗なる有樣。●氣ぜわしく。●せっかちに。●大いそきで。（形）—はやりかなる。（副）—はやりかに。○源氏「はやりかに走り書きて」〔二〕流行風なるを云ふ。（形）—はやりかなる。○源氏「はやりかなる曲のものなど教へて。（副）—はやりかに

はやとのつかさ（名）隼人司。はやびとのつかさに同じ

はやち（名）早糸。糸車よりつむにかくる糸。●調糸。

はやり（名）早半鐘。早鐘に同じ。

はやりを（名）早走。足早。●早足。（平治）

はやりが（名）早贄。其年の初物。鳥魚の類。○記「御世々々島の速贄獻る時猨女の君に給ふなり」

はやと（名）隼人。〔一〕隼人の略。〔二〕東百官の一つ。

はやりかぜ（名）流行風。

はやりうた（名）流行唄。

はやりやまひ（名）流行病。りうかうびゃう。……疱瘡

はやりごころ（名）虎列刺の類。

はやりめ（名）はやりやかなる心。●荒々しき心。●短氣。●短慮。

はやりを（名）流行の眼病。

はやる　流行(自動四段)　〔一〕一時世に行はるゝ。●流行する。〔二〕時めく。●もてはやさるゝ。○大鏡「堀川の攝政のはやり給ひし時」

はやる　逸(自動四段)　氣の進みに進む。●せきこむ。●勇む。

はやを　早緒(名)　〔一〕櫓繩。○夫木「五月雨に早緒の繩は朽ちはてゝ汐に引かるゝ舟ぞ危き」〔二〕橈を曳く繩。○山家集「たゆみつゝそりの早緒もつけなくに積りにけりな越の白雪」〔三〕早糸に同じ。

はやれひィ　早追(名)　德川時代に宿次の駕籠にて晝夜兼行する火急の使者。

はやをけ　早桶(名)　棺桶。◎出來合にて早く間に合ふの意。

はやわざ　早業(名)　手早くする技藝。

はやわせ　早早稻(名)　早稻に同じ。○拾遺愚草「種まきし室の早はせ生ひにけり」

はやかはッ　早川(名)　早く流るゝ川。

はやがはッり　早替(名)　芝居にて或一人に出でたつ俳優の忽然姿を變じて又他の人に爲りかはる事。

はやがね　早鐘(名)　火災などの時急劇に撞く鐘。●警鐘。

はやたつ　(名)　川の異名。○堀川「淵瀬をもそことも知らぬはやたつの」

はやつづみ　早皷(名)　能樂にて早打などの出づる時に用ふる皷の打方。

はやつけぎ　早附木(名)　マッチ。

はやなはッ　早繩(名)　罪人を縛る繩。●捕繩。

はやらかに　速(副)　早く。●速に。○宇治「家へはやらかにやりて」

はやらかなる　(形)　早き。●速なる。

はやらす　(他動サ變)　流行せしむる。●時めかしむる。

はやむ　(他動下二段)　早からしむる。

はやゥう　(副)　〔一〕早く。●速に。〔二〕最早。●既に。●もと。●むかし。●嘗て。●とっく。●とうに。○蜻蛉「贄の子にともしたりつる火ははやう消ねにけり」源氏「見し心地する水立かなと覺すはやう此宮なりけり」〔三〕どうぞ早く。○空穗「猶はやう參り給へ」

はやうち　早打(名)　早打馬の略。

はやうちうま 早打馬(名) 〔一〕急報を齎らして馬を走らする使者。〔二〕急使の乘馬。

はやうた 早歌(名) 〔一〕神樂歌の中の一種。〔二〕足利頃流行せし一種の小唄。早く唄ふ故の名。

はやうま 早馬(名) 〔一〕早打馬の略。●火急の使者。〔二〕急御用の時乘用の馬。

はやく 破約(名) 約束を破る事。●違約。ハ(動)—破約す。

はやく (副) 〔一〕はやう。●速に。〔二〕既に。●もと。●むかし。●嘗て。●とっく。●とうに。○古今「はやくより人を思ひそめてし」〔三〕どうぞ早く。○後撰「はやくも人に逢ひ見てしがな」

はやくち 早口(名) 物言ひの早き事。●早言。

はやくの (形) 早き。●むかしの。●先の。●最初の。○土佐「はやくの守の子」源氏「初瀬川はやくの事は知らねども」

はやま 端山(名) 〔一〕麓の山。〔二〕山の端。

はやまひィ 早舞(名) 能樂に用ふる舞の一種。融、海人、絃上等の曲の中にあり。

はやまる (自動四段) 早きに過ぐる。●はやる。●あせる。

はやふね 早船(名) 速力の強き小舟。●櫓を多く附けて早く進ましむる舟。●小さき軍船。

はやふえ 早笛(名) 能樂にて役者の舞臺に出づる時奏する音樂の一種。笛の吹方の早きものにて鬼神戰士などの出る時に用ふ。

はやぶさ 隼(名) 鳥の名。鷹の一種。體小にして力強く敏捷猛烈なるもの。

はやご 早具(名) 舊式の小銃に早く込める爲に作りたる火藥の小包。パトロンとも云ふ。

はやこと 早言(名) 早口に物言ふ事。

はやて (名) 風の名。暴風。●疾風。

はやざき 早咲(名) 〔一〕早く花咲く事。〔二〕早く咲く花。

はやさめ 早雨(名) 急雨。●俄雨。(記)

はやめぐすり 早め藥(名) 出産を早むる藥。

はやみち 早道(名) 〔一〕近道。〔二〕道を歩む事の早き事。●早足。〔三〕早く片附く方法。

はやし 林(名) 〔一〕木や竹の茂り立てる所。〔二〕又林の如く物の集まりむらがる所。○「星の林」「筆の林」「文の林」「歌の林」

はやし

囃子(名)　〔一〕鼓、太鼓、笛等の鳴物を用ふる音樂の總名。……但し足利時代以前の音樂には此詞を用ひず。〔二〕能樂にては一番の内の舞ある部分を鳴物入にて裝束なしに演するか。又は舞なしにて謠と鳴物とを奏する事に用ふ。

はやし

早(形)。形狀言ク活)　〔一〕疾し。●速なる。〔二〕するどし。●活潑なる。〔三〕古し。○「早くの世」〔四〕最初なる。○「朝まだ早し」

はやしかた

囃子方(名)　能樂芝居等にて鳴物を受持つ役の人。

はやしゃうぞく

早裝束(名)　能樂にてシテ一度樂屋に入り迅速に他の裝束を着替へて舞臺に出づる事。

はやしもの

囃物(名)　囃子の鳴物。

はやびと

隼人(名)　〔一〕上古大隅薩摩地方に住みたる人民の總稱。◎其猛き隼の如き故の名。〔二〕中古隼人司に屬して行幸の先驅、禁門の警固、大嘗會の犬吠を爲す官吏。もとは大隅薩摩二國より獻じたりとふ云ふ。

はやびとの

隼人の(枕)　薩摩の枕詞。隼人はもと薩摩地方の人の稱なりし故に冠らせたり。又一說には隼人は國の名ならんとも云ふ。○萬葉「隼人の薩摩のせごを雲井なす遠くも我は今日見つるかも」

はやびとのつかさ

隼人司(名)　兵部省に屬して隼人を管理する役所。

はやびとのまひ

隼人舞(名)　上古雅樂寮にて演せられたる舞曲の名。(紀)

はやひとぐさ

(名)　草の名。書顏の一名。

はやせ

早瀨(名)　早き川瀨。

はやす

囃(他動四段)　〔一〕音樂を奏する。●拍子を取る。〔二〕聲にて音樂の拍子を取る。〔三〕聲を上げて喝采もしくは嘲笑する。〔四〕菜などを刻む。◎庖刀にて敲く音の囃子に似たる故に云ふ。切るさいふを忌み憚りてなり。

はやす

生(他動四段)　生ひしむる。……木草髮髯など。

はやす

(他動四段)　榮あらしむる。●譽むる。●奬勵する。●もてはやす。○源氏「聞きはやすべき人のあるときに」

はやず

早醋(名)　糯粟などにて造れる酢。

はま

濱(名)　海邊湖邊又は河邊の平地。

はまばひぃ 濱這(名) 灌木の名。葉は櫟に似て夏の頃花咲き實は藥用となるもの。●異名は……濱櫟。

はまばた 濱端(名) 濱邊に同じ。

はまばせうぉ 濱芭蕉(名) 草の名。濱木綿(はまゆふ)の一名。

はまにがな 濱苦菜(名) 濱菅菜に同じ。●防風の古名。

はまにんじん 濱胡蘿蔔(名) 草の名。濱芹に同じ。

はまばぉうふう 濱防風(名) 草の名。防風の野生のもの。

はまべ 濱邊(名) 海濱。●海邊。●海岸。

はまぢ 濱路(名) 海邊の道路。(夫木)

はまちどり 濱千鳥(名) 〔一〕濱邊の千鳥。〔二〕文字を云ふ。◎支那にて濱千鳥の砂に附けたる足跡を見て文字を發明せしといふ古事によりて。○古今「忘られん時思へとゞ濱千鳥行くへも知らぬ跡をとゞむる」

はまちりめん 濱縮緬(名) 縮緬の上等なるもの。◎多く江州長濱近傍より產する故長濱縮緬の略。

はまり (名) 〔一〕はまる事。●適當。〔二〕耽る事。●陷る事。

はまる (自動四段) 〔一〕入り込む。●うづまる。●陷る。〔二〕適合する。●適當する。●あてはまる。〔三〕人の計略に罹る。●乘せらるゝ。

はまをぎ 濱荻(名) 〔一〕海邊に生ずる荻。〔二〕蘆の異名。○「物の名も處によりてかはりけり難波の芦は伊勢の濱荻」

濱田(名) 海邊の田。(新撰六帖)

はまた 濱苞(名) 濱よりの土產。○夫木「海士人もおものの濱の濱苞を」

はまづと

はまつちどり 濱つ千鳥(名) 濱千鳥に同じ。(記)

はまづら 濱面(名) 濱の面。●濱。

はまな 濱菜(名) 磯菜に同じ。○萬葉「あごの海の荒磯(ちり)の上に濱菜つむ」

はまなつめ 濱棗(名) 草の名。猿柿(さるかきいぢら)茨に同じ。

はまなっとう 濱納豆(名) 食品の名。遠州濱松(濱名)の名產なる一種の納豆。

はまなし 濱梨(名) 岩梨(いはなし)の一種。

はまなす 濱茄子(名) 草の名。海邊に生じて夏の頃深紅色の花開き茄子の如き實を結ぶもの。

はまぐり 蛤(名) 形、栗の實に似たる故濱栗の意。◎肉味最も美にして祝儀の吸物に用ふるもの。

はまぐりば 蛤刄(名) 刄のなき刀。芝居などにて用ふ

る物。

はまぐるま　濱車(名)　草の名。＝野菊に同じ。又汐風(しほ)とも云ふ。

はまや　濱屋(名)　濱邊の家。○夫木「契あれば鶺の羽葺きける濱屋にも」

はままつ　濱松(名)　濱邊に生ずる松。

はまぶくら　(名)　草の名。猪の尻草の一名。

はまゑんどう　濱豌豆(名)　草の名。豌豆に似て海邊に生ずるもの。

はまて　濱手(名)　濱の方。●濱ある方。

はまぎく　濱菊(名)　草の名。濱邊に生じ秋の末に菊に似たる白き花咲くもの。

はまゆか　濱床(名)　古代貴人の座席。大さ三尺四方高さ一尺程の木を四つ合せて上に疊を一枚敷きたるもの。

はまゆふ　濱木綿(名)　草の名。海邊に生じて葉は萬年青の如く幹は芭蕉の如く幾重も白き薄皮ありて大なるば花の形鬼(ずい)の如く。小なるば幣に似て愛らし。

はまゆみ　破魔弓(名)　正月に小兒のある家に祝ひて贈る玩具の弓。

はまび　(名)　濱邊(はまべ)。(萬葉)

はまびと　濱人(名)　濱に住む人。●漁夫。●海士。

はまびさし　濱庇(名)　海邊の家。●海士の家。○續後撰「都人沖つ小島の濱びさし久しくなりぬ逢はぬ思ひ」

はまびめ　濱姫(名)　濱邊の女。○夫木「秋風の吹出の濱の濱姫は夜寒になれや衣かたしく」

はまびし　濱菱(名)　草の名。海邊に生じて夏黄色の花咲き。菱の如き實を結ぶもの。

はまも　濱藻(名)　海草の名。＝莫鳴菜(なのりそ)に同じ。

はまぜり　濱芹(名)　草の名。海邊に生じて秋白き花咲く物。

はますどり　濱洲鳥(名)　水鳥といふに同じ。(萬葉)

はますがな　濱菅菜(名)　草の名。防風の一名。(和名抄)

はますけ　濱菅(名)　草の名。菅に似て小さく黄なる花咲くもの。根は藥用とし香附子と云ふ。●異名は……香附子。●莎草。

はますずめ　濱雀(名)　鳥の名。鶺鴒の異名。

はけ　刷毛(名)　〔一〕毛を櫛のやうに繁く並べて作れるもの。漆、澁、糊などを塗るに用ひ。又畫たかく筆の一種としても用ふ。〔二〕男髭の

前の端。

はけ 通(名) 流通のよき事。○「水ばけよし」「品物のはけ口」

はげ 禿(名) 〔一〕髮の剝ぐる事。〔二〕又其はげたる所。〔三〕又其はげたる人。

はけ 剝(名) 塗物などの剝ぐる事。又剝げたる所。

ばけ 化(名) 化ける事。

はげいとう 葉鷄頭(名) 草の名。鷄頭の一種にて花なく葉の美しきもの。秋の半頃或は黄に或は紅に或は紫に或は蔦色に變色す。其紅なる一種を歴來紅と云ふ。

はけん 派遣(名) 場所をそれ〳〵に配當して送り遣はす事。△(動)―派遣す。

はげむ 勵(自動四段) 氣を振り起す。●勇氣を出だす。●奮發する。

はけくち (名) 〔一〕水のはける道。〔二〕商品の賣口。

はげます 勵(他動四段) 勵ましむる。●奮勵する。●激せしむる。

はげあたま 禿頭(名)(はんあたま)(はんとう) 禿げたる頭。●老人の頭。●藥罐頭。

はけめ 刷毛目(名) 塗りたる物にあらはれたる刷毛の痕。

はげみ 勵(名) 勵む事。●奮發する事。

はげし 烈(形。形狀言シク活) 勢の盛なる有樣。●強し。●するどし。

ばけんじょ 馬見所(名) 競馬を見る爲に建てたる家。

ばけもの 化物(名) 狐狸などの化けたる物。●異形(いぎやう)のもの。●妖怪。●變化(へんげ)。●妖魔。●おばけ。

はふ 霸府(名) 幕府に同じ。

はふ 搏風。破風(名) 家の棟の兩端三角形をなす所。

はぶ (名) 雲母の一種。黑くして青みあるもの。

はぶ 波布(名) 琉球産の蛇にて毒の最も甚しきもの。

ばふ (他動四段) 奪ふの略。(宇治)

はふに 白粉(名) 古代用ひたるおしろい。○榮花「怪しき樣したる女ども黑搖練きせてはふにといふものぬりつけて鬘せさせて」

はふり 祝(名) 神に奉仕する人。●神官。●神主。

はぶり 羽振(名) 〔一〕鳥の羽を振る事。=はぶきに同じ。○萬葉「はぶりに散らす藤浪の」〔二〕鷹にいふ詞。●羽の振り。●羽の恰好。

はぶりわざ 葬(名) 葬り。●埋葬。●葬送。

(名) 葬送の儀式。

はぶりつもの　（名）　葬式の用具。（記）

はふりこ　親子（名）　（一）神に奉仕する男。　はふりに同じ。（二）神に奉仕する女。●みこ。

はふる　（自動下二段）　捨たりものになる。●落ちぶる。●零落する。●漂泊する。○大和「親なくなりてさむくはふれて」

はふる　（他動四段）　投げ捨つる。●投げ散らす。●放逐する。

はぶる　葬（他動四段）　葬る。●葬送する。●埋葬する。（雅）

はぶる　羽振（自動四段）　羽を振る。　はぶくに同じ。

はふたつ　葉二（名）　古代の横笛の名。鬼笛とも青葉とも名づくるもの。

はぶたへ　羽二重（名）　絹織物の名。糸細くして光澤ある物。

はふらかす　（他動四段）　投げ出す。●ほうりだす。●投げ捨つる。○源氏「命をもみづから捨てつべく野山の末にはふらかさんに」

はふらす　（他動四段）　はふらかすに同じ。○六帖「身は捨てつ心をだにもはふらさじ」

はふん　馬糞（名）　馬の屎。

ばふんし　馬糞紙（名）　（一）塵など交りたる下等の唐紙。（二）洋紙の最下等にて鼠色なるもの。紙箱の心などに用ふ。

はぶく　省（他動四段）　減す。●除き去る。●略す。

はぶく　（自動四段）　羽を振る。●羽ばたきする。○躬恒集「羽根うちはぶき飛びすぎて」

はぶさ　羽總（名）　翼。○謡曲「けしきだつなり雲鳥の羽總をたゝむ綾となす」

はぶき　省（名）　はぶく事。●省略。●減省。

はぶき　（名）　鳥の羽を振る事。●羽ばたき。○好忠集「水鳥の羽ぶきやたゆきさゆる夜の池の汀になく聲のする」

はぶし　羽節（名）　鳥の羽茎。

はこ　箱。筥（名）　物を納るゝ器の蓋あるもの。

はこ　（名）　大便の異名。○「世の中は食ひてはこして寢て起きてさて其次は死ぬるばかりぞ」

はご　羽子（名）　少女の玩具の名。木變子の實に鳥の羽を附けて正月突き遊ぶもの。●はね。

はご　（名）　小鳥を捕るため竹の細串また木の枝に黐を附けたるもの。

はごいた　羽子板（名）　手に持ちて羽子を突く板。

はごろも　羽衣(名)　〔一〕天人の衣。之を着れば翼の作用を爲して飛行自在なりと想像せしもの。〔二〕鳥または蝶の翼を衣に見たてゝいふ。●羽袖

はこべ　蘩蔞(名)　草の名。葉は圓形にして小さく。春の頃白き花咲くもの。春の七草の一つ。●はこべら。●はくべ。

はこべら　蘩蔞(名)　草の名。—はこべに同じ。

はこどり　箱鳥(名)　顏鳥に同じ。○六帖「深山木に夜ふ來て鳴くはこどりの」

はこぢゃうちん　箱提灯(名)　小田原提灯の形にて遙に大きく張のある提灯。

はこがた　筥形(名)　裝束の模樣の名。四角の中に草木の花又は葉などを折り曲げて畫がきたるもの。

はごたへ　齒答(名)　物を嚙む時齒に障るやうの感じ。ぎしぎしする事。

はごね　(名)　齒黑めに同じ。●おはぐろ。○謠曲「女なれどもはごねた附けず」

はこねぐさ　箱根草(名)　草の名。葉は銀杏に似て小さく。秋に至りて葉裏に粒の如き花咲くもの。◎相州箱根山に多くある故の名。

はかう　八講(名)　(他動四段)　はっかうに同じ。

はぐくむ　はぐくむに同じ。

はくや　箱屋(名)　〔一〕箱を造る職工。又は賣る家。〔二〕三味線箱を持ちて藝妓の供する男。

はくや　藐姑射(名)　〔一〕莊子に「藐姑射の山に神人あり」とあるより出でゝ支那人の想像せし仙人の住む山の名。〔二〕仙洞御所を云ふ。○「はこやのやま」「はこやのみね」

はこやなぎ　箱柳。白楊(名)　草の名。野山に生じて葉は鋸葉を爲し春の頃柳に似たる花咲くもの。柳行李又は楊枝に造る。

はこやのどじ　(名)　古代物語の名。(源氏)

はこまくら　箱枕(名)　箱の如きもの上に小枕を載せたる枕。

はこぶ　運(自動四段)　はかどる。●進行する。

はこぶ　運(他動四段)　物を此處より彼處に移す。●運搬する。●運送する。

はこぶね　箱船(名)　〔一〕箱の形したる粗造の小船。流失の用ふるもの。〔二〕太古世界大洪水の時。諸蛮といふ人其一族と數種の動物とを載せ

て難を免かれたる方形の舟。

はごし　葉越(名)　草木の葉を隔てたる事。其透間より彼方の物の見ゆる事に用ふ。○新古今「和歌の浦を松の葉越にながむれば梢によする海士の釣船」

はこび　運(名)　運ぶ事。●手順。●足順。●速度。

はごも　葉菰(名)　未だ蓮に編まざる菰の葉。(散木)

はえ　鮠(名)　川魚の名。鮎に似て小さきもの。土地によりはやともはいとも呼ぶ。

はえ　蝕(名)　日蝕また月蝕。(古)

はえ　(名)　南の風。

はえ　生(名)　木、草、毛などの生ゆる事。

はえ　映(名)　つや。●かひ。●できばね。○枕「露のはえもみねぬに」

はゑ　破壞(名)　破るゝ事。△(動)ー破壞す。

はへ　蠅(名)　虫の名。夏の初め蛆虫より羽化する六脚二翅の小虫。食物又は顔手足などにとまりて人に嫌はるゝもの。

はへばらひ　蠅拂(名)　僧侶の用具。拂子に同じ。

はえばえし　(形。形狀言シク活)　物の映えて見ゆる有樣。●かひ〳〵し。●つや〳〵し。●ばれ〳〵し。

はへとり　(名)　はへとりぐもの略。

はへとりばな　蠅取花(名)　草の名。深山の濕地に生する食虫植物。葉の緣に觸鬚ありて粘液を分泌し。蠅蜻蛉の類を捕へて同化せしむるもの。●異名は……蠅取草。●石持草。

はへとりむし　蠅取虫(名)　虫の名。螳螂の一名。

はへとりぐも　蠅取蜘蛛(名)　蜘蛛の一種。壁の間に潜み蠅を捕りて食ふもの。

はへちやう　蠅帳(名)　夏の間食物に蠅を防ぐため周圍を紗などにて張りて作りたる置戸棚。又食物の上にかぶせおくもの。

はえつく　蝕蒸(自動上二段)　日蝕月蝕皆既となる。(紀)

はへぎ　榛(名)　垂木に同じ。

はえぎは　(名)　髮の毛と顔との境目の處、けぎは。

はて　八手(名)　稻麥など掛けて乾す垣。柱を入れちがへにして作れるものといふ。○好忠集「山賤のはてに刈りほす麥の穗の」

はて　(名)　〔一〕終り。●しまひ。●終結。●結局。〔二〕忌服の終の日。四十九日または一周忌。〔三〕國司任限の滿期。

はて (感) 怪しむ時。訝る時。疑ふ時などに發する聲。○「はてな。間違ったか知らぬ」

はで (名) 華美。❀だて。△(形)—はでなる。(副)—はでに。

はでやかなる (形) はでなる有樣。△(副)—はでやかに。

ばてい 馬丁(名) (一)荷馬の口取。❀馬方。(二)乘馬の別當。

ばてい 馬蹄(名) 蹄の名。

はてばて 果々(名) 果の果。❀とゞのつまり。○古今「世の中をかくいひ〳〵のはてぐはいかにやいかにならんとすらん」

はてがた 果方(名) 終りに近き頃。○宇治「日暮れて事やうやうはてがたなる夕ぐれに」

ばてれん 伴天連(名) 葡萄牙語の父の意。(一)昔し切支丹宗の宣教師を稱へたる詞。(二)切支丹宗。

はてつかた 果つ方(名) はてがたに同じ。○狹衣「念佛の回向はてつかたは」

はてな (感) はてに同じ。❀疑ひ訝る時の聲。

はてなし 果無し(形。形狀言ク活) あてどのなき。❀やみどなし。❀際限なし。○拾遺「かぎりあれば今日ぬぎすてつ藤衣はてなきものは涙なりけり」

はてのとし 果の年(名) 一周忌。(雅)

はてのを 果の緒(名) 箏の第十三絃にあたる巾の糸。

はてのわざ (名) 一周忌の佛事。(雅)

はてのつき 果の月(名) 一年の終の月。十二月。(蜻蛉)

はてのこと 果の事(名) 四十九日または一周忌の佛事。

はてし 果(名) 果に同じ。❀際限。○「果しがつかぬ」

ばわひイ 場合(名) 丁度その場に出くはしたる時。❀機會。❀をり。

はあり 羽蟻(名) 蟻に似て四枚の羽を持つもの。

ばさ 婆娑(形) 物の散り亂れたる有樣。❀舞まふ袖の翻る有樣。△(又)—婆娑と(副)—婆娑たる。

はさむ (他動四段) (一)(挾)物を間に入るゝ。❀箸の類にて物を持ち支ふる。(二)(剪)剪にて切る。(三)(挿)物を物の中に指し込む。

はさん 破産(名) 身代を持崩す事。❀身代限の處分を受くる事。❀分産。△(動)—破産す。

はさん 破算(名) 數を置きたる算盤珠を崩す事。△(動)—破算す。

はさんばこ　挟箱(名)　はさみばこの轉。

はさんばこかぜ　挟箱風(名)　病の名。耳の下又は頤の下の腺の腫るゝ病。

はざくら　葉櫻(名)　花の散りて葉のみになりたる櫻。

はざま　挟間(名)　〔一〕物と物との狹き間。●あはひ。○源氏「簾のはざまに入りたまひぬ」謠曲「岩のはざまに流れかゝつて」〔二〕谷。

はさまる　挟(自動四段)　物と物との間になる。

はざめ　(名)　狹間(はざま)に同じ。

はざみ　剪。鋏(名)　〔一〕物を挟み切る道具。〔二〕剪の如き働を爲すもの。○「蟹のはざみ」

はざみいた　挟板(名)　〔一〕物を挟む板。多くは紙類書物など挟むに用ふ。〔二〕門の兩袖。

はざみばこ　挟箱(名)　棒を貫きて肩に擔ふ箱。儀式とせば德川時代六名の行列に用ひたるもの。其格式により片箱、對箱、跡箱等の別あり。今も地方の婚禮などには必要の道具となる。

はざみばこ　剪箱(名)　剪を入るゝ箱。(うたゝねの記)

はざみだけ　挟竹(名)　板と板との間に衣類などを挟みて竹にて締め付けたるもの。昔し外出の時僕に擔はせて持たせ行く道具。

はざみむし　挟虫(名)　虫の名。六足にして背は黑く尾に剪の如きものある虫。

はざみうち　挟擊(名)　敵を中にして前後又は左右より攻擊する事。

はざみしゃうぎ　挟將棋(名)　將棋の一法。互に駒を挟みて取るを目的とし多く取り得たるを勝とする遊戯。

はさす　馳(他動下二段)　馳せさすの略。●馳せしむる。○萬葉「さゝれ石に駒を馳させて」

はさ　霸氣(名)　霸王となるべき氣。●自ら物の頭領とならんとするの野心。

はき　吐。嘔(名)　口より吐き出だす事。

はぎ　萩(名)　〔一〕灌木の名。根より幾本も叢生して長く垂れ秋に至りて紅、白、紫等の小さき花咲くもの。……夏咲くのを早萩(わさはぎ)といふ。○「秋萩」「初萩」「糸萩」「村萩」「眞萩」「白萩」〔二〕重れの色目の名。表蘇枋、裏青。

はぎ　脛(名)　臑(すね)に同じ。膝より下踝(かゝと)より上を云ふ。

はぎ　(名)　榛木(はしのき)の略＝榛(はし)に同じ。

はぎ　(名)　〔一〕はぎあはせする事。〔二〕はぎあはせたる

はきはき　所。（俗）

（副）　はっきりと。●明かに。（又）―はきく

と。

はぎにあぐ

（句）　〔一〕裾をかゝぐる。〔二〕物を斯くと人にあらはして見する。○古今「いつしか

とまたく心をはぎにあげて天の河原をけふ

やわたらん」……此歌は〔一〕と〔二〕と兼ね

いへるなり。

はきと

（副）　はっきりと。●判然と。●分明に。●慥

に。

はぎり

齒切（副）　齒ぎしりに同じ。

はぎぬ

被衣（名）　馬に着する衣。

はぎがさね

萩重（名）　重の色目の名。＝萩に同じ。

はきゃうキョウ

破鏡（名）　〔一〕割れたる鏡。〔二〕夫婦の離別する事。◎支那にて陳の亡びし時。德言といふ人妻と別るゝとて鏡を二分して互の形見とせし古事より起る。

はげふギョウ

覇業（名）　覇王の業。

はぎゃうギョウ

波行（名）　五十音にてはひふへほの音の稱へ。

はぎだか

脛高（名）　脛の高くあらはるゝやうに衣を着る事。●つんつるてん。△（形）―はぎだかなる。○盛衰「薄墨の衣の脛高なるをぬぎて。（副）―はぎだかに。○盛衰「五尺ばかりなる法師の脛高にかかげたるが」

はきだめ

掃溜（名）　芥溜に同じ。●塵塚。

はきぞへ

佩添（名）　太刀に添へて佩く小刀。○謠曲「はきぞへの小太刀を衣に引きかくし」

はきぞめ

掃初（名）　新年に入りて初めての掃除。

はきのと

萩戸（名）　昔し天皇の常にまします御殿の名。清涼殿の西の部分にて御庭に萩を植ゑられたる故に云ふ。○續千載「萩の戸の花の下なる御河水千年の秋の影そうつれる」

はきのえん

萩宴（名）　萩の花見の酒宴。（源氏）

はきのあそび

萩遊（名）　萩の花見。（萬葉）

はきのもち

萩餅（名）　炊きたる餅米を丸く握りて餡又は黄粉を付けたるもの。●お萩。●牡丹餅。

はきゃく

馬脚（名）　馬の足。

はきゃくす

破却（他動サ變）　破る。

はきやき

萩燒（名）　陶器の一種。長州萩の城下松本村より產するもの。

はきあそび

萩遊（名）　萩の花見。（夫木）

はきき

羽利(名)　鷹に云ふ詞。羽振のよき事。

はきふす

波及(自動サ變)　波の打ちゆく如く段々に行き及ぼすを云ふ。●影響をあらはす。

はぎみ

萩見(名)　萩の花見。

はぎしり

齒軋(名)　齒を嚙み合せて音を立つる事。

はぎしめ

(名)　齒ぎしりに同し。

はきもの

履物(名)　下駄、草履、靴などの總名。

はゆ

生(自動下二段)　延び出る。……草、木、毛、齒などが。

はゆ

映(自動下二段)　物に光の映り合ひて美しく見ゆる。●反射す。●つや〳〵と見ゆる。○枕「濃き衣のいとあざやかなるつやなど目にはゆて」

はゆ

蝕(自動下二段)　日蝕する。又月蝕する。

はゆま

驛馬(名)　早馬の約。◎宿驛を往來する官の馬。印に鈴をつけたるもの。●早馬。●傳馬。

はゆまぢ

驛路(名)　驛馬の通路。●驛道。

はゆまづかひ

驛馬使(名)　驛馬に乘りて行く官の使者。

はゆし

映(形。形狀言ク活)　映ゆる有樣。●おもはゆし。

はゆ

羽目(名)　家の壁の處に板を竪に張りたるもの。

はめつ

破滅(名)　やぶれほろぶる事。△(動)—破滅す。

はみ

(食)　蛇の一種。まむし。(和名抄)

はみ

食(名)　〔一〕馬の轡の口に當るところ。〔二〕荒馬を鎭むるため繩又は布などを其口に縛り附くる事。

はみがき

齒磨(名)　齒を磨く粉。

はみがきやうじ

齒磨楊子(名)　齒を磨くに用ふる竹、木、象牙等の楊子。……小楊枝に區別して云ふ。

はみだす

食出(自動四段)　挾み口より物の漏れ出づる。

はみの

羽簑(名)　鳥の羽にて作れる腰簑。能樂にて鳥の幽靈などが着くる裝束の一つ。

はし

橋(名)　一方より他方に掛け渡して其上を往來するもの。○「板橋」「石橋」「土橋」「柴橋」「棚橋」「舟橋」「大橋」「小橋」「高橋」「反橋」「太鼓橋」

はし

階(名)　きざはし。●上り段。●梯子段。

はし

箸(名)　食物を挾む二本の棒。○「木箸」「竹箸」「眞魚箸」「菜箸」「白箸」「塗箸」「割箸」「丸箸」

はし

嘴(名)　鳥の口に附きたる角質のもの。●くちばし。

はし

端(名)　物事の始。又は終。●緣(ふち)。●緣(へり)。〔二〕全

體中の僅の部分。❀一端。❀一片。○枕「經のはし打ち讀み」

はし 愛(形。形狀言シク活) 可愛し。❀あいらし。❀いとほし。○萬葉「はしきわがせこ」

はじ 櫨(名) 〔一〕木の名。漆の一種にして春夏の頃白色にて小さき花咲き葉は秋に至り美しき紅葉をなすもの。其實は蠟に取られ幹は染料に用ひらる。❀異名は……はぜ。❀はにし。❀山漆。❀蠟の木。❀櫨漆。〔二〕染色の名。黄に赤みある色。❀紅樺色。❀櫨色。

はじばし 土師(名) 土師に同じ。

はしゐ (後) をばの意に用ふ。○謠曲「夢ばしさまし給ふなよ」

端居(名) 家の外近き處に居る事。❀椽端に座する事。

はじいろ 櫨色(名) 染色の名。……はじの〔二〕を見よ。

はしいた 橋板(名) 橋桁の上に並べ敷きたる板。

はじろ 端城(名) 枝城。❀砦。

はしばるぼし 端芝烏帽子(名) 折烏帽子の一種。〔圖〕

はしばこ 箸箱(名) 箸を入るゝ箱。

はしばみ 榛(名) 木の名。冬落葉して春黄色の花咲くもの。實は芝栗に似たり。

はしばみ 端食(名) 板の反りを防ぐため其端の處に他の木を箝め込む事。

端々(名) 物の片端。❀入口。

はしばし 橋柱(名) 橋杭に同じ。

はしばしら 櫨匂(名) 鎧の縅毛の一種。全體を櫨色の糸にて縅し。袖と草摺とは上の方を櫨色にして段々に下になるほど色薄く黄にして終には白きに至るもの。○平治「左衛門佐重盛は生年二十二。今日の軍の大將なれば。赤地の錦の直垂に櫨匂の鎧」

はじにほひ 背細烏(名) 通常の烏。……背太烏に區別して云ふ。

はしぼそからす

はしどの 橋殿(名) 水の上に橋の如く造り掛けたる家。○夫木「橋殿の槇の板橋」

はじとみ 半蔀(名) 下部は板張にして上半分を蔀にしたる窓。半窓の類。○源氏「半蔀はおろしてけり。ひまびまより見ゆる火の光り螢よりけにほのかにあはれなり」

はしぢか 端近(名) 家の入口に近き所。❀外に接した

はしり

る場所。

走(名)　〔一〕走る事。〔二〕使などする下男。●小使。●小走り。〔三〕魚類野菜などの初物。

はしりいで

走出(名)　家より走り出らるゝ程の近き處。●門前くらゐの近邊。○萬葉「あをばたのおさかの出は走出のよろしき山の」

はしりぢゑ

走智慧(名)　出過ぎ。●ちょこざい。△(形)はしりぢゑなる。○狂言「又はしりぢゑなやつの」

はしりわらはゥ

走童(名)　走り廻りて御用を勤むる童男。……延喜式齋王の御供の中に此名見ゆ。

はしりがさ

走笠(名)　走衆の着る笠。

はしりがき

走書(名)　文字を早く書く事。●早がき。

はしりづかひィ

走便(名)　〔一〕此處より彼處へと馳せ廻る使者。〔二〕走便を役とする下男。

はしりうま

走馬(名)　〔一〕走る馬。〔二〕競馬に同じ。〔三〕走り馬の如く速き事。

はしりくらべ

競走(名)　競走。●かけくら。

はしりまごふゥ

(自動四段)　あわて走る。

はしりで

走出(名)　はしりいでに同じ。○萬葉「携へて我二人見し走出の堤に立てる槻の木の」

はしりあふゥ

走逢(自動四段)　走りついて出逢ふ。

はしりゆ

走湯(名)　走り出づる湯。●出で湯。●温泉。○永久百首「ましらゝの濱の走湯浦さびて今は御幸の影もうつらず」

はしりしゅう

走衆(名)　昔し將軍他行の時その道筋の警固などする役の名。今の巡査に似たり。

はしりび

走火(名)　飛び撥ねる火。

はしりずゐかん

走水干(名)　走り廻るに便利なるやう出で立ちたる水干着用の一法。但し水干の着方常の如くにて袴の括りを高く上げ足には沓を履かずして藁鞋をはきたるもの。

はしりずみ

走炭(名)　撥ねる炭。

はしぬひィ

端縫(名)　端縫に同じ。

はしる

走(自動四段)　〔一〕疾く歩む。●かける。●わしる。●馳する。〔二〕何事にても走る如き働を爲す。●走りいづる。●走り進む。○「水走る」「車走る」「筆走る」「胸走る」〔三〕敏捷なる働を爲す。「才走る」「智慧走る」

はしわたし

橋渡(名)　媒介。●中立。●紹介。

はしか

麻疹(名)　病の名。肌に赤き瘡を生じ發熱する傳染病。又ましんとも赤もがさとも云ふ。

はしか

芒(名)　麥などの芒。

はしがかり

橋掛(名)　能樂の樂屋より舞臺へ出つる橋の如き路。昔は後面に眞直に附き居たりしが今は左の方に斜に設く。其欄干の外には松を植うる法にて之を一の松、二の松、三の松などゝ呼ぶ。

はしがくし

階隱(名)　階の上に掛け出したる庇。○源氏「はしがくしのもとの紅梅」

はしがくしのま

階隱間(名)　はしがくしの下に作りたる室。(今昔)

はしがき

端書(名)　〔一〕書物の序。〔二〕消息文の端に書き添ふる尙々文かへすゞ〳〵以下の文の類

はじかみ

(名)　〔一〕(椒)山椒の種類の總名。(古)〔二〕(薑)生薑。

はじかみうを

(名)　魚の名。山椒魚の古名。(和名抄)

ばしょ

塲所(名)　其在り所。●塲席。●位置。

はしる

端折(他動四段)　端折るの約。〔一〕衣類の裾の端を折りて帶に挾む。〔二〕物事を省きてする。(俗)

はしゃう

八省(名)　八省院の略。●大極殿。○源氏「ばしゃうに立て續けたる出だし車どもの」

ばせう

芭蕉(名)　草の名。熱帶植物にして葉葉共に大きく。數年を隔てゝ花咲き實を結ぶ其味美なり。但我國に植ゑたるものは花實極めて稀なり。

ばしゃう

馬上(名)　ばしゃうの古代の發音。

ばじゃう

馬上(名)　〔一〕馬の上。〔二〕馬に乘る事。〔三〕馬に乘り居る事。

ばせうば

芭蕉葉(名)　芭蕉の葉。

ばじゃうぢゃうちん

馬上提灯(名)　馬上にて用ふる提灯。笠ありて丸く。腰に差すために長き柄を附けたるもの。

ばじゃうぐつ

馬上沓(名)　古代軍人乘馬の時の沓。革にて作り爪先に襞をとり黑漆にて塗りたるもの。

ばせうふ

芭蕉布(名)　芭蕉の纖維にて織りたる布。

はしゃうふう

破傷風(名)　病の名。怪我などの傷により起る烈しき病。

はした

(名)　〔一〕中途半端。〔二〕奇數。〔三〕割殘りの數。●餘分。●餘りもの。〔四〕はしたものゝ略。下女。

はしたわらは

(名)　召仕の童女。

はしたか 鷂(名) 鷹の一種。小にして能く小鳥を捕るもの。

はしたがね (名) 纏まらぬ金。●僅の金。

はしたなむ (他動下二段) はしたなき目に逢はせる。○源氏「中將をいたくはしたなめてわびさせ給ふつらさを」

はしたなゝう (副) はしたなくの音便。

はしたなし (形。形狀言ク活) どちつかずに。●よるべなし。●よるべなきにも拘はらず。●都合のわるい。●つきのわるい。●きまりがわるい。●不恰好な。○枕「あばれとは聞きながら涙のふっと出でこぬ。いとはしたなし」源氏「少し彈くに松風はしたなくひゞきあひたり」

はしだて 梯立(名) 高きに昇るため階子を立つる事。

はしため (名) はしたものに同じ。●下女。

はしたもの (名) 召仕の女。●下女。●はしため。●はした。

はしたぜに (名) はしたがねに同じ。

はしつぼね 橋局(名) 橋傾城(はしげいせい)に同じ。

はしつくり 橋作(名) 橋を造る大工。

はしづくり 端作(名) 和歌の端書(はしがき)。

はしづま 愛妻(名) はしきつまの略。●最愛の妻。(古)

はしづめ 橋爪(名) 橋に掛らんとする處。又渡り果てたる處。●橋の袂。

はしなく 端無く(副) 不圖。●意外にも。

はしら 柱(名) (一)建物の内外に直立して梁、天井などを支ふる木。(二)これと同じやうの形もしくは働を爲すもの。○「橋柱」「霜柱」(三)柱は家屋の固めとなるものゆゑ。◎物事の固めとなるもの。○「國の柱」「心の柱」(四)貝の柱の略。

はしら 柱(名) 神佛又は高貴なる人を數ふる時の敬語。○「三柱の神」「皇子一柱まします」

はしらどけい 柱時計(名) 柱などに懸くる時計。●掛時計。●クコック。

はしらぬき 柱貫(名) 家の柱の上を貫く横木。

はしらがくれ 柱隱(名) 柱に隱されて見ねぬ處。●柱の陰。○源氏「柱がくれに少しそばみ給へりつるを」

はしらかくし (名) 室内裝飾の具。多くは板にて作り書畫などかきて柱に掛くるもの。●柱掛。

はしらかけ ㊀聯。

はしらかし 柱掛(名) 柱隱に同じ。

はしらかす (名) 白米をとぎたる水。㊀白水。

(他動四段) 走らしむる。(徒然)

はしらよせ 柱寄(名) 柱貫の一名。

はしらだな 柱棚(名) 船の帆柱にある横木。

はしらだて 柱立(名) 家屋建築の時最初に柱を立つる儀式。

はしらまき 柱卷(名) 能樂の所作の稱へ。道成寺の蛇體に爲りたる役者が舞臺の柱に卷き附くやうの形を爲す事。

はしらごよみ 柱曆(名) 柱などに張り附くるやうに出來たる一枚の曆。

はしらびき 柱引(名) 船の帆柱を引き起す綱。

はじむ 始。初。創(他動下二段) 物事を新に起す。

はしうら 橋占(名) 橋の上に出でゝ通行する人の事に就きて判斷する一種の占。……盛衰記に曰く「中宮御產の氣おほしますとのゝしりけり。云々。二位殿心苦しく思ひ給ひて一條堀川戾橋にて。橋より東のつめに車を立させ給ひて。橋占をぞ問ひ給ふ。十四五ばかりのかぶろなる童の十二人。西より東へ向てはしりけるが。同音に揚は何揚國王揚。八重の汐路の涙の寄榻。と四五返うたひて橋をわたり。東をさして飛ぶがごとくしてうせにけり。云々。皇子にておはしまし候ふべし。めでたき御占にこそ候へとゞあはせけるる。八歳にて壇の浦の海に沈み給ひしこそ。八重のしほぢの涙のよせしちも思ひしられ給ひけるる。一條戾橋といふはむかし安部晴明が天文の淵源をきはめて。十二神將をつかひにけるが。其妻職神のかほにおそれければ。かの十二神を橋の下に咒しおきて。用事の時は召つかひけり。是にて吉凶の橋占をたづねとへば。必ず職神人の口にうつりて善惡をしめすと申す。」

はしのつめ 橋の爪(名) はしづめに同じ。

はしのこ 階子(名) 階の一つ〳〵の段をいふ。(著聞)

はじく 彈(他動四段) 屈めて急に伸ばす。㊀撥ね返す。㊁撥ね飛ばす。㊂受け付けぬ。㊃惡をあばき訴ふる。

はじく 彈(自動下二段) 彈くやうの働をおのづから爲

す。●撥ねもどる。

はしぐひィ 橋杭(名) 橋を支ふる柱。●橋の足。

はしくやョう 橋供養(名) 橋の工事の終りたる時。祝のために佛事施行を爲す事。

ばしゃ 馬車(名) 〔一〕馬に挽かしむる事。〔二〕馬と車と。

はじまり 始。初(名) 最初。●起原。●發端。●初發。●嚆矢。●權輿。●濫觴。

はじまる 始。初(自動四段) 物事の新に起る。

はしけ (名) はしけぶねの略。

はしけいせい 橋傾城(名) 夜中橋の上に立ちて客を呼ぶ遊女。辻君の類。

はしげた 橋桁(名) 橋板を支ふる桁。

はしけやし (形) はしきよしの轉。○萬葉「はしけやし我脊の君を」

はじけまめ (名) 煎りてはじけさせたる豌豆又は蠶豆。

はしけぶね (名) 親船に屬する小舟。●傳馬。●端船。

はしぶとからす 背太烏(名) 鳥の名。烏の一種にして其背太く山に住むもの。

はしぶね 端船(名) 小舟。○宇治「はしぶねにて商ひしけるものども」

はしご 梯子。階子(名) 高き處へ登るに用ふる段階。

はしことば 端詞(名) 詩歌などの前書。●小序。

はじき 彈(名) 遊戯の名。〔一〕彈碁に同じ。〔二〕さしやごはじき。●おはじき。

はじき 彈(名) 〔一〕彈く事。〔一〕彈くやうに出來たる仕掛。

はしきよし (形) よしは助辭にてはしきに同じ。●愛らしき。●可愛き。●最愛の。○萬葉「はしきよし妹を逢ひ見ず」

はしつ 派出(名) 方角々々に人を分けて出し遣はす事。△(動)—派出す。

ばじつ 馬術(馬) 乘馬の技術。

ばじつし 馬術師(名) 馬術にすぐたる人。

はしつじょ 派出所(名) 派出して行く場所。……今はおもに巡査の交番所を云ふ。

はじゅん 波旬(名) 梵語。惡魔に同じ。

はじゆみ 櫨弓(名) 櫨の木にて造れる弓。我國古代に用ひられたるもの。

はじめ 始。初(名) 最初の時。●當初。●始まり。●發端。

はじめ 始。初(副) 〔一〕最初に。〔二〕始として。○「教

師をはじめ生徒の末に至るまで」、

はじめつかた 初つ方(名)　最初の頃。

はじめなきつみ 無始罪(名)　始は無かりし罪科の意。○散木「はじめなき罪のつもりのかなしさを」(佛教)

はじめのはる 初の春(名)　初春(はつはる)に同じ。(千載)

はじめのとし 元年(名)　ぐわんねんに同じ。〔一〕天皇御即位の年。〔二〕年號の改まりたる年。

はじめのなつ 初の夏(名)　首夏(しゅか)に同じ。(躬恒集)

はじめのふゆ 初の冬(名)　初冬(しょとう)に同じ。(躬恒集)

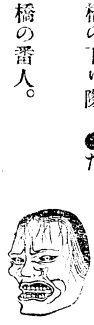
はじめのあき 初の秋(名)　初秋(はつあき)に同じ。(躬恒集)

はじめて 始。初(副)　〔一〕其時新に。●最初に。〔二〕始として。●第一として。○竹取「親をはじめて何事とも知らず」

はし 齒肉(名)　齒茎。

はしじま 端島(名)　端なる島。(盛衰)

はしひめ 橋姫(名)　〔一〕山城の宇治川の橋の下に居給ふ女神の名。我戀ふる女の事などによそへてよめる歌多し。……顯昭の說に宇治の橋姫とは姫大明神とて宇治の橋下におはする神を申すにや、其神のもとへ離宮と申す神の毎夜に通ひ給ふとて其歸り給ふ時しるしとて、曉毎に宇治川の波のおびたゝしく立つ音のするとぞ申し傳へたる」〔二〕能面の名。嫉妬の女の顏を寫せるもの。(圖)



はしもと 橋本(名)　橋の下り際。●たもと。

はしもり 橋守(名)　橋の番人。

はしせん 橋錢(名)　渡橋錢。

はひ ハイと發音する詞はいの順の處にあり。

はひろ 葉廣(名)　葉の廣き事。△(形)―葉廣の。○夫木「夏ふかみ庭も葉廣の玉柏」(副)―葉廣に。○重之集「いなみ野はむら〳〵見ねし柏木の葉廣になれる夏は來にけり」

はひろがしは 葉廣柏(名)　葉の廣き柏。○新古今「葉廣柏に霰ふるなり」

はびほう 馬尾蜂(名)　虫の名。赤蜂に似て形小さく尾に長き馬の尾のやうなるものを持つ。

はひふう 馬脾風(名)　病の名。ジプテリアの一種にして小兒の多く罹る咽喉病。

はびこる 蔓(自動四段)　生ひ擴がる。●蔓延する。●繁殖する。●增長する。●横領する。

はも 鱧(名) 魚の名。形ち鰻に似たる海魚にて其味亦之に次ぐ。

はも (感) わの部を見よ。

はもり 羽盛(名) 鴨・雉などの類の羽を生きたる如くに作り肉を盛りて出だす料理の名。

はもりのかみ 葉守神(名) 其木に宿りて葉の榮を守る神。……多く柏に云ふ。○枕「柏木いとをかし。葉守の神のますらんもいとかしこし」

はもん 破門(名) 門弟に罪ありて師匠より門下の籍を脱せしむる事。

はもん 波紋(名) 波の綾。

はもの 及物(名) 及のあるもの、總名。……刀劍、小刀、庖刀の類。◆切れ物。

はもの 端物(名) はしたなる物。◆半端物。◆全からぬ物。

はぜ 沙魚(名) 小魚の名。薄黑くして口大きく食用となるもの。

はぜ (名) 木の名。櫨の轉。

はせば 馳場(名) 基督教にて世の中の意に用ふ。希臘カリンピア祭の競走場に喩へたるなり。

はせを 芭蕉(名) ばせうと書くに同じ。(雅)

はせを 芭蕉葉(名) ばせうばに同じ。(雅)

はせん 破船(名) 船の暴風雨などにて破るゝ事。◆難船。

はせん 馬氈(名) 鞍の上に敷く毛氈。◆鞍覆。ハシヨウと發音するものはしの順の處にあり。

はせう 櫨漆(名) 木の名。櫨に同じ。

はせうるし 馳引(名) 馬を馳せ弓を引く事。◆武術の練習。

はせひき

はす 蓮(名) 草の名。はちすの略。

はす 鰣(名) 魚の名。琵琶湖に産するもの。春夏の頃を季節とす。形鮒に似たり。

はす 馳(他動下二段) 走らしむる。

はす 馳(自動下二段) 走る。

はず 弭(名) 弓の上下にありて弦を掛くる處。凸の字の形を爲したり。◆弓弭。

はず 筈(名) 矢の先にありて弓の弦を受くる處。凹の字の形を爲したり。◆矢筈。

はず 筈(名) 筋。◆道理。○「可二罷出一筈の處」

はすいけ 蓮池(名) 蓮の植ゑてある池。

はすいも 蓮芋(名) 野菜の名。芋の一種にして莖に巢

穴のあるもの。

はすに (副) 斜に。●筋違(すぢかひ)に。〔俗〕

はずぢ 蓮痔(名) 痔疾の一種。穴痔(あなぢ)に同じ。

はずを 筈緒(名) 舟の帆柱の上に附くる縄。

はすは (名) 輕薄。●浮薄。○「はすは娘」「はすはもの」

はすかひィよ (副) はすに。●筋違に。

はずむ (自動四段) 勢に乘る。●機會に乘る。●張る。●盛になる。●彈力を發する。

はすのいひィ 蓮の飯(名) 蓮の葉に盛りたる白蒸の强飯。盆の精靈祭に供ふるもの。

はすのはがひィ 蓮葉具(名) 具の名。蛸の枕に同じ。

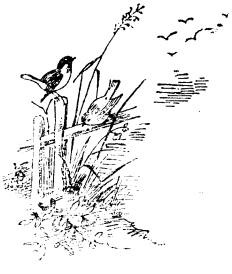
はすのはがさ 蓮葉笠(名) 蓮の葉を笠のやうにして被るもの。小兒の戯にする事なり。

はすのうてな 蓮臺(名) はちすのうてなに同じ。

はずやと 筈矢砥(名) 砥石の名。うはづきどの一名。

はずゑ 葉末(名) 葉の先。

ばすゑ 場末(名) 〔一〕場席の末。●席末。〔二〕都會などの中央を最も遠く離れたる所。

はすめし 蓮飯(名) 〔一〕蓮の葉に包みたる白蒸の强飯。〔二〕蓮の葉を刻みて炊き交ぜたる飯。

はずみ (名) はずむ事。●勢に乘ずる事。●機會に乘ずる事。○「筆のはずみ」「時のはずみ」